

所有ノ軍刀一口(時價約七十圓)ヲ竊取シ

第三、同年七月十日午前三時頃竊盜ノ目的ヲ以テ公文春子カ賃借居住セル同市港區湊屋町二丁目七番地湊莊アパート東館階下二十一號室ニ忍入り其ノ片隅ニ置キ在リタル茶箆筒内ヨリ右公文春子所有ノ現金四十一錢ヲ竊取シタル上室外ニ退去セントシタル際偶々就寢中ノ右春子カ寢返リヲ爲スヤ同人ニ於テ覺醒シタルモノト思惟シ此ノ儘放置セハ同人ニ依リ隣室ノ居住者等ニ救助ヲ求メラレ其ノ結果逮捕セラレ、コトヲ虞レ之ヲ免ル、目的ヲ以テ其ノ場ニ在リタル空ビール壘ニテ無抵抗ナリシ同人ノ頭部ヲ一回強打シ因テ其ノ顛頂部ニ長サ四種深サ骨膜ニ達スル治療日數約四十日ヲ要スル打撲挫創ヲ加ヘ

タルモノニシテ右第一及第三ノ住居侵入及第一第二ノ竊盜第三ノ竊盜逮捕ヲ免ル、目的ヲ以テ人ニ暴行ヲ加ヘ因テ傷害シタル所爲ハ何レモ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

(證據說明省略)

而シテ被告人ハ昭和八年七月十二日大阪區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役一年以上三年以下ニ(但シ昭和九年勅令第十九號ニ依リ懲役九月十日以上二年三月以下ニ變更)昭和十一年三月二十日同區裁判所ニ於テ同罪ニ依リ懲役三年ニ處セラレ何レモ其ノ當時刑ノ執行ヲ受ケ了リタルモノニシテ該事實ハ被告人ノ當公延ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ據リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中(イ)第一及第三ノ住居侵入ノ點ハ刑法第三百三十條ニ(ロ)第一第二ノ竊盜ハ同法第二百三十五條ニ第三ノ竊盜逮捕ヲ免ルル目的ヲ以テ人ニ暴行ヲ加ヘ因テ傷害シタル點ハ同法第二百三十八條第二百四十

條前段ニ各該當スルトコロ右(イ)(ロ)ハ手段結果ノ關係(但シ第二ノ竊盜ヲ除ク)ニ在リ且夫々連續犯ナルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第五十五條第十條ヲ同時ニ適用シ結局最モ重キ同法第二百四十條前段ノ刑ニ從ヒ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇スヘキトコロ被告人ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十九條第五十七條ニ則リ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ累犯加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八年ニ處シ尙同法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數中五十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年三月四日

大阪地方裁判所第〇刑事部

二七三 強盜傷人

判決

本籍 奈良縣添上郡大安寺村字大安寺六百九十九番地

住居 不定

無職

岡田實

當三十三年

右ノ者ニ對スル強盜傷人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

二七三 強盜傷人

主 文

被告人ヲ懲役七年ニ處ス

理 由

被告人ハ神戸市川崎重工業株式會社ニボンス工(剪斷工)トシテ雇ハレ居タルモ缺勤勝ニシテ昭和十五年五月二十三日解雇セラレ爾來生活ニ窮シ居タル者ナルトコロ同月三十日同市須磨區須磨浦通四丁目百七十三番屋敷喫茶店チドリ事直井さわ方ニ於テ金四十五錢相當ノ飲食ヲ爲シタルモ所持金無カリシヨリ支拂ヲ次回迄猶豫シ貫ヒタルカ同年六月三日午前十一時頃再ヒ同店ニ到リコーヒー牛乳等ヲ飲食シ置キ乍ラ又シテモ無一文ナリシ爲止ムヲ得ス隙ヲ見テ逃走セシトシテ下機ヲ窺ヒ居レル内午後二時半頃ニ至リ漸ク客モ杜絶エタルヨリさわニ勸定ヲ命シ前回ノ分ト合セテ金一圓十三錢ノ支拂ヲ求メラル、ヤ矢庭ニ同女ノ胸倉ヲ捕ヘテ其ノ場ニ突倒シ傍ニ在合ハセタルステツキ及一升瓶ヲ以テ頭部、顔面部ヲ亂打シ因テ其ノ左右前頭部其ノ他ニ挫創、血腫等治療約四週間ヲ要スル創傷ヲ負ハシメテ逃走シ右飲食代金ノ支拂ヲ免レテ財産上不法ノ利得ヲ爲シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十條前段ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年九月十四日

神戸地方裁判所第〇刑事部

二七四 強盜傷人

判 決

本籍 福島縣石城郡神谷村大字上神谷字上九番地
住居 不定

無職

佐 藤 畑 雄
大正三年九月四日生

本籍 神戸市兵庫區東出町三丁目百九十番地
住居 同所八十五番地 小川六郎方

無職

小 川 松 雄
大正三年十一月二十八日生

右兩名ニ對スル強盜傷人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人畑雄ヲ懲役八年ニ被告人松雄ヲ懲役六年ニ處ス

押收證第壹號綱ハ沒收シ證第二、三號ノ現金合計金八圓六十六錢ハ被害者ニ還付ス

二七四 強盜傷人

訴訟費用ハ被告人兩名ノ連帶負擔トス

理由

被告人畑雄ハ昭和十年六月二十八日關東地方法院ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役五月ニ昭和十二年二月九日平區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役壹年ニ昭和十三年九月三十日神戸區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役二年ニ處セラレ右刑ハ昭和十五年勅令第四十五號ニ依リ懲役一年八月五日ニ減輕セラレ被告人松雄ハ昭和十年二月十五日札幌區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役一年六月ニ昭和十二年十一月二十日神戸區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役二年六月ニ處セラレ右刑ハ前記勅令第四十五號ニ依リ懲役二年四月十日ニ減輕セラレ孰レモ其當時右刑ノ執行ヲ了ヘタルモノナルトコロ右被告人兩名ハ神戸刑務所ニ於テ服役中知合トナリ同刑務所ヲ出所後一時神戸市内肩書被告人松雄ノ住居ニ同居シ居タルカ昭和十五年六月七日相携ヘテ岡山市ニ來タリ竊盜ノ目的ヲ以テ諸所ヲ徘徊シ所持金ヲ費ヒ果シ旅費ニモ窮シタル結果兩名共謀ノ上貸自動車ノ運轉者ヲ襲ヒ金員ヲ奪取センコトヲ企テ同日午後十時頃岡山驛前ヨリ運轉者丸尾勉ノ操縦セル岡第三五八號小型自動車ヲ雇入レ岡山縣上道郡西大寺町ニ赴ク様申向ケ同驛前ヲ發車シ間モナク岡山市湊地内東山峠ニ差蒐リタル際被告人松雄カ便意ヲ催シ自動車ヲ停車セシムルヤ被告人畑雄ハ突如背後ヨリ運轉者ヲ襲ヒ所携ノ「マオラン」製細綱(證第一號)ヲ勉ノ顔面ニ掛ケ之ヲ緊縛シツ、同人ヲ車外ニ引出シ猶モ逃レントスル同人ヲ被告人等兩名ニテ協力シ格闘ノ上路上ニ組伏セ以テ同人ヲ畏怖セシメタル上同人ヨリ現金八圓六十六錢(證第二、三號)ヲ奪取シ其際前記細綱ニテ緊縛シタル爲メ勉ノ顔面及後頭部ニ治療日數約五日間ヲ要スル擦過傷ヲ負ハシメタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人等ノ所爲ハ各刑法第二百四十條前段ニ該當スルトコロ有期懲役刑ヲ選擇シ孰レモ累犯ニ係ルヲ以テ各刑法第五十六條第一項第五十七條第五十九條ヲ適用シ同法第十四條ノ制限ニ從ヒ法定ノ加重ヲ爲シ尙ホ被告人松雄ニ付テハ犯情酌ムヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ヲ適用シ酌量減輕ヲ爲シ何レモ所定ノ刑期範圍内ニ於テ各主文ノ刑ヲ量定處斷シ押收證第一號綱ハ本件犯行ノ用ニ供セラレタルモノニテ犯人以外ノモノニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ沒收シ證第二、三號現金計金八圓六十六錢ハ本件犯行ニ因ル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルモノアルニ依リ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ被害者丸尾勉ニ還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十八條ニ依リ被告人兩名ノ連帶負擔タルヘキモノトス

昭和十五年八月七日

岡山地方裁判所刑事部

裁判長判事 ○ ○ ○ ○ ○ ○

判事 ○ ○ ○ ○ ○ ○

裁判長判事 ○ ○ ○ ○ ○ ○

判事○○○差支ノ爲メ署名捺印スル能ハス

二七五 住居侵入、強盜傷人

判決

本籍 名古屋市中區末廣町一丁目二十五番地
住居 東京市牛込區山吹町三丁目百八十番地

元大藏省給仕

鈴木 淳 正

大正十二年五月五日生

右ノ者ニ對スル強盜傷人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ三年六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ昭和十年中十三歳ニシテ父ヲ喪ヒ翌十一年九月頃ヨリハ大藏省ニ給仕ヲ勤ムル傍夜ハ早稻田實業學校第二本科ニ通學シ二重ノ負擔ニ苦シミタルノミナラス同年夏頃ヨリ自漬ヲ覺エタル故ニヤ學業成績次第ニ不良ニ赴キ爲ニ厭世自殺ヲ思ヒ立ツコト再度ニ及ヒタルカ最近考古學ニ興味ヲ覺エ之ニ依リ身ヲ立テントヲ志シタルモ長兄太郎ヨリ進學ヲ阻マレ悲觀ノ極三度死ヲ決シ自殺ノ場所ヲ求メテ昭和十四年七月二十九日山梨縣東山梨郡神金村大字上萩原

大菩薩峠ニ到リ同所所在同縣同郡大藤村大字中萩原四百七十六番地農益田勝俊當四十五年ノ經營セル山ノ旅館勝緣莊ニ宿泊シ宿料盡クルヲ待チ同月三十一日夜右峠ノ頂近キ神成岩ノ上ニテアダリン十四錠ヲ飲ミ寢ネテ凍死ヲ圖リタルモ寒氣足ラサル爲失敗シ驕意シテ再ヒ右勝緣莊ニ立戻リタルカ遺書ヲ殘シ來タレル手前今更兄太郎ニ送金ヲ請ヒ得ス已ムナク山窩タランコトヲ思ヒ立チタルカ流石ニ荏苒日ヲ送り得タルトコト同年八月十日右勝俊ヨリ宿泊料ノ請求ヲ受ケタル爲富士ヲ見テ歸リニ支拂フヘシト偽リ毛布、飯盒等ヲ入レタル被告人所有ノリュックサックヲ持出ス術モナク身ヲ以テ右旅館ヲ逃走シ峠ニ至ル途中ノ岩蔭ニ隠レ居ル中右リュックサックカ山ノ生活ニ必要ナルヲ思ヒ夜陰右勝緣莊ニ忍返シ今ヤ右宿賃ノ不拂ニヨリ宿主ノ占有ニ在ル右リュックサックヲ持出スヘク若シ發見セラレタルトキハ宿主等ヲ脅迫シテ之ヲ奪ヒ去ランコトヲ決意シ同日午後七時半頃右逃走ニ際シ持出シ居タル右勝俊所有ノ大型金槌一挺ヲ携ヘテ右勝緣莊ノ附近ニ至リ家人ノ寢靜マルヲ覗ヒテ同夜九時半頃表玄關口ヨリ屋内ニ侵入シ左手十八疊客間ヲ探シタルモ見當ラサル爲同室ニ假臥シテ家人ノ熟睡スルヲ待チ居ル中寢過シ翌十一日午前五時過頃倉皇起キテ硝子入障子越ニ玄關右側右勝俊夫妻八疊寢室内ニ右リュックサックヲ發見シタルヨリ今ハ萬一同人等ニ見咎メラレタル際ハ右金槌ヲ以テ同人等ヲ毆打氣絶セシメ其ノ隙ニ奪ヒ去ラントノ覺悟ヲ決メ直チニ入口障子ヲ開キテ踏込ミタルトコロ仰臥セル右勝俊妻エイ當四十四年カ目覺メタルカ如ク感シタルニヨリ右手ニ持テル右金槌ニテ其ノ頭部ヲ數回毆打シ續イテ同人ノ悲鳴ニ目覺メタルカ如ク見エタル右勝俊ノ頭部ヲ一回毆打シ因テ右エイニハ治療日數二十日許ニシテ尙頭痛ヲ貽シ右勝俊ニハ同上十日許リニシテ孰レモ出血ヲ伴フ頭部打撲傷ヲ與ヘタルモ兩名共氣絶ニ至ラス騒キ立テタル爲周章度ヲ失ヒ右リュックサックヲ奪取シ得シテ逃走シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百十條ニ強盜傷人ノ點ハ同法第二百四十條前段第二百四十條ニ夫々該當スルトコロ右ハ手段結果ノ關係アルニヨリ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ強盜傷人ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シ十八歳ニ滿タサル者ナルヲ以テ少年法第八條ヲ適用シテ被告人ヲ懲役三年六月以上五年以下ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ヲ適用シ全部被告人ノ負擔トナスヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年十一月二十八日

甲府地方裁判所刑事部

二七六 竊盜、強盜殺人

判決

本籍 北海道夕張郡夕張町字眞谷地二區三十三番地
住居 不定

無職

佐藤 勇 一郎

大正三年六月二十五日生

右ノ者ニ對スル竊盜強盜殺人被告事件ニ付昭和十四年五月二十四日札幌地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ同裁判所檢事正檢事某ヨリ適當ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ルケース入拳銃一挺(證第一號)ハ尾形義夫ニ之ヲ還付ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ炭坑夫ノ長男トシテ生レ北海道夕張郡夕張町立高等小學校卒業後同町ニ於テ吳服店ノ店員見習トナリタルモ主家ト不和ヲ生シ暫クニシテ同店ヲ去リ昭和七年九月札幌市ニ出テ吳服店ニ外勤ノ店員トシテ住込ミタルカ次第ニ怠惰ト爲リ遊興ニ耽リ主家ノ金員ヲモ費消スルニ至リ解雇セラレテ同市ノ雜貨店ニ轉シタルモ益々遊興ノ度ヲ加ヘ同家ニモ持續セスシテ昭和九年頃伯母ノ嫁先ノ斡旋ニ依リ古宇郡泊村茅沼炭鑛ニ火藥係トシテ雇ハレタルカ昭和十二年二月頃同所ヲ罷メ夕張町ナル父母ノ膝下ニ歸來シ同町眞谷地炭鑛ニ入りタルモ父ノ貯金ヲ拐帶シテ無斷家出シ爾來炭鑛ニ三箇所ヲ執レモ永續セス僅ニ三、四箇月ニシテ轉々ト渡リ歩キタル後昭和十三年十二月幾春別彌生炭鑛ニ坑夫トシテ雇ハレタルカ其ノ收入ヲ悉ク酒色ニ蕩盡シ荒ヒタル生活ヲ送り來リタルモノナルトコロ昭和十四年一月十八日夜附近ノカフェーニテ飲酒シ代金ノ請求ヲ受クルヤ其ノ支拂ニ窮シ

同日午後十一時頃自己ノ止宿先ナル空知郡三笠山村大字幾春別村字吉備橋町高橋金作方ニ引返シ同家八疊ノ間等ニ於

テ同宿人ノ不在ニ乗シ同宿人瀧谷友勝外一名各所有ニ係ルオーバー洋服等合計八點(時價約六十四圓)ヲ竊取スルト共ニ豫テ實彈ノ裝填セラレ居ルコトヲ知り居タル尾形義夫所有ノ實彈五發裝填ノ拳銃一挺(證第一號)ヲモ竊取シ其ノ儘該盜品ヲ着用若ハ携帯シテ同家ヲ逃亡シ

翌十九日岩見澤町ニ出テ同所ニ於テ盜品ノ一部ヲ入質シ旅費ヲ捻出シテ札幌市ニ來リ同夜ヨリ翌々二十一日ニ至ル迄ノ間逐次盜品ヲ入質シ得タル金員ハ擧ケテ飲食娛樂ノ資ニ費消シタル爲宿賃ノ支拂ニ窮シ辛シテ舊友ニ懇請シテ金員ヲ借受ケ之ヲ支拂ヒ或ハ盜品ノ一部ヲ以テ支拂ニ代ヘ居リタルカ二十一日夜着用ノ盜品タルオーバーヲ前記拳銃ヲ除キ最後ノ質種トシテ金四圓五十錢ニ入質シタル上同市南五條西八丁目飲食店お仙茶屋事中尾ハツ方ニ於テ右金員全部ヲ前拂ノ上飲酒ニ費消シタル後懷中無一文ト爲リ午後十時頃同店ヲ辭去シタルカ茲ニ於テ自動車運轉手ヲ前記拳銃ヲ以テ射殺シタル上金員ヲ強取センコトヲ決意スルニ至リ同市南七條西九丁目菓子商松月堂事堀川孝三郎方ニ到リ同店ノ電話ヲ借用シ辭ヲ構ヘテ同市南四條西三丁目自動車運輸業平賀松治方ノ自動車ヲ呼ビ寄セ同市南六條西九丁目ニ於テ運轉手鎌田繁雄(當時二十八歳)操縦ニ係ル自動車ニ搭乘シ白石遊廓附近迄運轉方ヲ命シ同運轉手カ該自動車ヲ操縦シテ豊平橋ヲ渡リ午後十時頃頃豊平一條通附近豊平川堤防道路ニ差蒐ルヤ其ノ前日同所ニ來リ該土地ノ狀況ヲ知悉シ居リタルヨリ愈々機會至レリトシ同所ニ於テ無心ニ操車中ノ鎌田繁雄ヲ目掛ケ背後ヨリ左後頭部ニ近接シテ右手ニ持テル拳銃(證第一號)ヲ差延ヘ突如連續二發ノ實彈ヲ發射シ同人ノ左耳殼後部ニ之ヲ命中セシメ因テ同人ヲシテ延髓貫通創ニ基キ即死セシメテ殺害ノ目的ヲ遂ケタル上其ノ懷中ヲ物色シタルモ金員ヲ得ラレザリシヨリ其ノ儘逃走シタルモノナリ

以上竊盜ト強盜殺人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

證據ヲ按スルニ判示事實中冒頭ヨリ被告人カ竊盜ヲ犯スニ至ル迄ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ竊盜ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並當審第三回公判調書中證人瀧谷友勝、田村五郎及尾形義夫ノ各供述トシテ夫々各自關係部分ニ付判示ニ照應スル被害願末ノ記載アルニ依リ之ヲ認メ右竊盜後岩見澤町ヲ經テ札幌市ニ來リテ後ノ被告人ノ行動並強盜殺人ノ目的ヲ以テ(但シ其ノ決意ノ時期ヲ除ク)鎌田繁雄ニ對シ拳銃ヲ發射シタル上同人ノ懷中ヲ物色シタルモ金員ヲ得ラレズシテ逃走シタル事實ハ孰レモ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述並強盜殺人ニ於ケル證人永井義男ニ對スル豫審判事ノ訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ判示一月二十一日夜十時半頃自動車ヲ運轉シテ判示現場ニ差蒐リタルニ前方路上ニ自動車カ止リ居リ近附キ見ルニ運轉手ハ車ノ右側運轉手席ニテ右手ヲ把手ニ掛ケ左手ヲダラリト下ケ兩足ヲ開キ頭ヲ右側窓ニ凭セ掛ケ恰モ運轉中疲レテ居眠リヲ爲シ居ル様ニ見ヘル恰好ニテ左頸部ヨリ血カ流レ絶息シ居リタル旨ノ記載ニ依リ之ヲ認メ鎌田繁雄カ判示ノ如ク被告人ノ行爲ニ基キ死亡スルニ至リタルコトハ強制處分ニ於ケル鑑定人醫師廣田東治作成ニ係ル鑑定書中鎌田繁雄ノ屍體左耳殼後方〇、五種ト六、五種ノ箇所ニ二個ノ射入口アリ前者ハ射入口カ破裂狀ニ擴大シ其ノ周圍ニ火藥ニ依ル大ナル黒斑附着シ後者ハ圓形ニシテ小ナリ何レモ大體水平ニ近ク前後及左右ノ軸ニ約四十五度ノ角度ヲ以テ左後方ヨリ右前方ニ進ム細キ創管ヲ有シテ内部ニ通シ前者ハ僅四、〇種奥左外聽道内ニテ終リ後者ハ頭蓋底下面ヲ通りテ延髓ヲ貫キ右頸部上部ニテ終リ右創管ノ末端ニハ各拳銃ノ彈丸ヲ發見シ此ノ射入口及創管ハ拳銃ニテ射擊セラレ右彈丸カ射入セラレタルニ因リ生シタルモノニシテ前者ハ極メテ近距離乃至約二、三十種以内ノ所ヨリ後者ハ十數種乃至一米位ノ距離ヨリ大體被害者ノ頭部ニ向ヒ左後方ヨリ水平ニ近ク前後、左右ノ軸ニハ約四十五度ノ傾斜ヲ以テ右前方ニ射擊セラレ其ノ死因ハ拳銃彈ヲ以テ延髓ヲ射擊貫通セラレタル即死ナル旨ノ記載アルニ依リ明ナリ

被告人ノ本件強盜殺人ヲ決意シル時期ニ關シ被告人ハお仙茶屋ニテ飲酒後懷中無一文トナリタルノミナラズオーバーモ着用セス夜間歩行スルハ警察官ノ不審訊問ヲ受クル虞アルニヨリ自動車ヲ呼寄せ之ニ乗車シ其ノ料金ハ運轉手ニ謝罪シテ宥恕ヲ乞フ心算ナリシニ偶、豊平川堤防上道路ニ差蒐リタル際車體ノ動搖ニヨリ懷中ノ拳銃ニ觸レ遽ニ該拳銃ヲ以テ運轉手ヲ射殺シ金員ヲ強奪センコトヲ決意スルニ至リタル旨辯疏スレトモ被告人ノ當公廷ニ於ケル自分カ竊取シタル拳銃ハ嘗テ所有者ノ尾形義夫ヨリ見セラレタルコトアリ彈丸カ四發カ五發入り居リタルコトモ知リ居リタリ之ヲ竊取シ札帳ニ出テ昭和十四年一月十九日夜小路ニテ該拳銃ヲ何シテ音カスルカ怎ウ云フ物テアルカ見度ク一發試射シタリ同月二十一日夜お仙茶屋ヲ出テ懷中無一文ニテ自動車賃ノ當ハナカリシモ松月堂菓子店ニ入り電話ヲ借用シ自動車ヲ呼寄せタル旨ノ供述、被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ兇行ノ前日午後四時頃判示兇行現場附近ナル豊平橋ヨリ左折シ堤防上ニ出テ二、三間行キタルトコロニ在リタル店ニテ天麩羅蕎麥ヲ食ベ其ノ附近ノ狀況ハ知リ居リタル旨ノ記載證人申尾ハツニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ札幌市南五條西八丁目五番地ニ於テお仙茶屋ナル飲食店營業ヲ爲シ居ル者ナルカ昭和十四年一月二十一日ノ晚七時頃自分方ニ若イ男カ來リ飲酒シタルカ同夜ハ他ニ客カナカリシ爲其ノ男ノ事ハ判然記憶シ居レリ烏打帽ヲ冠リラクダ色ノシャツヲ着テ黒イズボンヲ穿キ足ハ黒ノ編上靴ヲ穿キ居リタルカ其ノ男ハ來ルヤ直チニズボンノポケットヨリ四圓五十錢ヲ取出シ自分ニ差出シタル上此レ丈ノ金テ足ヲ出サナイ様ニ酒ヲ飲マシテ吳レト申シ其ノ金額丈銃子ヲ差上ケタルカ其ノ晚十時前頃飲ミ終ルト直チニ出テ行キタリ其ノ男ハ銃子六本目ノ頃拳銃(證第一號)ヲ取出シ中ニ這入り居ル彈丸ヲ出シ斯ノ通り四發入ツテ居ルゾト申シテ見セ僕ハ滿洲ヨリ歸ツテ來タ兵隊テ此ノ拳銃ハ滿洲土產タ僕ハ兵隊タカラ此ノ拳銃テ

人ヲ一人ヤ二人殺シテモ罪カ輕クテ濟ムノタ等ト申シタリ拳銃ヲ弄ミ乍ラ僕ハ金ニハ困ラヌノタ金ノアル者ニ對シ此ノ拳銃ヲ突付ケブツパナスソト云ヘハ相手ハ直チニ金ヲ呉レルノタト申シ居リタリ此ノ御示ノ男(被告人ヲ指稱ス)カ其ノ晚私方ニ來リ拳銃ヲ見セタル人ニ相違ナキ旨ノ記載證人茶畑一司ニ對スル強制處分ニ於ケル豫審判事ノ訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ札幌市南七條西九丁目松月堂菓子店ノ店員ナルカ昭和十四年一月二十一日夜十時前後頃若イ男カ店ニ來リ私方ノ電話ヲ借り自分テ自動車屋ニ電話ヲ掛ケ車ヲミトキ館前迄寄越シテ吳レト申シ先方テ雪ノ爲其處迄行カレナイト答ヘタラシク南六條西九丁目ノバス停留所附近テ待合ハス様話ヲ定メ電話ヲ切りタリ自分ハ電話料ヲ請求シタルニ金ヲ持合ハセテ居ラスト云ヒ自分カラ主人ニ其ノ事ヲ申シ主人カ其ノ男ニ應對シタルニ其ノ男ハ電話料ノ代リタト云ヒ冠リ居タル帽子ヲ置イテ行カントシタルカ主人ハ帽子ヲ受取ラス其ノ儘其ノ男ヲ歸シヤリタリ其ノ男ハ其ノ後警察署テ示サレタル佐藤勇一郎ニ相違ナキ旨ノ記載ヲ綜合スレハ被告人ノ該犯行決意ノ時期ハ判示ノ如ク被告人カ懷中無一文ノ状態トナリテ判示お仙茶屋方ヲ辭去スル頃ヨリ南七條西九丁目菓子商松月堂堀川孝三郎方ニ至ルマテノ間ニシテ電話ヲ借用シテ自動車ヲ呼寄せタル當時既ニ自動車運轉手ヲ射殺シテ金員ヲ強取スヘキ意圖ヲ以テ被害者ヲ判示場所ニ誘致シタルモノト認ムルヲ相當トスヘク犯意繼續ノ點ハ被告人カ短期間内ニ同種行爲ヲ反覆履行シタル事跡ニ徴シ明ナリ依テ判示犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ該當スルトコロ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ重キ強盜殺人罪ノ一罪トシテ處斷シ其ノ所定刑中犯情ニ依リ死刑ヲ選擇處斷スヘク主文第二項掲記ノ押收物件ハ本件竊盜罪ニ因ル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナル

一九四
ヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ被害者ニ之ヲ還付シ訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年二月八日

札幌控訴院刑事部

二七七 強盜殺人

判決

本籍並住居

廣島縣高田郡甲立町大字繪地二十五番屋敷

日稼兼農業

沖本 四郎

明治三十八年九月一日生

右者ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役十年ニ處ス

未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル出刃庖丁(證第一二號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ幼少ノ頃重患ニ犯サレテ瘡啞者トナリ智力作用ノ障礙アリ僅カ三十日位ノ尋常小學校教育ヲ受ケ而カモ若クシテ母ヲ喪ヒタルニヨリ肩書居住地ニ於テ専ラ父ノ膝下ニ於テ養育セラレ其ノ監督ノ下ニ農業ニ從事シ來リタルカ昭和十四年末頃ヨリ同一部落ノ材木商住田哲二ニ雇ハレ一日金壹圓七拾錢ノ賃金ヲ以テ立木ノ伐採又ハ木材ノ運搬等ノ仕事ヲ爲シ居リタルコト昭和十五年五月二十三日ヨリ同月二十七日迄ノ間甲立町ノ深瀨山ニ於テ働キタル五日間ノ賃金八圓五拾錢ノ貰ヒ分ニ付同月二十八日右深瀨山ニ於テ住田ニ之カ支拂方請求シタルモ同人ハ仕事高等記載ノ書付ナク且所持金ナキ旨答ヘテ其ノ要求ヲ拒絕シタルニヨリ痛ク同人ヲ恨ミ翌五月二十九日畑ノ耕作中若シ同人カ右賃金ヲ支拂ハサルニ於テハ同人ヲ殺害センコトヲ思惟スルニ至リ其ノ翌々日タル五月三十一日ノ朝食事ノ際ニ住田ハ材木商ニシテ且ツ常ニ飲酒スルニヨリ相當ノ金ハ常ニ持合セ居ルニ付更ニ賃金ノ支拂方ヲ請求シ之ニ應セサルトキハ同人ヲ殺害シテ少クトモ賃金丈ハ之ヲ強奪センコトヲ決意シ當日入團兵佐々木某ノ見送ニ際シテ住田ト出會スルコトヲ豫期シ居タルニヨリ其ノ朝九時頃出刃庖丁(證第一二號)ヲ風呂敷ニ包ミ自轉車ノ荷臺ニ括リ付ケテ自宅ヲ出テ居住地ノ八幡神社ニ至リタルトコロ果シテ同人ニ出會シタルニヨリ他ノ見送人ト共ニ學校ニ行ク途上同人ニ對シ賃金支拂方ヲ請求シタルトコロ之ヲ拒絕セラレテ痛ク立腹シタルカ同人カ入團兵見送後仲直リニ一杯ヤルヘキ旨提議シタルニヨリ好機逸スヘカラストナシ同人カ自己ノ割前ノ支出方ヲ申出テタルモ自ラ之ヲ負擔スル旨申告直ニ甲立町ノ横山朝二郎方ニ於テ櫻ビール二本、櫻干及蒲鉾等ヲ買求メ入團兵ノ見送ヲ濟セ來リタル住田ヲ人跡稀ナル高田郡小田村俗稱篠

二七七 強盜殺人

一九五

● 原山ノ奥深く誘致シ其ノ場ニ於テビール大半ヲ同人ニ飲マシメタル午後一時過頃更ニ賃金ノ請求ヲ爲シタルモ同人ハ又モヤ之ヲ拒絶シタルニヨリ玆ニ格闘トナリ二、三揉合ノ揚句所携ノ出刃庖丁ヲ以テ同人ノ左方ノ側頸部ニ斬付ケ深ク抉リテ頸動脈ヲ切斷シ失血ニ因リ同人ヲ即死セシメテ之ヲ殺害シ同人ノズボンノ右ポケット内ニアリタル財布ヨリ其ノ所持金百七十三圓九十七錢(證第七第一一第三三各號)ヲ強取シタルモノナリ

(證據説明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ之カ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ而シテ被告人ハ瘡腫者ナルニヨリ同法第四十條後段第六十八條第二號ニ則リ法律上ノ減輕ヲ爲シタル所定刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シテ未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入スヘク押收ニ係ル出刃庖丁(證第一二號)ハ本件犯罪ノ用ニ供シタル物ニシテ犯人以外ノ何人ニモ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス

昭和十五年十二月十八日

廣島地方裁判所三次支部

二七八 強盜殺人

判決

本籍 東京市麻布區龍土町三番地
住居 鎌倉市亂橋材木座四百六十四番地

無職

荻野榮

當十七歲(大正十四年四月二十日生)

右ノ者ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役十年ニ處ス

但シ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入ス

押收物件中小刀一挺(昭和十五年地押第四一五號ノ十)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ幼少ノ頃父母ヲ失ヒタルカ昭和十五年三月鎌倉第一尋常高等小學校高等科二年ヲ卒業シ鎌倉市亂橋材木座四百六十四番地ナル繼母荻野きみノ許ニ於テ家事ノ手傳等ヲ爲シ居ル中同月十三日夜偶々附近ナル五所神社祭禮ニ當リ小使錢無カリシヨリ他人ヲ脅迫シテ金錢ヲ得ムコトヲ企テ自ラ肥後守ナイフヲ開キ兩側ニ角材ヲ副エテ柄ト爲シ刃先ノ折レ込マサル様ニ製作シアリタル兇器(昭和十五年地押第四一五ノ一〇)ヲ携帯シ鎌倉市亂橋材木座ノ通稱若宮大路ヲ徘徊スル内同日午後九時三十分頃右亂橋材木座千九十二番地先路上ニ於テ伊東道(當時二十八歲)ニ出會フヤ右兇器

二七八 強盜殺人

ヲ右手ニ持チテ同女ニ近寄り「金ヲ貸シテ呉レ」ト要求シタルトコロ同女ヨリ言下ニ拒絕セラレタルカ同女ノハンドバツクヲ所持セルヲ見テ之ヲ強奪セント決意シ直チニ左手ヲ以テ右ハンドバツクニ手ヲ掛ケ奪ヒ取ラントシタルモ同女カ之ニ抵抗シテ離ササル爲引張り合ヒノ末現金約貳圓八拾錢ヲ入レタル墓口及雜品數點在中ノ革製ハンドバツクヲ奪ヒ取りタルカ其ノ際後方ヘ轉倒シタル爲之ニ憤激シ右兇器ヲ以テ伊東道ノ内股部ヲ突刺シ因テ同女ヲシテ股動脈ノ切截ニ基因スル失血ノ爲間モナク同所ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

(證據説明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇處斷スヘキトコロ被告人ハ罪ヲ犯ストキ十六歳ニ滿タサルヲ以テ少年法第七條第一項ヲ適用シ同條所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ該刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處シ刑法第二十一條ニ則リ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク尙押收物件中小刀一挺(昭和十五年地押第四一五號ノ十)ハ本件犯行ノ供用物件ニシテ被告人ノ所有ニ屬スルモノナルトコロ刑法第十九條ハ本件犯行後昭和十六年法律第六十一號ヲ以テ變更セラレタルヲ以テ刑法第六條ヲ適用シテ輕シト認ムル右改正前ノ刑法第十九條第一項第二號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年四月二日

横濱地方裁判所第○刑事部

二七九 住居侵入、強盜殺人

判決

本籍 小樽市山ノ上町二十四番地
住居 同市住ノ江町二丁目二十番地

無職

石山正治

大正六年五月十五日生

右被告人ニ對スル住居侵入強盜強姦殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル金腕時計壹個(證第十六號中)ハ之ヲ被害者高橋一雄ニ還付ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ小樽驛ニ於テ便利屋ヲ業トセル父石山猶吉ノ次男トシテ生レ裕カナラサル家庭ニ育チ十五歳ニシテ母ヲ喪ヒ小樽市入舟町所在同市第一高等小學校卒業後奉公ニ出テタルモ盜竊ヲ有シ解雇セラレ奉公先ヲ變フルコト一再ニ止ラス其間昭和九年十二月末頃盜竊罪ニ依リ小樽區裁判所檢事局ニ於テ起訴猶豫處分ニ付セラレタリシカ未タ之ヲ悛メス

二七九 住居侵入、強盜殺人

出稼ノタメ一時上京シ店員等ヲ爲シ居タルコトアルモ永續セス昭和十一年八月頃再ヒ小樽市住ノ江町ナル父ノ許ニ歸來シ請負師林長吉金野由太郎等ニ雇ハレ日稼労働ニ従事シタルモ性懶惰ニシテ勤勞ヲ厭ヒ且自己ノ労働者姿ヲ朋輩ニ見ラルルヲ痛ク嫌忌シ昭和十二年七月十日頃ヨリハ依然職場ニ行クモノノ如ク装ヒテ外出シタルモ同市築港附近等ヲ徘徊シ荏苒日ヲ過シ父ニ對シテハ其ノ労働賃金ハ晦日勘定トナリタル旨申向ケ一時ヲ糊塗シ居リタル處同年七月三十一日朝ニ至リ父ヨリ本日右賃金ノ支拂ヲ受ケ來ルヘキ旨命セラレ已ムナク之ヲ承諾ノ上家ヲ立出テタルモ固ヨリ受取ルヘキ賃金無キヲ以テ之ヲ彌縫セント腐心シナカラ同日午前十一時五十分頃小樽市入舟町七丁目七番地醫學博士高橋一雄方居宅前ニ差蒐ルヤ豫テ同家ハ夫婦暮シナルヲ知悉セルヨリ若シ家人ニ於テ不在ナレハ空裏盜ミヲ働カンカ爲ニ屋内ヲ窺ヒタルニ人ノ氣配模様ナキヨリ同家支關入口ノ戸ヲ開キテ侵入シ一度聲ヲ掛ケタルモ應答ナク全ク家人不在ナリト思惟シ更ニ玄關ヨリ座敷ニ侵入セントシタル利那圖ラスモ奥ノ間ヨリ右高橋一雄ノ妻サタ(當時二十八年)カ玄關ノ間ニ出テ來リ被告人ノ姿ヲ目撃シ驚キテ奥座敷ニ逃ケ込ミタルヲ以テ突如サダノ背後ニ襲ヒ掛リ同家屋内ニ於テ逃惑フ同女ヲ追及スル中寧口之ヲ殺害シタル上品ヲ強取スルニ如カスト決意シ同女ヲ捕ヘ首ヲ扼シ同女カ奥八疊間ニ於テ顛倒スルヤ背後ヨリ其頸部ヲ兩手ニテ緊扼シ因テ之ヲ絶息セシメタル後同家屋内箆筒机等ノ抽斗中ヨリ高橋一雄所有ノ現金七十餘圓金剛時計一個(證第十六號中)及同人名義郵便貯金通帳一冊竝ニ認印二個ヲ強取シ尙押入内ニ在リタル麻細引ヲ以テ強ク右サダノ首ヲ絞付ケ同女ヲシテ窒息死ニ致ラシメ同家裏口ヨリ逃走シタルモノナリ

證據ヲ案スルニ判示事實ハ

一、被告人ノ當公庭ニ於ケル判示高橋サダノ死因カ判示ノ如クナル點ヲ除キ其餘ハ全部判示同旨竝ニ被告人カ右サダヲ姦淫シ

タル際ニハ同女ハ既ニ死亡シ居タリト思ヒ居リタル旨ノ供述

一、證人高橋一雄ニ對スル第一回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ小樽市住ノ江町所在財團法人北海道社會事業協會附屬小樽病院外科醫長ヲ勤メ高橋サダ(當時二十八歳)ノ夫ナルカ昭和十二年七月三十一日午前六時頃判示自宅ニ歸リタルニ奥八疊ノ間ノ床ノ間ノ前ニ家内カ仰向ケニナツテ喉ノ邊ニ傷ヲ受ケテ死シ居タリテ驚キテ家内ノ首ニ手ヲ掛ケ少シ動カスト口カラ出血シ左手ヲ握ツテ見ルト冷クナツテ硬直シテ居タリテモウ駄目ト觀念シタリ家内ハ何者カニ殺サレタルモノト思ヒタルカ後テ色々調ヘテ見ルニ自分カ家内ニ渡シテ居タリ現金七十圓許リト約三百圓預入レテアル自分名義ノ郵便貯金通帳一冊ト高橋ト影ツタ認印二個ノ外三味線胴型ノ自分所有ノ金剛腕時計一個カ失クナリ居タリ御示ノ腕時計(證第十六號中)ハ革帶ヲ除キ自分ノモノニ相違ナシ自分ハ犯人ニ對シテハ憎ミテモ憎ミ足リナイ氣持チテ自分ノ精神上ノ打擊モ非常ニ大キク自分ハ數日中自分ノ動メテ居ル病院ヲ辭メ暫ク靜養スル考ヘナル旨ノ記載

一、鑑定人廣田東治ノ鑑定書ト顯スル書面中高橋サダノ屍體ニハ頸部上前半ニ二本ノ索溝及頸部全面中部及下部ノ正中線兩側ニ多數不規則ナル爪傷アリテ其ノ死因ハ扼殺及細キ綱ニヨル絞殺ノ二方法ヲ併用シタル他殺ニヨル窒息死ナル旨ノ記載

ヲ綜合シ判示事實ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百十條ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ各該當スル處右住居侵入ト強盜殺人トハ手段結果ノ關係ニアルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ諸般ノ情狀ニ鑑ミ其ノ所定刑中死刑ヲ選擇處斷スルヲ相當トシ押收ニ係ル金剛腕時計一個(證第十六號中)ハ判示強盜殺人行爲ニヨリ得タル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一

項ニ依リ被害者高橋一雄ニ之ヲ還付スヘク訴訟費用ニ付テハ同法第二百三十七條第一項ヲ適用シ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

尙本件公訴事實中被告人カ判示ノ如ク金品ヲ強取シタル後抗拒不能ノ状態ニ在ル判示高橋サダヲ姦淫シ以テ強姦ヲ遂ケタリトノ點ニ付テハ右姦淫ノ際被告人ニ於テ右サダカ當時尙ホ生存シ居タルコトノ認識ノ下ニ之ヲ敢行シタリト認ムヘキ證明ナキモ右ハ判示強盜殺人ノ事實ト一所爲數法ノ關係ニアリトシテ公判ニ付セラレタルモノト認ムヘキヲ以テ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年二月二十五日

札幌地方裁判所小樽支部

二八〇 強盜殺人

判決

本籍 德島縣阿波郡市場町大字香美三百六十一番屋敷内五番
住居 布施市長榮寺町二丁目四十九番地 小阪莊園アパート
無職 栗 栖 立 人
當二十年

右ノ者ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付昭和十五年十二月十日奈良地方裁判所カ宣告シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ無期懲役ニ處ス

押收ニ係ル棍棒一本(證第二十二號)及竹鞘兩短刀一口(證第四十四號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ大正十一年二月九日德島縣麻植郡三山村ニ於テ生レタル未成年者ナルトコロ其ノ父カ多年嶺山ニ勤メ諸所ヲ轉々シ居タル關係ヨリ昭和十一年春同縣板野郡撫養町ノ高等小學校ヲ卒業前退學シタル後父母ノ許ヲ離レテ同縣麻植郡山瀬町或ハ大阪市内ノ理髮店ニ徒弟ト爲リ其ノ後昭和十四年四月ヨリ大阪理髮專修學校ニ通學シ居タルモ其ノ業ヲ得ルニ至ラサル爲昭和十五年五月奈良縣吉野郡天川村大字栃尾ニ居住スル父ノ許ニ歸リ同年六月初ヨリ父カ勤務セル日窒鑛業株式會社ノ經營ニ係ル同村大字和田ノ天和鑛山ニ「コムプレッサ」ノ運轉見習トシテ雇ハレ居タルカ嚴格ナル父ノ監督ノ下ニ勞働生活ニ服スル苦ニ耐ヘス都會ニ於ケル放縱ナル生活ニ憧レ密ニ其ノ資金ヲ獲得センコトヲ企圖シ居タルカ同年七月初頃豫テ知合ナル同鑛山事務所ノ會計係菊谷清藏(當時二十一年)ヨリ同人カ毎月二十四日頃前記會社經營ノ吉野郡宗槍村川股鑛山事務所ニ赴キ同所會計主任ヨリ天和鑛山ノ従業員ノ給料等約千五百圓ノ現金ヲ受取リ翌日早朝之ヲ携帶シテ宗槍天川兩村ノ境界ナル天狗嶽峠ヲ越ヘテ歸來スルヲ例トスル旨聞知シタルヲ想起シ同月末

モ亦右菊谷カ川股鑛山事務所ヨリ多額ノ金員ヲ受取り之ヲ携ヘ前記道筋ヲ經テ歸來スヘキヲ以テ同人ヲ人影稀ナル天狗嶽峠ノ山中ニ要シテ殺害シ其ノ携帶セル金員ヲ強奪センコトヲ決意シ同月十日頃天和鑛山事務所ニ於テ右菊谷ニ對シ雜談ニ紛ラシ同月末モ川股鑛山事務所ニ賃金ヲ取りニ行クヤヲ質シ同人カ同月二十四日川股鑛山ニ到リ翌二十五日ノ早朝天狗嶽峠ヲ越ヘテ天和鑛山ニ歸來スヘキ豫定ナルコトヲ確メ得タルヲ以テ犯行後自己ニ嫌疑ノカカルヲ避クルニハ可及的早ク天和鑛山ヲ去リ他所ニ於テ機ヲ待ツニ若カスト思惟シ同月十五日頃豫テ被告人カ天和鑛山鍛冶場ニテ作製シタル長サ約一尺兩刃ノ短刀ヲ携ヘテ前記自宅ヲ立出テ知合ナル布施市御厨石川時雄方及同市長榮寺町小阪莊園アパート内小野寺茂ノ許ニ寄寓シテ時ノ到ルヲ待チタル上同月二十四日前記短刀及食糧等ヲ携ヘテ右アパートヲ立出テ同日午後五時頃天和狗嶽峠ニ達シ同夜八頂上附近ノ松ノ木ニ昇リテ野宿シ翌二十五日早朝ヨリ同所ニ於テ菊谷カ歸來スルヲ待受ケ居タルトコロ同日午前八時頃菊谷カ現金千五百圓在中ノ風呂敷包ヲ携ヘ川股鑛山方面ヨリ同峠ニ上リ頂上ニ於テ小憩ノ後天川方面ニ下リ行クヲ認メタルヲ以テ被告人ハ直ニ前記短刀及同山中ニテ拾ヒタル長サ約三尺六寸徑約一寸三分ノ棍棒ヲ持チテ同人ヲ追跡シ頂上ヨリ數町下リタル同郡天川村大字澤原領内通稱五色谷ナル幽谷ニ沿フ道路上ニ於テ同人ニ近付キ突然所携ノ棍棒ヲ以テ同人ノ頭部ヲ強打シ同人カ其ノ場ニ昏倒スルヤ其ノ兩足ヲ捉ヘテ路傍約五間下方ノ谷底ニ引下シタル上右短刀ヲ以テ同人ノ左胸部ヲ突刺シ左肺上葉、心左室及後方肺上葉ヲ破リ背部ニ貫通スル刺創ヲ負ハシメ因テ同人ヲシテ胸腔内出血ニ因ル心臟麻痺ノ爲即時同所ニ於テ死亡セシメテ殺害シタル上所携ノ現金千五百圓ヲ強取シタルモノナリ

(證據説明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シテ處斷スヘク押收ニ係ル棍棒一本(證第二十二號)及竹鞘兩刃短刀一口(證第四十四號)ハ被告人カ本件犯行ニ供用シタル物件ニシテ其ノ物被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

本件控訴ハ理由アリ

昭和十六年二月六日

大阪控訴院第〇刑事部

二八一 強盜殺人

判決

本籍 千葉縣君津郡佐貫町字八幡番地不詳
住居 函館市北濱町二十六番地

艇夫

芝山 留吉

明治四十四年三月十五日生

右ノ者ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

二八一 強盜殺人

二〇五

主 文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル證第八號福本コマ名義郵便貯金通帳一冊ハ之ヲ被害者ニ還付ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ豫テ飛島埋立工業所ニ雇ハレ其ノ所有船第五飛島丸ノ浚渫艇夫トシテ同船ニ乗組ミ昭和十三年八月十日頃函館市ニ來リ爾來同市北濱町地先海岸ニ於テ浚渫工事ニ從事シ月收約七十圓ヲ得居リタルモノナルトコト同年八月頃ヨリ同市大森町遊廓ニ於テ遊興ニ耽リタル爲友人等ヨリ金借スルノ餘儀無キニ至リ同工業所事務所ヨリ屢給料ノ前借ヲ爲シ漸ク之カ辨濟等ニ充テ來リタル状態ニテ其ノ生活費モ兎角不足勝ナリシカ昭和十四年二月五日頃又々同工業所事務所ヨリ金百圓ヲ前借スルニ及ヒ遂ニ其ノ支拂ニ窮シタル結果同月二十七日夜右第五飛島丸副艇長福本一二郎カ偶々夜勤不在中ナルヲ奇貨トシ茲ニ同人ノ妻コマ(當時二十三年)ヲ殺害シテ金員等ヲ強取セムコトヲ決意シ同日午後九時四十分頃同市北濱町三十六番地ナル右福本一二郎方ニ到リ同人ノ妻コマニ對シ一二郎カ船ニテ怪我シ入院ノ爲船ニテ岩壁ニ來ルヘキ旨詐言ヲ弄シテ同女ヲ同家ヨリ約二百間ヲ隔ツル同市同町東京灣埋立株式會社埋立地先岩壁ニ誘ヒ出シ同日午後十時頃同女ノ隙ヲ窺ヒ突然其ノ背後ヨリ同女ヲ同所ノ海中ニ突落シ因テ同女ヲ窒息死ニ致シテ之ヲ殺害シタル上直ニ前掲福本一二郎方ニ引返シ同家表八疊ノ間押入内ノ無蓋行李ノ上ニ風呂敷ニ包ミアリタル眞鍮圓筒内ヨリ福本コマ預入名義五十圓五十錢現在ノ郵便貯金通帳(證第八號ハ之ヨリ金五十圓ノ拂戻ヲ受ケタルモノ)及福本一二

郎預入名義金十五圓現在ノ郵便貯金通帳各一冊並右各通帳ニ押捺シアル印判二箇ヲ強取シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中死刑ヲ選擇シ押收ニ係ル證第八號福本コマ名義郵便貯金通帳一冊ハ被告人カ本件犯行ニ因リ得タル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ之ヲ被害者ニ還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス

昭和十四年五月十九日

函館地方裁判所刑事部

二八二 強盜殺人、死體遺棄

判 決

(備考) 本判決ニ對シ檢事控訴アリニ審死刑、被告ノ上告棄却

本籍並住居 天鹽郡遠別村字遠別市街本通二丁目五番地

客馬橋追業

渡 邊 正 五

大正二年九月一日生

右ノ者ニ對スル強盜殺人並死體遺棄被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

二八二 強盜殺人、死體遺棄

被告人ヲ無期懲役ニ處ス

押收ニ係ル現金四百圓參拾六錢(昭和十年領第三九號ノ一二二並一三)ハ被害者河村定一ニ還付ス

理 由

被告人ハ天鹽郡遠別村市街地ニ居住シ數年前ヨリ冬期積雪ノ間乘客ノ依頼ニ應シ幌馬櫓ヲ運轉シ所謂馬櫓追稼ヲ爲シ以テ貧困ナル家計ノ手傳ヲ爲シ居リタルモノナルトコロ昭和九年一月頃ヨリ同市街地料理店松月事桑原シゲ方抱酌婦和子事本内トメ(當十九年)ト相知リ深ク馴染ヲ重ヌルニ及ヒタルカ昭和十年一月中ヨリ和子カ肋膜ヲ患ヒ病臥セルヲ見舞ヒ其ノ看護ニ努ムル中同人ヨリ現在ノ苦境ヲ訴ヘラレ屢々落籍セラレタキ旨ヲ懇願セララル、ニ及ヒ其ノ落籍金ヲ得ルニ焦慮シ居タル折柄同年三月二十日午前九時頃遠別市街地遠別旅館宿泊客ナル小樽市砂止町河村製綿商店員中寺清(當二十七年)ヨリ隣村ナル苫前郡初山別村市街地迄ノ馬櫓便乘方ヲ求メラル、ニ應シ地方費道路ヲ經テ同日午前十時過頃遠別村字歌越別市街地ヨリ十五六町ヲ離ル、山道ニ差蒐リタル際乘客中寺清カ馬櫓内ニテ紙幣ヲ勘定スルヲ一瞥シ忽チ和子身邊ノ事情ニ想到シ茲ニ和子ノ落籍金ヲ得ルカ爲右中寺清ヲ殺害シテ同人ノ所持金ヲ奪取センコトヲ決意シ其ノ機會ヲ窺ヒツツ南行ヲ續ケ同日午前十一時頃歌越別部落ヨリ約四十町ヲ隔テタル初山別村字トコマナイニ至リ同所トコマナイ川河橋ヲ渡リ約百六十間ヲ隔テタル行人稀ナル坂道ニ差蒐リタル際乘客中寺清カ馬櫓ノ動搖ニ因ル苦痛ノ餘リ被告人ニ對シ姑ク馬櫓ヨリ降りテ步行センコトヲ申出ツルヤ此ノ機逸ス可カラスト爲シ御者臺木箱ヨリ清ノ短靴ト馬櫓金具打付用トシテ日頃携帯セル玄翁(昭和十年領第三九號ノ一四)ヲ取出シ馬櫓乗降口ニ至リ地上ニ短靴

ヲ差竝ヘタルトコロ斯ル企テアルヲ知ラサル清カ乗降口ヨリ半身ヲ乗出シ短靴ヲ穿チ正ニ立上ラントスル利那被告人ハ右手ニ匿シ持チタル玄翁ヲ揮ヒテ清ノ頭部ヲ數回強打シ同人ヲ馬櫓内ニ昏倒セシメタルカ其ノ流血ヲ防ク爲清ノ頭部ヲ毛布ニテ包ミタル上尙數回亂打シ因テ同人ヲシテ頭蓋骨々折大脳挫滅並出血ニ依リ即時死ニ致ラシメ更ニ該死體ヲ馬櫓ニ積ミ歌越別原野ニ至ル山道ヲ約六町程ヲ隔ツル通稱「三木サンノ澤」ト稱スル山澤ニ運ヒ馬櫓ヨリ清ノ死體ヲ降シ所持金七百圓餘ヲ奪取シタル上死體ヲ同所ノ土中ニ埋没シ以テ遺棄シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實ハ

- 一、死因ノ點ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述
 - 一、醫師正木實ノ中寺清ノ死體ニ對スル鑑定書中死亡ノ原因ハ頭蓋骨々折大脳挫滅兼出血ニ因ルモノナル旨ノ記載
 - 一、押收ニ係ル玄翁一挺(昭和十年領第三九號ノ一四)ノ存在
- ヲ綜合シテ之ヲ認ム

仍テ本件犯罪事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ死體遺棄ノ點ハ同法第九十條ニ各該當スルトコロ強盜殺人ニ付テハ無期懲役ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十六條第二項ニ則リ被告人ヲ無期懲役ニ處シ押收ニ係ル主文掲記ノ現金四百圓參拾六錢ハ判示犯行ノ贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ被害者中寺清ノ主人ニシテ右金員ノ所有者ナル河村定一ニ還付スヘキモノトス

テ仍主文ノ如ク判決ス

昭和十年八月二十三日

旭川地方裁判所刑事部

二八三 常習賭博、強盜殺人、住居侵入

判決

本籍 岩手縣岩手郡厨川村大字下厨川第四十四地割字權現坂四十七番地
住居 右同所

農

熊谷喜代志

明治三十三年二月十七日生

右ノ者ニ對スル強盜殺人、常習賭博被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル鉞(證第六號)一挺ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ肩書地ニ於テ農ヲ營ミ居タルモノナル處

第一、性放縱怠惰ニシテ賭事ヲ好ミ常習トシテ昭和十二年一月上旬頃ヨリ同年五月二十八日頃迄ノ間約三十回ニ亙リ盛岡市下厨川字三十軒高橋菊次郎方其ノ他同市内等數箇所ニ於テ右高橋菊次郎、平中市太郎、坂本金藏、杉本榮助、谷藤末吉、赤坂福太郎、川村京吉、加藤權吉、菅原明等ト共ニ金錢ヲ賭シ花札ヲ使用シテ俗ニ「トツバ」又ハ「ベタメクリ」ト稱スル博奕ヲ爲シ

第二、毎年春期耕作ヲ始ムルニ當リ盛岡市仁王新山小路ナル叔父齊藤龜松ヨリ所要資金ヲ借受ケ秋ノ收穫後之カ返済ヲ爲シ來レルカ之ト別途ニ昭和十一年末迄ニ返済スヘキ約百圓ノ債務ヲ負ヒ同年末右龜松ヨリ督促ヲ受ケシ際來春ニハ馬ヲ賣却シテ返済スヘシト口約シ一時ノ猶豫ヲ乞ヒタルモ其ノ成算ナク其ノ後右馬代金ヲモ費消シテ違約セル爲昭和十二年度ハ遂ニ龜松ヨリ耕作資金ノ融通ヲ受クルノ途ヲ失ヒ且例年秋ノ收穫期迄ハ自家ノ食糧ニ充ツヘキ應分ノ米ヲ貯藏シ居リタルニ同年ハ前示ノ如ク賭事ニ耽リテ家庭ヲ顧ミサリシ爲同年五月初旬ニ於テハ既ニ飯米二、三升ヲ剩スノミト爲リ龜テハ米ヲ買食セサルヘカラサル窮況ニ陥リ旁々田植時ヲ目睫ニ控ヘテ愈々糊口ニ窮シタルヨリ彼此焦慮ノ末被告人方居宅ヨリ東方約五町ノ箇所ニ在リテ宏壯ナル邸宅ヲ構フル盛岡市下厨川字宿田堀江繁(當七十一年)カ地方人ニ金錢ヲ融通シ居レリトノ評アルコトヲ想起シ同年五月十三日頃同人方ヲ訪レ同人ニ對シ所有不動産ヲ擔保トシテ金二百圓ノ借用方ヲ申込ミタルモ素氣ナク拒絕セラレシヨリ被告人ハ情ナキ同人ノ態度ニ憤激スルト共ニ堀江方ヲ以テ家人寡ク金錢強奪ニ便ナルヘシト推斷シ夜間同家ニ侵入シテ一家壘殺ノ上右計畫ヲ實行センコトヲ企テ機會ヲ窺ヒ同月十五日夕刻愈々其ノ意ヲ決シ同日午後十時頃自宅ヨリ鉞一挺(證第六號)ヲ携ヘ右堀

二八三 常習賭博、強盜殺人、住居侵入

江家ニ到リ表門ヨリ庭内ニ入り施錠不備ナル箇所ヲ探シ求メツツ裏手ニ廻リ便所横縁側ノ雨戸ヲ押開キテ屋内ニ侵入シ奥八疊ノ間ニ臥床熟睡中ノ堀江繁ノ面部ヲ所携ノ鉞ニテ數回打割リ腦損傷ニ因リ即死セシメ更ニ犯意ヲ繼續シテ其ノ物音ニ目覺メタル隣室ノ繁ノ養女タツ(當二十二年)ノ頸頭面部等ヲ右鉞ニテ亂打シ頭蓋骨ヲ粉碎シテ腦損傷ニ因リ即死セシメ次テ同室ニ臥床中ノ繁ノ妻チヨ(當五十九年)ノ頸部ニ鉞ヲ打込ミ一撃ノ下ニ失血即死セシメ然ル後悠々屋内ヲ搜索シテ繁等所有ノ

- 金鎖付金側懷中時計 一個
- 銀側兩蓋懷中時計 一個
- 銀側片硝子銀鎖付懷中時計 一個
- 現金約十圓在中ノ巾着型財布 一個
- 茶褐色革製三ツ折財布 一個
- 萬年筆 一本
- 毛筆 一本
- インキ壺 一個
- 堀江繁名義ノ印形 一個
- 堀江チヨ名義ノ印形 一個
- 堀江チヨ名義 一個

- 郵便貯金通帳(貯金額約七百五十圓) 一冊
- 日本勸業銀行盛岡支店額面二千五百圓ノ定期預金證書 一通
- 同上額面金四千圓ノ定期預金證書 一通
- 殖産銀行材木町支店貯金通帳(貯金額五百五圓七十二錢) 一冊
- 堀江繁名義 一通
- 日本勸業銀行盛岡支店額面金一萬圓ノ定期預金證書 一通
- フロツクコート(三ツ揃) 一着
- ヲ強取シ
- タルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中常習賭博ノ點ハ刑法第百八十六條第一項ニ、住居侵入ノ點ハ同法第百三十條ニ、強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段第五十五條ニ各該當スルトコロ住居侵入ト強盜殺人トハ其ノ間手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ其最モ重キ強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ同條所定ノ死刑ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十六條第一項ニ則リ被告人ヲ死刑ニ處シ押收ニ係ル鉞(證第六號)一挺ハ本件犯罪ノ供用物件ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年五月三十日

盛岡地方裁判所刑事部

二八四 住居侵入、竊盜、強盜殺人

判決

本籍 佐賀縣佐賀郡巨勢村大字高尾百三十九番地ノ一

住居 不定

無職

高柳敏雄

明治四十一年七月十四日生

右者ニ對スル住居侵入竊盜強盜殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人敏雄ヲ死刑ニ處ス

押收品中タオル一枚(證第三號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人敏雄ノ負擔トス

理由

被告人敏雄ハ弟妹ト共ニ兩親ニ養育セラレ中等學校ニ入りタルモ中途退學シテ家族ト別レ船夫トシテ海上生活ニ或ハ坑夫トシテ炭鑛ニ働キ居リタルモ轉々トシテ住居ヲ定メス流浪ノ生活ヲ續ケ居ル内昭和十二年三月二十七日神戸區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ因リ懲役一年ノ刑ヲ言渡サレ神戸刑務所ニ服役後間モナク同年四月末頃三重刑務所ニ移監セラレ同十三年三月二十六日出所シタルモ生活ノ反響ニ因リ生來ノ怠惰ニ轉猛ノ性ヲ加ヘ到底正業ニ從事スル能ハス再ヒ名古屋市内等ヲ放浪シテ生活ト慾望ヲ滿シテ居リタルモノナルトコロ右三重刑務所ニ服役中模範囚トシテ外掃ニ從事シ同刑務所官舎ノ模様ヲ熟知シ居ルヲ奇貨トシ

犯意繼續シテ

第一、(イ) 昭和十三年四月五日午前十時頃三重縣津市櫻ヶ岡三重刑務所官舎川波和夫方不在ニ乘シ扉ヲ乘越シテ屋

内ニ忍入り同人所有ノ二重マント一枚外衣類等二十餘點(時價合計百四十五圓餘)ヲ竊取シ

(ロ) 同年七月初旬午前十時頃同官舎水野兼吉方不在ニ乘シ前同様屋內ニ忍入り同人所有ノ金剛時計一個(時價十五圓位)夏洋服三組一着(時價十四、五圓)及ヒ現金二、三十錢在中ノ馬蹄形財布一個ヲ竊取シ

第二、同月二十九日午前十時頃同官舎小田倉一方支關ヨリ屋內ニ忍入り同家南側座敷ニ於テ金品ヲ物色中同人ノ妻千代野(當時三十九年)ニ發見セララルルヤ突如同女ニ飛ヒ掛リ左手ニテ同女ノ咽喉部ヲ押ヘ右手ヲ其ノ後頸部ニ掛ケテ

同女ヲ同家北側座敷ニ連行シ其ノ場ニ在リタルタオルヲ以テ猿轡ト爲シ更ニ長サ約四尺ノ綿布ヲ頸部ニ一卷シ其ノ兩端ヲ握リ被告人敏雄ノ求メニ應セサレハ右綿布ヲ緊縛スヘキ氣勢ヲ示シテ「金ヲ出セ出サヌト絞メルソ」ト言ヒ迫リ同女カ之ニ應スルノ色アルヲ見ルヤ強引シテ再ヒ右南側座敷ナル箆筒ノ前ニ到リタルトコロ却テ同女カ大聲ヲ發

セントシタルヲ以テ寧ロ同女ヲ殺害シテ金品ヲ奪取セント決意シ其ノ場ニ於テ右綿布ノ兩端ヲ強ク引キ絞メツツ同女ヲ顛倒セシメ右綿布ヲ其ノ頸部左後方ニテ結束シ更ニ死期ヲ早メ蘇生ヲ妨クル目的ニテ暫時ハンカチヲ同女ノ鼻腔及ヒ口ニ當テ押ヘ因ツテ同女ヲ窒息死ニ致シタル上金品ヲ物色シ贓物ヲ取纏メタル後尙萬一蘇生スル場合ヲ懸念シテ屍體ヲ俯伏セト爲シ自己ノ所持セルタオル(證第三號)ヲ以テ兩手ヲ後手ニ縛シ金側時計一個(時價十五圓位)衣類十餘點(時價合計七十餘圓)及ヒトランク一個(時價四、五圓)ヲ奪取逃走シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人敏雄ノ所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百三十條ニ竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段ニ各該當スルトコロ右住居侵入竝ニ竊盜強盜殺人ハ夫レ夫レ連續犯ニシテ住居侵入ト竊盜及ヒ強盜殺人ノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十五條第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ重キ強盜殺人ノ罪トシテ處斷スヘク其ノ所定刑中死刑ヲ選擇シ被告人敏雄ヲ死刑ニ處シ押收品中タオル一枚(證第三號)ハ本件犯行ノ用ニ供シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人敏雄ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年六月一日

安濃津地方裁判所刑事部

二八五 強盜殺人、死體遺棄

判決

本籍 茨城縣東茨城郡長岡村大字長岡二百七番地ノ一
住居 同縣新治郡石岡町金丸町千六百八十二番地 江戸たけ方
理髮職 前 谷 津 義 政

明治四十四年八月一日生

右ニ對スル強盜殺人死體遺棄被告事件ニ付昭和十五年三月二十六日水戸地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ尋常小學卒業後理髮職又ハ鍛冶職ヲ見習ヒ昭和七年四月十八日水戸區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役十月、同八年七月三十一日東京控訴院ニ於テ竊盜及強盜未遂罪ニ依リ懲役四年、同十二年八月二十八日水戸區裁判所ニ於テ竊盜及私文書偽造行使詐欺罪ニ依リ懲役二年ニ處セラレタルカ右最終ノ受刑ヲ了シテ水戸刑務所ヲ出獄シタルハ同十

四年九月五日ナルトコロ右受刑中同囚ノ廣瀬福壽ヨリ出獄後ハ同人ノ内縁ノ妻ナル肩書ノ江戸たけ方ニ於テ理髮業ノ手傳ヲ爲シ呉レ度旨依頼セラレタルニ依リ右たけ方ニ身ヲ寄せ居タルニ偶同年十月一日頃石川國三ナル者ヨリ土浦町朝日町三千七十八番地ニ於テ福澄食堂ナル屋號ニテカフエー業ヲ營ム福澄福三郎方ニ於テ女給ヲ物色シ居ル旨ヲ聞タヤ之ヲ周旋シ得ル的確ナル見込ミナカリシニ拘ラズ被告人ノ手ヲ以テスレバ容易ニ雇ヒ得ル婦女アル如ク裝ヒ同月二日右福三郎ヲ水戸市ニ連出シタルモ周旋スベキ婦女ナカリシヨリ玆ニ同人ヲ殺害シテ同人ガ女給雇入ノ爲携行セル所持金ヲ強取セント企テ福三郎ヲ同市黒羽根町ナル矢島眞太郎方ニ待タセ置キ同市構町ナル井坂鉄二郎ニ於テ鍛冶用ニ使用スト述ベテ青酸加里一壘ヲ入手シ且ツ電話ヲ以テ矢島方ナル福三郎ニ同縣鉾田町ニ適當ナル女アリテ話ハ内定セリト通話シタル上矢島方ニ戻リテ福三郎ヲ伴ヒ水戸市ヲ出發シ途中所用アリト稱シ同縣東茨城郡長岡村ニテ理髮業ヲ營ム伯父前谷津初吉方ニ誘致シ福三郎ニ酒ヲ勸メ其ノ機會ニ右青酸加里ヲ混入シテ飲用セシメントシタルモ同人ガ殆ン下飲酒セザリシヨリ更ニ俗ニ紅葉廻リト稱スル鉾田行ノ道筋附近ナル同那上野合村鳥羽田ナル雜林中ノ里道ニ誘キ出シ暴力ヲ以テ之ヲ殺害シタル上其ノ所持金ヲ強奪セント決意シ福三郎ニ對シテハ鉾田ニ赴ク途中右鳥羽田ニ立寄りテ女ノ親ヨリ承諾書ヲ取ル必要アリト詐リ伯父方ヲ出デ自動車ヲ雇ヒテ右紅葉廻リヲ進ミ同日午後七時頃右鳥羽田ナル同村小學校分教場附近ニテ下車シ福三郎ト共ニ左方(東方)ナル里道ニ入り畑又ハ雜林中ノ道ヲ五、六町進ミ更ニ引返シ來ル途中同人ニ口論ヲ挑ミテ決行ノ機會ヲ捉ヘ同人ノ胸倉ヲ掴ミテ互ニ押合ト爲リ自ラ足ヲ滑ラシテ道路脇ノ窪地ニ倒ルルヤ左手ニテ福三郎ノ胸倉ヲ捉ヘタル儘右手ニテ同人ノ咽喉ヲ扼サントシタルモ意ノ如クナラザリシヨリ更ニ右手ヲ同人ノ股間ニ入レ其ノ畢丸ヲ握リ締メテ強ク引クト共ニ右足ヲ同人ノ兩足ノ間ニ差入レテ拂ヒ之ヲ地上ニ投飛

パス等ノ暴力ヲ加ヘ因テ同人ノ陰囊ヲ引裂キ左右兩輸精管等ヲ切斷スルノ重傷ヲ負ハシメ遂ニ同人ガ力盡キテ助命ヲ乞ヒツツ差出シタル現金百二十圓程在中ノ財布ヲ奪取シタル上其ノ乞ヲ入レテ同人ヲ鉾田町ナル北浦病院ニ於テ醫療ヲ受ケシメタルモ瀕死ノ重傷ニシテ餘命幾許モナキヲ知ルヤ更ニ之ヲ水戸市ニ運ビ終ニ同夜(翌十月三日午前三時頃トナル)同市元山町附近ノ裏道ニ於テ前記創傷ニ因ル腹膜下出血ノ爲腹膜ヲ刺戟シテ惹起セラレタル嘔吐物ヲ氣道内ニ吸入セシメ之ヲ窒息死ニ至ラシメテ殺害シ其ノ死體ヲ附近ノ陸稻畑内ニ隠匿シ置キタル後更ニ翌四日夜附近ヨリ野菜籠ヲ持來リテ同人ノ死體ヲ籠詰ト爲シタル上自動車ヲ雇ヒテ之ヲ同縣結城町ニ運ヒ同月五日早朝之ヲ同町吉田用水ノ端ナル雜木林内ニ遺棄シテ逃走シタルモノナリ

證據ヲ按スルニ被上ノ犯行ニ付テハ福澄福三郎ニ與ヘタル傷害ノ部位程度並ニ死因ノ點ヲ除ケハ被告人ガ豫審及原審ニ於テ之ヲ自陳スルトコロナルニ拘ラス當審ニ至リ強盜殺人ノ意思ヲ以テ兇行ヲ加ヘタルモノニアラス單ナル爭鬪ノ結果福三郎ニ重傷ヲ與ヘテ之ヲ死ニ致シタルモノニシテ判示ノ財布モ福三郎ヨリ任意被告人ニ提供シタルモノノ如ク辨疏スト雖モ

一、判示冒頭ヨリ江戸たけ方ニ身ヲ寄せ居タル迄ノ記載事實及福澄福三郎ノ死體ヲ遺棄シタル事實ニ付被告人ノ當院公廷ニ於ケル判示同旨ノ供述

一、被告人ニ對スル豫審第二回乃至第四回訊問調書ヲ通シ同人ノ供述トシテ本年(昭和十四年)九月三十日石川國三カ江戸方ニ一泊シ翌日自分ニ對シ土浦町朝日町ノカフエーテ女給ヲ二人程欲シカツテ居ルカラ世話シテ呉レト申スニ依リ自分ハ水戸市奈良屋町ノ川上豆腐店ノ家内ヲ連レ出シテ世話シ樓ト思ヒ石川ニ對シ女ハナイ事ハナイ水戸ノ奈良屋町ニ二十四歳ノ酌婦カアリ自分カ行ツテ話セハ連レテ來ラレル又同町ノ一心亭ニモ西建寺さまト言フ酌婦カアルカラ話シテヤラウト答ヘ其ノ結果十月二日

ノ朝土浦ノカフエノ主人即チ福澄カ江戸方ニ來リタルヲ以テ同人ニモ水戸ノ奈良屋町ニ女カ二人アルコトヲ話スト福澄ハ一人テヒ宜イカ出來レハ二人世話シテ貰ヒ度イ金モ一人頼ム丈ハ持ツテ來タ若シ二人頼メレハ不足分ハ電報爲替テ家カラ取寄セルト申シソレヨリ同人ヲ伴ヒ午前十時頃石岡發ノ列車ニテ水戸ニ赴キ晝食ヲ濟セタル後福澄ヲ自分ノ知合ナル同市黒羽根町ノ矢島眞太郎方ニ案内シテ待タセ置キ奈良屋町ノ川上豆腐屋ヘ行キタルカ妻女カ不在ニテ的カ外レソレヨリ同町ノ伯父田口子之介方ニ赴キ前ニ伯父ニ預ケテアリシ二度目ノ受刑ヲ終ヘテ出獄スル時貰ヒシ賞與金ヤ腕時計ヲ返シテ貰ハントシタルニ伯父ハ返シテ呉レス刑務所ノ保護主任カラオ前ニハ渡スナト言ハレタト申スニ依リ更ニ水戸ノ刑務所ニ行キ保護主任ニ會ハントシタルモ妻カ見ヘス又受刑中ノ廣瀬福壽ニモ用事アリタルカ同人モ新宮村ニ行ツテ居ルトノ事ニテ會フ事カ出來ス是等ノ事ニテ三十分許リ刑務所ノ待合室テ待ツテ居ル間ニ女ヲ連レテ來ル事モ出來ス伯父カラ金ヲ返シテ貰フコトモ出來ス困ツタ末色々考ヘテ遂ニ福澄ヲ殺害シテ同人ノ所持金ヲ奪ウト決心シ其ノ方法トシテ青酸加里ヲ使用セント考ヘタルカ夫レハ自分カ前ニ同市下市ノ井坂鐵工所ニ働テ居タ當時鉦ヤ鎌ノ双ニ焼ヲ入レルニ青酸加里ヲ使用シタルコトアリ且ツ青酸加里ハ少シテモ之ヲ吞メハ人カ死ヌ事ヲ知り居タル爲ナリ、ソコテ青酸加里ヲ手ニ入レ様ト下市ニ行キ井坂鐵工所ノ前ヘ行キタルニ同鐵工所ノ息子ニ會ヒ同鐵工所ニ寄り右息子ヨリ軍需品ノ注文等ニ忙シイカラ來テ手傳ツテ呉レト言ハレタル故夫ヲ承諾シ自分ハ今石崎村テ鍛冶屋ヲヤツテ居ルカ双物ニ焼ヲ入レルノタカラ青酸加里ヲ買ツテ來テ貰ヒ度イト頼ミ同所ノ小僧ニ一圓ヲ渡シテ青酸加里一ポンド入一壘ヲ買ツテ來テ貰ヒ井坂ノ息子ニハ又來ルカラト言フテ同所ヲ出テ上市ヘ引返ス途中之ヲ福澄ニ吞マセルニハ水戸テハ甘クナイ鉦田町ノ方ニ女カアルカラト同人ヲ連レ出シ何處カノ食堂ヘテモ入ツテ酒ニ青酸加里ヲ入レテ吞マセ様ト考ヘソレニハ鉦田町ニ女カアルト電話テ福澄ニ話シテ置イタ方カ宜イト思ヒ常磐線ノ踏切ヲ越ヘタ右側ノガソリン店ニ入りソノ内儀ニ石岡カラ來タ者ノ代理タト言フテ矢島方ノ土浦カラ來タ人ニ鉦田町ニ女カアツテ決ツタカラ今直々歸ルト電話ヲ掛ケテ貰ヒソ

レヨリ矢島方ニ戻リタルニ福澄ハ右ノ電話カアツタトテ御苦勞様ト大層喜ヒ居リタル故共ニ鉦田ニ行カウトテ矢島方ヲ出テ同市橋町ノ常磐自動車ノ車庫ニ行キ發車迄車庫前ノ食堂ニ入りタルカ其ノ時福澄ニ酒ヲ飲ムカト訊ネタトコロ酒ハ少シモ飲マヌトノ事ナリシ故青酸加里ヲ用ヒテ同人ヲ殺害スルコトハ出來ヌト思ヒタルモ(青酸加里ノ使用ヲ斷念シタル時期ニ付テハ後記ノ如ク訂正サル)兎ニ角長岡村ノ伯父方ニ行キ更ニ金ヲ奪ル方法ヲ考ヘ様ト思ヒ午後四時頃發ノ自動車ニテ福澄ト共ニ福澄ニハ長岡ノ伯父ニ用事カアルト稱シテ長岡ニテ理髮店ヲ營ミ居ル伯父初吉方ニ赴キタルカ自分ハ右自動車内ニテ伯父ノ所ニ行キテ時間ヲ過シ夜ニナツテカラ鉦田ニ行クトテ福澄ヲ誘出シ其ノ途中上野合村鳥羽田ニ女ノ親カ居テ其ノ承諾書ヲ取ルカラト稱シテ自動車カラ下ロシ鳥羽田ニ行ク山道(茲ニ山トアルハ林ノ意)ニ於テ福澄ヲ殺シテ金ヲ奪ラウト決心シタルニ依リ(兇行ノ場所ヲ鳥羽田ナル林道ト決定シタル時期ニ付テモ後記ノ如ク訂正サル)伯父方ニ於テ酒ヲ買ハセ午後五時頃カラ伯父ト福澄ト自分ノ三人ニテ飲ミ始メタルカ其ノ時福澄ハ盃ニテ二杯程シカ飲マサリシカ午後七時頃伯父方ニテ夕食ヲ出シ呉レタルヲ以テソレヲ食ヒ夕食ノ終リシ頃ハ既ニ暗クナリシ故時刻ハ宜イト思ヒ福澄ト共ニ伯父方ヲ出テ同村ノ小鶴迄歩キ同所カラ自動車ニ乘リテ鉦田ニ向ヒタルカ見ルト海老澤廻リノ鉦田街道ナリシヲ以テ紅葉廻リノ鉦田街道ニ引返サセ上野合村ノ分教場ノ所ニテ車ヲ止メサセ福澄ニハ既ニ伯父方ニ於テ鳥羽田ニテ女ノ親ノ承諾書ヲ貰ツテ行カウト話シ置キタル故同所カラ福澄ト共ニ鳥羽田ニ行ク山道ニ入り五、六町進ミタルニ眞暗テ道カ判ラナクナリ福澄モ此時ニハ騙サレタト氣付イタモノカ斯様運クナツテ道カ判ラナイテハ仕方カ無イ明日又來様ト不服ラシク申シタル故コソヨリ引返シテ戻リ來ル途中福澄ヲ怒ラセテ決行ノ機會ヲ得ント思ヒ同人ニ口論ヲ挑ミ同人ト口喧嘩トナリ丁度道ノ左側ニ松ノ大木カアリテ左側ハ畑、右側ハ雜木林ノ間ニ來タ時「フザケルナ此野郎」ト言ヒナカラ兩手ニテ同人ノ胸倉ヲ掴ヘルト何ヲスルトテ同人モ私ノ胸倉ヲ掴ヘ押合ト爲リ自分ハ足ヲ踏外シテ左側ノ畑ノ傍ナル溝ノ邊ナ低イ處ニ仰向ニ倒レ福澄カ自分ノ上ニ乗掛ツテ來タノテ下カラ手ヲ出シテ左手テ同人ノ胸倉ヲ掴

ミ右手ヲ同人ノ咽喉ニ當テ、グツト押上ケ之ヲ縮メントシタルモ甘ク行カサルヨリ更ニ兩手テ同人ノ胸倉ヲ掴ヘ自分ノ方ヘ引寄セタル上右手ヲ脇ノ方カラ同人ノ股ニ差入レテ猿股ノ上カラ拳ヲ擲ヘグツト握リ縮メテ強ク引張ルト同時ニ右足ヲ福澄ノ兩足ノ間ニ差入レテ其ノ左足ヲ私ノ右ノ方ニ拂ツテ同人ヲ投ケルト横ニ倒レタルカ其ノ時同人ハ「ウン」ト苦シサウナ聲ヲ立テ立上ツテヨロケナカラ道ヲ横切ツテ右側ノ雜木林ノ中ニ逃込ミタル故自分モ立上ツテ雜木林ノ中ニ追行キタルカ自分カ腹イテ轉ンテ木ト木ノ間ニ頭ヲ突込ムト福澄ハヨロメイテ來テ私ノ上ニ倒レカ、リタルモ自分カ起上ル迄ニ同人ハ道ノ方ニ逃ケ自分カ追カケ行キシ時ハ同人ハ道ノ林寄リノ所ニ東方ヲ頭トシテ俯伏ニ倒レ居リ「怎ウカ助ケテ呉レ俺ハ可愛子供モアルノダカラ未タ死ニタクナイ此處ニアル金ハ皆ヤルカラ命丈ケハ助ケテ呉レ」ト言ヒ乍ラ腹巻ノ間カラ財布ヲ出シテ私ノ方ニ出シ自分カ夫レヲ取ラウトシタ時同人カ其ノ財布ヲ落シタル故自分ハ夫レヲ拾上ケテ自分ノズボンノポケットニ入レタリ、自分ハ以上陳述ノ如ク福澄ヲ殺シテ金ヲ奪ル考ノ下ニ右ノ如キ暴力ヲ加ヘタルモノニシテ右財布中ニ八百二十圓近ク入り居タリ（以上第一回調書）自分ハ福澄カラ助命ヲ乞ハレ財布ヲ奪ツテ了ツタ後ナノテ同人カ可哀相ニナリ同人カ怪我ヲシテ居ルノテ醫者ニ掛ケテ遣ラウト思ヒ「手前ノ生命ハ助ケテヤルカラ俺ニヤラレタ事ハ一生誰ニモ言フナ、若シ一寸テモ言ツタラ承知シナイソ」ト言フト同人ハ「決シテ言ハナイカラ助ケテ呉レ」ト申ス故同人ヲ背負ヒテ半町程自動車ヲ待タセアル縣道ノ方ニ歩キタルモ餘リ重キ故同人ヲ下ロシ其ノ兩手ヲ肩ニ掛ケ引摺ル様ニシテ自動車ノ處ヘ參リ運轉手ニハ今飛行場ノ鮮人ノ土工ト喧嘩ヲシテ怪我ヲサセテ了ツタト言ヒ其ノ健鋒田ニ運轉サセ北浦病院ニテ福澄ノ名ヲ山野長一ト言フ土工タト出鱈目ヲ言ヒ喧嘩ヲシテ傷ヲ受ケタト言フテ治療シ貰ヒタルカ其ノ時福澄ノ拳丸ニ傷カアルコトカ判リ醫者ハ自分ヲ別室ニ呼ンテ福澄ノ拳丸カ一ツ無イ事ヤ内出血ヲシテ居ルカラ永ク持タヌ事ヲ話シ呉レタルヲ以テ同病院ニ入院サセテハ自分ノ犯行カ判ルト思ヒ家カ土浦タカラ土浦ニ入院サセタイト言フト醫者ハ大キイ注射ヲ一本ト小サイ注射ヲ四、五本、足ト腕ニシテ呉レタル故治療代ヲ拂ツテ病

院ヲ出テ待タセテアツタ自動車ニ乘リタルモ醫者カラ永ク持タヌト聞カサレテ福澄ノ處置ニ困リ兎ニ角水戸ヘ行キ宿屋ニ泊ツテ考ヲ決メ様ト思ヒ水戸ノ梅屋旅館迄自動車ヲ運轉シ貰ヒタルカ其ノ途中福澄カ餘リ苦シカルノテ長岡ノ伯父方ヘ寄リテ暫ク休マセ様ト思ヒ伯父方ニ寄リタルモ伯父カラ布團カナイト拒ハラレタルヲ以テ其ノ儘水戸ヘ來リ明日入院サセルノタト申シ僞名シテ梅屋ニ泊リタルカ難テ福澄カ「キヤツ」ト異様ノ聲ヲ出シ夫レキリ口カ利カナクナリシ故愈々死期ノ迫リシ事ヲ思ヒ此處テ死ナレテハ死體ノ始末ニ困ルト考ヘ之カラ入院サセルト申シテ午前二時半カ三時頃ニ梅屋カラ同人ヲ背負ヒ出シ常磐公園ノ方ニ向ヒ途中ヨリ左ノ狭イ横町ニ入り家數テ十軒程進ンテ道端ニ福澄ヲ下ロストグツタリト仰向ケニ引繰リ返ツタノテ生死ヲ確メル爲附近ノ井戸ヨリ水ヲ汲ンテ同人ノ口ニ入レ見タルカ二日目ノ水ハ口カラ出テ了ヒ其ノ中ニ傍ノ家ニテ赤子ノ泣聲カシ女親カ夫レヲアヤシ居ル様子ナリシヲ以テ愚圖ノシテ居ルト見付ケラレテ了フト思ヒ宿屋カラ着セテ來タ丹前ト浴衣ノ後口襟ヲ引上ケ夫レヲ福澄ノ頭カラ顔ニ被セテ其ノ上カラロヤ鼻ノ邊ヲ一、二分平手テ押ヘソレテ死ンテ了ツタモノト思ヒ後テ又何處カヘ特出ス考ニテ取敢ヘス其ノ近クノ陸稻畑ノ中ヘ同人ノ死體ヲ隠シ常磐病院ニ入院サセテ來タト申シテ宿屋ニ歸リタリ（以上第三回調書）十月三日ニハ午前五時半頃起キ柳タクシノ自動車ニテ長岡ノ伯父方ニ寄リ昨夜ノ格闘現場ニ行キ福澄ノ着物ヤ草履ト煙草、手拭等ヲ拾ヒ伯父方ニ戻ツテ自動車ヲ返シ拾ツテ來タ着物ヤ草履等ノ洗濯ヲ伯父方ニ頼ミ午前九時頃江戸ノ店ノ内儀サンニ捨テ、呉レト頼ミタリ、たけニハ福澄ハ他ニ廻ツタト言ヒ二十五圓ヲ渡シテ之ヲ罰金ヲ納メタカ宜イト話シタリ、自分ハ福澄ヲ殺シタカラニハ何處カヘ逃ケナケレハナラス福澄ノ死體モ片付ケネハナラヌト考ヘ其ノ費用ニ福澄ノ家内カラ金ヲ騙シテ取ラウト思ヒ土浦ニ電話ヲ掛ケテ翌四日ノ朝同女ヲ呼寄セタルカ一人ノ男ヲ連レテ來タレル故孰レカ一人ヲ連レ出サウトシタルモ肯容レサリシ爲二人ヲ伴ヒテ長岡ノ伯父方ニ行キタルカ同所ニテ乾シテアル福澄ノ草履ヲ見付ケラレ疑ヲ

懸ケラレタルヲ以テ餘儀ナク共ニ石岡迄戻リタル際逃ケテ了ヒタリ、ソレヨリ水戸ニ行キ矢島貞太郎方、井坂鐵工所等ヲ訪レタル後同夜福澄ノ死體ノアル陸稻畑ニ行キ附近カラ野菜籠、莫蓮、繩等ヲ持來リテ同人ノ死體ヲ籠詰ト爲シ柳タクシーノ自動車ニテ之ヲ結城町ニ運ヒタルカ自動車賃ナカリシ故同町男山方ノ傍ニ右籠詰ヲ下ロシタル上運轉手ヲ詐ツテ下館町ニ遣リ其ノ際ニ附近ナルリヤカーニ籠詰死體ヲ乘セテ町外レナル川岸ノ雜木林中ニ運ヒ五日早朝之ヲ同所ニ遺棄シテ逃走シタルカ翌六日古河町ニ於テ逮捕セラレタル旨(以上第四回調書)ノ記載

一、被告人ニ對スル第五回訊問調書中實際ハ長岡ノ伯父方ニテ福澄ニ青酸加里ヲ飲マセル考ニテ十月二日ニ同人ヲ伴ツテ長岡ニ行キタルモノニシテ福澄ハ水戸ノ常磐自動車前ノ食堂ニテ酒ヲ飲マヌト言ヒタルモ長岡ニ行キテ伯父ト一緒ニ飯メバ飲ムト思ヒシナリ、然ルニ長岡ニテモ福澄ハ什ウシテモ餘リ酒ヲ飯マナイノテ青酸加里ヲ入レルコトカ出來サリシ故同所ニテ鉢田(行ク事ニシテ鳥羽田ノ山道ヲ福澄ヲ殺シテ金ヲ奪ル氣ニナリシモノナル旨)ノ供述記載

一、證人山口とめニ對スル豫審第一回訊問調書中自分ハ福澄福三郎ノ内妻ニシテ自分等ハ判示ノ場所ニ於テ判示福澄食堂ヲ經營シ居タルカ女給カ足ラス困リ居リシ爲本年(昭和十四年)九月中石川ト言フ男ニ其ノ話ヲ聞カセタルトコロ其ノ後石川ヨリ石岡町ノ床屋カ話セハ確ニ頼メル女カ水戸ニ二人居ルトノ話ナリシヲ以テ夫ハ十月二日ノ朝石岡カラ其ノ床屋ト共ニ水戸ヘ女ヲ頼ミニ行ク爲自分カ渡シタ百三十圓ノ外何程カノ金ヲ持チテ家ヲ出掛ケタルカ翌三日ノ午前九時頃石岡カラ言付ヲ頼マレタトノ電話テ女ハ二人定ツタカ鉢田ノ方ニモ女カ一人アルノテ丹那ハ其ノ方ヘ廻ツタ明日ノ朝迄ニハ歸レルカラ心配シナイテ吳レトノ話カアリ更ニ四日ノ朝八時半頃ニ石岡カラ男ノ聲テ今丹那ハ女ヲ二人石岡ノ江戸床屋ニ連レテ來テ居ルカ金カ不足タカラ至急二百圓持參スル様ニトノ電話カ掛リ夫ヲ電話口ニ出シテ吳レト言フト丹那ハ友部ノ宿屋ノ方ニ行ツテ居ル二百圓ヲ急イテ持ツテ來ナイト丹那ハ歸レナイト言ハレタルヲ以テ自分モ心配トナリ島田登久ト言フ者ヲ頼ミ同人ト共ニ金ヲ用意シテ早速石岡

町ノ江戸方ヲ訪ネタルニ石川カ居リテ女ノ事テ世話ニナツタノハ此ノ人タトテ被告人(豫審廷ニ於テ被告人ヲ本證人ニ示ス)ヲ引合セタルニ依リ被告人ニ主人ノ事ヲ訊ネタルニ實ハ東茨城郡長岡村ノ自分ノ實家ニ居ルト言ヒ自分ニ金ヲ持參シタカト言フニ依リ此ノ人(島田ヲ示ス)ニ頼ンテ來タト答ヘタルトコロ被告人ハ島田丈ヲ連レテ長岡ヘ行カントシタルカ自分カ承知セサリシ爲結局三人ニテ長岡村ノ被告人カ實家タト言フ床屋ヘ行キタルカ同家ニモ夫モ女モ居ル様子カ無ク裏ノ縁側ニ出テ見ルト軒下ノ石ノ上ニ夫ノ穿イテ出タ草履カ乾シテアリシ故之ハ夫ノ身ニ何事カ起リハセヌカト思ヒ同家ノ主人ニ様子ヲ聞クト昨日ノ朝笠間ヘ行クトテ二人ノ女ヲ連レテ出タトノミテ後ハ何ヲ訊ネテモ黙ツテ居リ此處ヘ被告人カ奥カラ出テ來テ十九ノ方ノ女カ笠間カ本籍タカラ親ノ承諾書ヲ取りニ行ツタノタラウト言ヒ又草履ノ乾シテアル譯ヲ訊ケハ昨日此地ハ大雨タツタカラ下駄ト穿キ替ヘテ出タト今度ハ笠間ヘ出テ行クヲ見タルカ如キ事ヲ述ヘタリ、自分ハ被告人ノ話ニ不安ヲ増シ手續ヲシナケレハナラヌカラ歸ルト申スト被告人モ自分モ責任カアルカラ笠間テモ土浦テモ一緒ニ行クトテ付イテ來タルカ石岡町ノ江戸方迄戻リタル時被告人カ逃ケテ了ヒタル故早速石岡警察署ニ届出テタルトコロ同月六日ニ至リ夫ノ死體カ結城町ニアリシコトカ判リタル旨並ニ昭和十四年押第八六號ノ一四タル草履ハ右述ヘタル夫ノ草履ニシテ又同押號ノ四七ノ財布カ當時夫カ金ヲ入レテ持チ行キタルモノナル旨ノ供述記載

一、證人石川國三ニ對スル豫審訊問調書中自分ハ本年(昭和十四年)九月十八日頃ヨリ土浦町ノ周旋業廣澤國光方ニ厄介ニ爲リ居リシトコロ同町ノカフエー福澄ノ家内ヨリ廣澤ニ對シ女給カ二人程欲シイ無クテ困ツテ居ルト話シ居ルヲ聞キタルヨリ同月三十日江戸たけ方ニ行キシ際前谷津義政ニ其ノ話ヲ爲シ心當リカアツタラ世話シテ吳レナイカト頼ミタルニ同人ハ女ナンカ幾ラテモアル水戸ノ奈良屋町ニ酌婦ヲシテ居ル西連寺さきト言フ二十四ノ女ハ前借金百八十圓位タカ自分カ話セハトウニテモナル又同市南町テ酌婦ヲシテ居ル二十七ノ女ハ八十圓ノ前借タカ之モ自分カ話セハ連レテ來ラレル、十月二日ノ休ニ水戸ヘ行クカ

ラ其ノ時話シテ世話ヲシテ遺ラウトノ事ナリシヲ以テ翌一日自分ハ土浦ニ戻リ福澄ノ主人ニ其ノ話ヲ爲シ結局二日ノ朝福澄ハ朝早ク石岡ヘ行キ前谷津ト共ニ水戸ヘ行クコトトナリタルカ右一日ニ福澄ハ金ハ明日百八十圓ノ女ノ分丈ケ持ツテ行クカ二人テハ足りヌカラ不足分ハ電報爲替テ取寄セテモ宜イト申シタルニ依リ自分ハ其ノ旨前谷津ニ傳ヘタル旨ノ供述記載

一、證人井坂傳ニ對スル豫審訊問調書中自分方ハ父名義ニテ水戸市棚町ニテ井坂鐵工所ヲ經營シ居ルカ本年(昭和十四年)十月二日午後一時半頃自分方前ノ道路ニテ十年程前ニ自分方ニ二十日許リ職工ヲ爲シ居タル前谷津義政ヨリ言葉ヲ掛ケラレ同人ハ自分方ニ寄りタルカ其ノ際同人ハ一月程前ニ除隊ニナリ今石崎村ニテ鍛冶屋ヲシテ居ルトノ事ナリシ故自分方ニテ職工カ無クテ困ツテ居ルカラ來テ働テ呉レナイカト話スト同人ハ鈍ヲ三挺程注文ヲ受ケタカ燒ヲ入レルノニ青酸加里カ無クテ困ルカラ少シ讓ツテ呉レナイカ鈍カ出來上レハ明日カラテ來テ働クト申シタルニ依リ藥屋カラ買ツテ遣ル事ニシ同人ヨリ一圓ヲ受取り自分方ノ認印ヲ小僧ニ持タセテ入木藥店ヨリ青酸加里一ポンド入一壘ヲ買ハセテ之ヲ前谷津ニ渡シ遣リタル旨ノ供述記載

一、證人前谷津初吉ニ對スル豫審訊問調書中義政ハ自分ノ妹きむト其ノ婿寅之介ノ子ニシテ自分ハ義政ノ伯父ナルカ本年(昭和十四年)十月二日午後四時頃義政ハ五十近ク見ヘル男ヲ連レテ私方ニ參リ之ハ土浦ノカフエー福澄ノ主人テ女ヲ頼ミニ來タト申シ暫ク振タカラ伯父サンニ一杯振舞ヒタイト申シテ酒ヲ買ヒソレヲ三人テ午後六時頃迄飲ミソレカラ飯ヲ出シ飯カ終ルト義政ハ鉢田ニ行クトテ福澄ト二人テ出テ行キタルカ義政モ福澄モ酒ハアマリ飲マサリシモノナリ、其ノ晚十二時過頃自動車カ私方ノ前テ止リ義政カラ呼起サレテ出テ見ルト義政ハ鉢田ヘ行ク途中百里原ノ飛行場ノ鮮人ト喧嘩ヲシテ福澄カ怪我ヲシタ今カラ病院ヘ行クノタカ二時間許リ休マセテ貰ヒ度イト申シタルカ自分ハ水戸ヘハ二、三十分故早ク水戸ヘ行ツテ入院サセタラ宜カラウト申シタリ、義政ハ翌三日ノ朝六時頃水戸カラ貨切自動車テ參リ怪我人ハ常磐病院ニ入院サセテ來タカラ大丈夫タト申シ今カラ喧嘩ノ現場ニ行ツテ見テ來ルトテ其ノ自動車テ行キ二時間餘テ戻ツテ參リ解決カ着キサウタト言ヒ前日福澄ノ着シ

居タルセルノ單衣ト草履トヲ出シテ洗濯シテ置イテ呉レト申シ自動車ヲ歸シテ石岡ニ戻リ行キタルカ更ニ同月四日ノ午後ニ義政ハ福澄ノ家内タト言フ女ト四十五、六ノ男ヲ連レテ參リ兩名ヲ座敷ニ上ケテ置イテ店ニ居タ私ニ福澄ノ女將ニハ主人ハ昨日女ヲ連レテ笠間ヘ廻ツテ土浦ヘ歸ルト言ツテ出テ行ツタト言フテ呉レト申シタル故之ハ義政カ何かシタノテハ無イカト思ヒタルモ其ノ場テ福澄ノ家内等ニ騒カレテモ困ルト思ヒ其ノ通り申シタリ、義政ハ能ク嘘ヲツイテ人ヲ騙シ一寸見テハ温順シイ様テアルカ其ノ實荒イ性質ト思フ旨ノ供述記載

一、證人中村博ニ對スル豫審訊問調書中自分ハ本年(昭和十四年)十月二日午後六時半頃長岡村小鶴ノ自宅カラ二人ノ男ヲ自動車ニ乗セ之ヲ運轉シテ鉢田ニ行キ更ニ水戸ニ行キタルカ其ノ二人ノ男トハ被告人(被告人ヲ豫審廷ニ於テ本證人ニ示ス)ニシテ一人ハ四十歳位ノ和服ノ男ナリシカ小鶴ヨリ半道程行ツタ時被告人カ此ノ道テハナイ鳥羽田ノ方タ割増ヲ出スカラトノ事ナリシ故引返シテ紅葉廻リノ道ヲ運轉シ行キタルカ其ノ際被告人ハ年上ノ和服ノ男ニ鳥羽田ニ廻ツテ證明書ヲ貰ツテ行カナケレハ又來ル事ニナツテ無駄足タカラト申シ居タリ、上野合村ノ鳥羽田ノ分教場ノ處ノ四ツ角ニテ被告人ハ此處タトテ車ヲ止メサセ二、三十分待ツテ居テ呉レト申シ年上ノ男ト共ニ左ノ方ノ山路ニ入ツテ行キタルカ夫レカ午後七時頃ナリシ、然ルニ凡ソ一時間位シテカラ二人ハ其ノ山路カラ出テ參リ被告人ハ元ノ如キ服裝ナリシカ年上ノ男ハ裸ニナツテ居リ被告人ニ寄り掛ル様ニシテヤツテ參リ自動車ニ乗ルト坐席ノ隅ニ處ニ寄り掛ツテ寢ル様ナ恰好ヲ爲シ居リ被告人ハ喧嘩ニナツテ困ツタ相手ハ四人タカラヤラレタトテ其ノ機鉢田ニ向ツテ運轉サセ其ノ途中自動車賃ヲヤツテ置クト十圓ヲ呉レタリソレヨリ鉢田ノ北浦病院ニ行キ更ニ長岡ニ引返シテ床屋ニ寄り水戸ノ梅屋旅館ニ行キタルモノニシテ自分ハ梅屋ニテ被告人カラ更ニ五圓ヲ受取りタルモノソレハ坐席ノ布圍カ血ヤ泥テ汚サレ役ニ立タナクナリシ代トシテ受取りタルモノナル旨ノ供述記載

一、證人木城晟ニ對スル豫審第一回訊問調書中自分ハ鉢田町ニテ北浦病院ヲ經營シ居ル醫師ナルカ本年(昭和十四年)十月二日夜

午後十時頃被告人(豫審廷ニ於テ被告人ヲ本證人ニ示ス)カ附添ツテ四十歳位ノ男ヲ飛行場ノ土工山野長一ト稱シテ喧嘩ヲシテ
 拳丸ニ怪我ヲシタト言フテ連レ來リタルヲ以テ之ヲ診タルニ陰囊カ裂ケテ一方ノ拳丸カ露出シテ居リ陰囊内ハ泥ヤ糞ヤ草ノ
 枯葉等カ無數ニアリ傷口ハ刃物ニ依ル切創テハナク爪等テ引掻イタ傷ニシテハ大キ過キ如何ニシテ出來タカ不振ナリシ故其ノ
 事ヲ訊ネタルモ患者ハ何トモ言ハス附添ノ被告人モ兄弟分ト喧嘩ヲシタノタカ如何シテ出來タノテスカネト判ラヌ風ナリシ、
 治療トシテハ急性腹膜炎ヲ虞レタノテ三十分位掛ツテ陰囊内ヲ掃除シ傷口ヲ縫合シテ十字帯ヲ施シタルカ手術後附添ノ被告人
 ニ入院サセタラ宜カラウト勸メタルモ患者ノ家カ土浦タカラ近クノ病院ニ入院サセタイト申ス故自分ハ連レ行ク途中安全ナ様
 ニ兩膝ト右上臍ニリンゲル氏液強心劑止血劑ノ注射ヲシテ遣リタリ、止血劑ヲ注射シタルハ左右兩鼠蹊部カ腫レテ居リ押スト
 痛イト言フノテ内出血ヲシテ居ルモノト思ヒソレヲ止メル爲ニシテ自分ハ腹膜炎ヲ起ス事ヲ一番虞レ動カサナイ方カ良イノタ
 カ連レテ行クナラ直ク入院サセネハイケナイト注意シヤリタル旨ノ供述記載

一、證人小松崎しめニ對スル豫審訊問調書中自分ハ水戸市久保町ニ於テ梅屋ト稱シ旅館業ヲ營ミ居ルカ本年(昭和十四年)十月二
 日ノ夜午後十二時頃小鶴ノ自動車ニテ被告人(豫審廷ニテ被告人ヲ本證人ニ示ス)トモウ一人五十歳位ノ襦袢一枚ヲ着タ丈テモ
 ツコ輝ヲシタ男カ私方ニ參リ被告人カ飛行場ノ鮮人土工十人ト自分等四人カ喧嘩シテ連レノ男カ怪我ヲシタノテ夜カ明ケタラ
 入院サセルノタカラ是非泊メテ呉レト申ス故泊メテ遣リタルニ午前二時半頃ニ病人カ悪クナルト困ルカラ之カラ病院ニ入院サ
 セルトテ被告人ハ私ノ貸シテヤツタ亡夫ノ帶テ怪我人ヲ背負ヒ出シタルカ被告人ハ凡ソ一時間餘リ經ツタ頃一人テ歸ツテ參リ
 今常磐病院ニ入院サセテ來タト申シタル旨ノ供述記載

一、證人倉田茂ニ對スル豫審訊問調書中自分カ水戸市泉町ノ柳タクシーノ運轉手ヲ爲シ居タル當時本年(昭和十四年)十月三日朝
 午前四時半カ五時頃被告人(豫審廷ニテ被告人ヲ本證人ニ示ス)カ柳タクシーニ來テ梅屋カラ長岡迄行ツテ呉レト申スニ依リ同

人ヲ乘セテ長岡ノ床屋(行キタルカ更ニ此處カラ一里半許リ行ツテ縣道カラ左ヘ入ツタ所テ喧嘩ヲシテ血タラケニナツタ着物
 ヲ置イテアルカラ行ツテ貰ヒ度イト申シタルヲ以テ客ノ言フ儘上野合村鳥羽田ノ分教場前ノ四ツ角迄行クト此處タトテ車ヲ止
 メサセソレカラ左ヘ一町餘リ行ツテ左側カ樺林テ右側カ作物ノナイ畑ノ處ニテ客ハ樺林ノ中テ着物ト草履ヲ拾ヒ畑ノ中ニテ煙
 草(朝日)ヲ拾ヒテ又長岡ノ床屋迄引返サセ此處テ結構タトテ料金七圓ヲ支拂ヒ呉レタリ、然ルニ翌十月四日ノ午後十時頃又其
 ノ客(被告人)カ柳タクシーニ參リ今夜十二時頃又長岡迄行ツテ呉レト申シテ立去リ十二時頃ニヤツテ來テ都合テ土浦迄行ツテ
 貰ヒ度イト言ヒ尙荷物カアルカラ河和田横町ノ方ヲ廻ツテ呉レト言フノテ客ニ言ハレル儘ニ水戸市元山町ノ暗イ横町ニ入ツテ
 行クト右側ノ里芋ノ畑ノ處テ車ヲ止メサセ魚ト野菜タカ積ンテ行ツテ呉レト申シ客ハ助手臺ニ居タ寺沼不二ト共ニ長サ三尺位
 幅ト深サ二尺位ノ竹籠ヲ積ミ夫レカラ長岡ノ床屋ニ行キタルカ結局結城町迄行ツテ呉レト言フ事ニナリ五日ノ午前四時頃ニ結
 城ニ着キ男山ト言フ家ヲ尋ネテ同家迄行キタルカ客ハ下館町ノ寶屋ト言フ待合ニ居ル女中ニ用カアルトテ自動車テ下館ニ往復
 シタ後又今度ハ下館ノアノ女カ來ルコトニナツテ居ルカラ濟マナイカ連レテ來テ呉レト頼ムノテ籠ヲ下ロシテ下館ヘ參リ寶屋
 ノ女中ニ會ツタカ來テ呉レス午前八時頃男山方ニ戻リタルトコロ其ノ間ニ逃ケラレタルヲ知りタルヲ以テ早速結城警察署
 ニ届出テタル旨ノ供述記載

一、證人櫻井トシニ對スル豫審訊問調書中自分ハ石岡町香丸町ニテ洋品玩具商ヲ營ミ居ルカ本年(昭和十四年)十月二、三日頃ノ
 午前九時頃二十八、九歳ノ男カ自分方ニ參リ褌口ヲ買ヒタル後此ノ財布(昭和十四年押第八六號ノ四七)ヲ出シ古クナツタカラ
 捨テ、呉レト申シテ置イテ行キタルヲ以テ家ノ前ノ塵芥箱ノ中ニ捨テタルカ同月十二日ニナリ警察官カ來テ財布ノ事ヲ訊ネタ
 ル故塵芥箱内ヲ捜シタトコロ未ダ掃除人夫カ來ナカツタト見ヘ此ノ財布カアリタルヲ以テ警察ニ差出シタルモノニシテ御示ノ
 男(豫審廷ニ於テ被告人ヲ本證人ニ示ス)ハ其ノ時ノ男ノ様ニ思料スル旨ノ供述記載

一、鑑定人青柳兼之介作成ノ鑑定書ト題スル書面ニ被害者福澄福三郎ノ死體ヲ解剖鑑定スルニ陰囊左側ニ上下ニ長サ八厘ノ創アリ其ノ下端ヨリV字形ニ上方ニ向ヒ八厘ノ創ヲ存ス其創口ヨリ左辜丸露出ス左側輸精管ハ鼠蹊管外口附近ニテ離断セラレ左辜丸ハ僅ニ血管ニ依リ連絡ス、右辜丸ハ存在セスシテ其ノ輸精管ハ鼠蹊管外口附近ニテ離断セラレ精系モ此附近ニテ離断セラレ斷端不規則ナリ、之等ノ状態ヨリ本創ハ手ニテ陰囊ヲ握リ牽引セルニヨリ生セシモノト推定ス、死因ハ窒息死ニシテ此窒息ハ吐物ニ依リ氣道ノ閉鎖セラレタルニ依ル旨ノ記載

一、右同人ニ對スル昭和十四年十二月十一日附置審判事ノ訊問調書ニ福澄福三郎ノ死因ハ氣道内ニ吸入サレタ異物ニ因ル窒息死ニシテ兩鼠蹊部ノ創傷ニ因ル下腹部ニ於ケル腹膜下出血ノ爲腹膜ヲ刺戟シテ惹起サレタ嘔吐物ヲ吸入シタルモノト考フ旨ノ供述記載

一、強制處分ニ依ル豫審判事ノ檢證調書中第一檢證(死體遺棄ノ現場)ト題シ昭和十四年十月六日茨城縣結城郡結城町大字結城字根本原一一九四二番ナル判示吉田用水ノ脇ナル雜木林ニ至ルニ籠詰死體アリテ立會人倉田茂ハ客ヨリ頼マレ自動車ニテ前日(五日)朝水戸ヨリ結城町ノ男山方脇迄運ヒタル籠ハニ相違ナシト述ヘ立會人福澄淺治ハ右籠中ノ死體ハ弟福澄福三郎當四十二年ノ死體ニ相違ナシト述ヘタル旨及第二檢證ト題シ更ニ同日同縣東茨城郡上野合村大字鳥羽田ナル鉾田町方面ニ至ル縣道ト鳥羽田部落ニ至ル里道トノ十字路ヨリ東方鳥羽田部落方面ニ右里道ヲ約一町四十間進ミタル地點ニ於テ立會人倉田茂ハ水戸ヨリ籠詰死體ヲ結城ニ運ハセタル客ノ依頼ニ依リ其ノ二、三日前此場所ニ來リテ同人ト共ニ落物ヲ拾ヒタリテ着物、草履、煙草等ノアリシ場所ヲ指示シタルニ付之ヲ檢シタルニ縣道ヨリ同所ニ至ル里道ノ南側ハ大部分數年生ノ雜木林、北側ハ畑ニシテ人家ナク又同所ノ東方里道モ數町先迄大部分雜木林ニシテ人家ナク、現場ニ於テハ南側ハ林ニ挟マレタル畑地ナルモ北側ハ五、六年生ノ樺林ニシテ地上ニハ雜草等繁茂シ居リ而シテ立會人ノ指示ノ着物及草履ノアリシトノ點ハ里道ヨリ右樺林中ニ五

尺又ハ十一尺ノ地點、煙草アリシトノ點ハ南側畑中ニ八尺入りシ地點ナル旨並ニ第三檢證ト題シ同日及翌日ニ亙リ本件籠詰死體ヲ自動車ニテ積出シタリト言フ水戸市元山町地内岡田まさ耕作畑附近ヲ檢スルニ水戸市壽町通りヨリ岐レ常磐神社裏ニ通スル道路ヲ約四十間進ミタル西側ニ約八十尺四方ナル右岡田まさノ畑アリテ立會人寺沼不二カ同月五日早朝客ト共ニ自動車ニ積ミタル籠ノアリタリト指示スル地點ハ右畑ト其ノ南側ナル野畑新三方トノ間ニ存スル路地ヲ道路ヨリ約十三尺入りタル野畑方竹垣ノ縁ニシテ右岡田まさノ耕作畑ハ畑ノ東南隅ニ里芋ヲ植栽シアリテ其ノ里芋ノ葉約二十枚程ハ最近撿取ラレシモノト認メラレル痕跡アリ里芋畑ノ北側ハ陸稻畑ナルモ立會人岡田まさノ説明ニ依レハ同月五日之ヲ刈取リタリトノ事ニテ檢證當時右畑上ニ乾サレアリ又檢證補助者タル巡查部長藤本萬吉ハ右陸稻畑内道路寄りノ地點ニ於テ本檢證ノ際血痕附着ノ古兵兒帶ヲ發見シタルニ依リ之ヲ押收セル旨ノ各記載

ヲ綜合スレハ被告人ノ前示辯疏ハ到底之ヲ採用スルニ足ラスシテ判示犯行ヲ認ムヘキ證明ハ洵ニ十分ナリトス
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中死刑ヲ選擇スヘク死體遺棄ノ點ハ同法第九十條ニ該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナレトモ前者ニ付死刑ヲ選擇處斷スヘキヲ以テ同法第四十六條第一項ニ從ヒ他ノ刑ヲ科セス被告人ヲ死刑ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ全部被告人ノ負擔トスヘキモノトス

仍テ刑事訴訟法第四百一條第一項ニ則リ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年九月十日

二八六 強盜殺人、放火、死體損壞、強盜殺人豫備、放火豫備

判決

本籍並住居 香川縣三豐郡勝間村大字上勝間千五百九十三番地

ミシン仕立業

田中芳重

大正元年九月二十三日生

本籍 愛媛縣宇摩郡寒川村千六百九十三番地

住居 同村大字江之元九百五十八番地 青木イワ方

職工

川上龜吉

大正二年四月十五日生

本籍 香川縣仲多度郡善通寺町大字上吉田六百二十八番地

住居 同町大字上吉田千六十五番地

婦人子供服製造小賣業

白川一雄

明治四十五年二月二十一日生

右田中芳重、川上龜吉ニ對スル強盜殺人放火及白川一雄ニ對スル強盜豫備被告事件ニ付高松地方裁判所カ昭和十四年六月二十七日宣告シタル有罪判決ニ對シ被告人三名ヨリ夫々適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與更

ニ審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

主 文

補告人田中芳重ヲ死刑ニ

同川上龜吉ヲ無期懲役ニ

同白川一雄ヲ懲役貳年ニ處ス

訴訟費用ハ全部被告人三名ノ連帶負擔トス

理 由

被告人田中芳重ハミシン裁縫及ミシン機販賣業ヲ被告人川上龜吉ハミシン機販賣ノ外交及修繕業ヲ被告人白川一雄ハミシン裁縫職ヲ營ミ居タル關係上昭和十年頃互ニ相識ルニ至リ爾來交際ヲ續ケ屢遊興ヲ共ニスル間柄ナリシカ偶昭和十二年十月頃被告人田中芳重、同白川一雄間ニ於テ犯罪ニ關スル談話ヲ交シタル際孰レモ周到ナル注意ヲ以テ巧ニ犯罪隱蔽ノ方法ヲ講スレハ發覺スルモノニアラストシテ犯罪ニ依ル一獲千金ヲ志スニ至リ其ノ後間モナク被告人田中芳重ヨリ同川上龜吉ニ右意圖ヲ通スルヤ同被告人ニ於テモ直ニ之ヲ贊成シ爾來被告人三名ハ相會スル毎ニ該計劃ニ付語合ヒ或ハ互ニ襲撃スルニ適當ナリト思料スル箇所ヲ例示シ或ハ金品ヲ奪取スル際ニハ相手ノ者ヲ殺害シ其ノ家ヲ燒拂ヒテ罪跡隱蔽ノ方法ヲ講スヘキコト等ヲ協議シ機會有ラハ之ヲ實行セント期シ居タリ

第一、被告人白川一雄ハ昭和十三年一月七日頃香川縣三豐郡勝間村大字上勝間千五百九十三番地タル被告人田中芳重方ヲ訪ネ同被告人ヨリ同村下勝間ナル材木商森梅吉ハ老齡獨身ニシテ常ニ多額ノ現金ヲ所持シ居レル様子ニ付同人

二八六 強盜殺人、放火、死體損壞、強盜殺人豫備、放火豫備

二二三

方ニ於テ前記計畫ヲ實行スル爲豫メ同家ノ模様ヲ探知シ置クヘキ旨提案セラル、ヤ之ニ賛同シ同被告人ト共ニ同日午後六時過頃右森梅吉方ニ到リ同人ニ對シ木板買受ニ罷越シタルモノ、如ク裝ヒ店舗土間ニ入りテ家屋内部ノ狀況等ヲ注視シタル結果被告人等ニ於テ計畫シタル犯罪ヲ遂行スルニ好適ナリト認メ即時同家附近ナル下土井ノ四辻ニ於テ被告人田中芳重トノ間ニ於テ同川上龜吉ヲ誘ヒ同月九日夜ヲ期シ森梅吉方ニ於テ同人ヲ殺害シテ金錢ヲ強奪シタル上其ノ家ニ放火センコトヲ謀議シ且被告人田中芳重ニ於テ同川上龜吉ニ之ヲ傳ヘ當日午後四時頃香川縣仲多度郡吉原村相島坂峠ニテ集合スヘキコトヲ約シ同月九日午後被告人田中芳重ニ誘出サレテ右島坂峠ニ赴キ同所ニテ被告人田中芳重ヨリ約ニ從ヒ前記謀議ヲ通シ置キタル被告人川上龜吉ト相會シ俱ニ携ヘテ夜ニ入り前記材木商森梅吉方戶外ニ到リ各自其ノ自轉車ヲ適宜附近ノ上高瀬驛構内其ノ他ニ潛メ置キタル上被告人白川若クハ被告人川上ニ於テ釘ヲ買求ムルカ如ク裝ヒテ森梅吉方ヲ訪レ同人ヲ店頭ニ誘出シ被告人田中ニ於テ梅吉ヲ何物カヲ以テ毆打若クハ絞首ノ方法ニヨリ殺害シ金ヲ奪ヒタル後家ニ火ヲ放チ逃走スヘキ手筈ヲ定メ該家屋前ヲ數回往復シ或ハ同家屋敷内ノ材木倉庫ノ蔭ニ隠レテ計畫實行ノ機會ヲ窺ヒ以テ強盜殺人及建造物放火ノ豫備ヲ爲シ

第二、被告人田中芳重、同川上龜吉ハ初前被ノ如ク被告人白川一雄ヲ加ヘタル三名ニテ森梅吉方ヲ襲ヒ同人ヲ殺害シテ金員ヲ奪取シタル上其ノ家屋ニ放火センコトヲ計畫シ之カ準備ヲ爲シタルカ昭和十三年一月九日被告人白川一雄ニ於テ自ラ恐怖ヲ感シ逡巡シテ決行スルニ至ラサルヤ同被告人ニ拘ラス兩名ニテ右計畫ヲ實行センコトヲ協議シ翌十日及翌々十一日ノ兩日亦打連レテ日没後森梅吉方前ニ到リ情勢ヲ窺ヒタルモ其ノ機ヲ得ス更ニ同月十二日午後八時頃相携ヘテ同所ニ赴キ先ツ其ノ附近ナル三谷黨所有納屋(其ノ底下ニ豚ヲ飼育ス)ニ立寄り被告人田中ニ於テ同所

ニ在合セタル掛矢(木槌)一挺及長サ約三尺ノ藁繩一筋ヲ携ヘ以テ森梅吉方ニ到リ被告人川上ニ於テ釘ヲ買求メニ來リタル客ノ如ク裝ヒテ其ノ店舗土間ニ入り既ニ就寢シ居タル森梅吉(當時六十八年)ヲ店頭ニ誘出シ同人カ土間ニ下立タントシタル瞬間壁際ニ身構ヘ居タル被告人田中ニ於テ突如右掛矢ヲ揮ヒ梅吉ノ後頭部ヲ一撃シテ昏倒セシメ更ニ所携ノ繩ヲ以テ同人ノ頸部ヲ絞押シタル上右掛矢ヲ以テ同人ノ背部ヲ毆リ其ノ間被告人川上ニ於テモ其場ニ有合セタル手筈(證第二號參照)ヲ以テ梅吉ノ横腹ヲ數回毆付ケ尙同家四疊半ノ間ニ在リタル掛布團一枚ヲ取出シテ梅吉ニ蔽ヒ被セ其ノ上ヨリ兩被告人ニ於テ交々抑壓シテ遂ニ梅吉ヲ殺害シ傍ラ金員ヲ奪取スル爲メ兩被告人交替シテ屋内ヲ搜索シタルモ之ヲ發見スルニ至ラスシテ金員強取ノ目的ヲ遂ケス引續キ右犯跡ヲ隱蔽スル爲メ梅吉ノ死體及其ノ家屋ヲ燒拂フ目的ヲ以テ被告人川上ニ於テ土間ニ散亂セシ紙屑木屑等ヲ梅吉ノ死體ヲ蔽ヘル布團ノ近クニ寄せ集メ同土間ニ有合セタル燐寸ヲ以テ之ニ點火シ被告人田中ニ於テ其ノ上ニ新聞紙及同家ノ障子一枚ヲ載セテ火勢ヲ強メ以テ梅吉ノ死體並家屋ニ延燒スヘキ裝置ヲ爲シ因テ梅吉ノ死體ヲ燒燬損壞スルト共ニ當時梅吉カ單身住家ニ使用シ居タル外、人ノ現在セサル木造亞鉛葺平家建本家一棟及其ノ附屬材木倉庫四棟(森梅吉ノ相續人森勇ノ所有)ヲ商品在庫ノ儘全燒スルニ至ラシメタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人田中芳重及同川上龜吉ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段第六十條ニ建物燒燬ノ點ハ同法第九條第一項第六十條ニ死體損壞ノ點ハ同法第九十條第六十條ニ夫々該當スル處右建物燒燬ト死體損壞トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ル、モノナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ建造物放火罪

ニ付定メタル刑ヲ以テ處斷スヘク之ト強盜殺人トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナル處強盜殺人ノ罪ニ付被告人田中芳重ニ對シ死刑ヲ被告人川上龜吉ニ對シ無期懲役刑ヲ夫々選擇シ處斷スルヲ相當ト認ムルヲ以テ同法第四十六條ニ依リ右被告人兩名ニ對シテハ孰レモ他ノ刑ヲ科セス被告人白川一雄ノ判示所爲中強盜殺人豫備ノ點ハ刑法第二百三十七條第六十條ニ建造物放火豫備ノ點ハ同法第一百十三條第六十條ニ各該當スル處以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ル、場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ重キ強盜殺人豫備ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役二年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ全部被告人三名ヲシテ連帶シテ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

本件控訴ハ孰レモ理由ナシ

昭和十四年九月二十五日

大阪控訴院第〇刑事部

二八七 竊盜、強盜殺人、逃走

判決

本籍 北海道利尻郡杵形村字榮濱百四十番地
 佳居 不定

無職

柏木 慎一

明治四十三年九月十日生

右ノ者ニ對スル竊盜強盜殺人逃走被告事件ニ付昭和十三年十月二十一日札幌地方裁判所小樽支部カ言渡シタル有罪判決ニ對シ原審檢事ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル布製繩一本(證第三號)ハ之ヲ沒收シ「クローム」側懷中時計一個(證第一〇號)ハ之ヲ被害者佐藤龍平ニ還付ス

還付ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ北海道利尻郡杵形村ノ漁業家ノ三男ニ生レ同村ノ小學校ヲ卒業後札幌市私立北海中學校ニ入學シタルモ家庭ノ都合上第四學年ヲ中途退學シタルカ二十一歳ニシテ父ヲ喪ヒ後昭和七年七月志ヲ抱キテ上京シ巡查採用試験ニ合格翌八年四月警視廳巡查ヲ拜命シテ同年六月ヨリ東京市日本橋久松警察署勤務トナリシモ不行跡ノ爲昭和九年三月譴責處分ニ付セラレ同市千住警察署ニ轉勤ヲ命セラレテ間モナク辭職スルニ至リタルカ其ノ間酒色ニ耽リ同市日本橋區人形町「ユニオンダンスホール」ノ「ダンサー」高橋八重子ト馴染ミ遊興費等ニ窮シタル結果竊盜ヲ働キ遂ニ同年六月二十

二八七 竊盜、強盜殺人、逃走

九日東京區裁判所ニ於テ竊盜罪ニ依リ懲役八月ニ處セラレ同刑ノ執行終了後右八重子ヨリ絶縁セラレタルヨリ自暴自棄トナリテ香具師ノ群ニ投シ左腕ニ「吸血鬼血祭ノ秀」右腕ニ「己一代御意見無用」左股ニ「お八重坊」及賽ト花札ノ圖右股ニ「ナイトボス」及「ハート」形ノ内ニ「すゝり泣く男」ナル刺青ヲ施シ賭博又ハ競馬等ニ耽リテ荒ミタル生活ヲ續ケ居ル中惡事ヲ繰返シ執レモ同裁判所ニ於テ昭和十年四月二日竊盜罪ニ依リ懲役一年次イテ同十一年七月二十八日竊盜詐欺並銃砲火藥類取締法違反罪ニ依リ懲役一年六月ニ處セラレ各刑ノ執行終了ノ上昭和十三年一月二十八日函館刑務所ヲ出所スルヤ直ニ上京シ東京市及横濱市内ヲ流浪中同年五月初頃ヨリ横濱市中區小港町三丁目九十番地「ホームホテル」事小林たつじ方ノ酌婦鈴木キミエト馴染ヲ重ネ同年七月頃ニハ同人ト夫婦約束ヲ結ヒ相携ヘテ滿洲ニ赴キ共稼ヲセンコトヲ約スルニ至リタルモノナルトコロ

第一、被告人ハ右鈴木キミエノ前借金支拂及遊興費等ニ窮シタル結果北海道ニ渡リ旅館等ニ於テ他人ノ金品ヲ竊取セムコトヲ決意シ

(一) 昭和十三年六月十七日午前二時半頃函館市若松町百十七番地朴荻原旅館事荻原カツ方ニ於テ旅客龍見豊一及飯田幸吉所有ニ係ル現金合計金八百八十一圓八十錢ヲ

(二) 同年七月十六日午前二時半頃同市同町百十二番地(きく)屋旅館事福田市之助方ニ於テ旅客佐藤龍平所有ニ係ル現金十八圓七十錢位及「クローム」側懐中時計一個(證第十號)外衣類雜品七點此ノ價格合計約金六十圓相當ヲ

(三) 同月十七日午前三時頃札幌市北四條西四丁目一番地石川屋旅館事西出久太郎方ニ於テ旅客佐川芳男所有ニ係ル現金十九圓五十錢ヲ

(四) 同月十八日午前二時頃同市北三條西三丁目一番地玉一旅館事荒木成秀方ニ於テ旅客高橋久次郎外四名所有ニ係ル現金五圓五十錢及「クローム」側時計一個外時計類雜品六點此ノ價格合計約百七十圓相當ヲ

(五) 同日午前三時頃同市北一條西五丁目自阿部旅館事阿部徳次方ニ於テ旅客田中與三郎外一名所有ニ係ル現金二百四圓五十錢位及「クローム」側腕時計一個此ノ價格金二十圓相當ヲ

各竊取シ

第二、被告人ハ右犯行後昭和十三年七月十八日午前十一時頃小樽市ニ立廻リタルトコロ豫ネテ手配中ノ小樽警察署員ニ檢舉セラレ即日同警察署長ヨリ警察犯處罰令第一條第三號ノ浮浪罪ニ依リ拘留二十日ニ處スル旨ノ違警罪即決ノ言渡ヲ受ケ其刑期ニ相當ノ保證金ヲ差出サ、ルニ依リ即時同市富岡町一丁目二十番地所在同警察署留置場第四監房ニ留置セラレ未決ノ囚人トシテ拘禁ヲ受クルニ至リタルカ情婦鈴木キミエニ對スル思慕ノ念禁シ難ク同監房ヨリ脱走センコトヲ熱望焦慮セル折柄偶々同留置場勤務ノ同署巡查大島義行(當四十八年)カ留置人ヲ遇スルコト溫和ニシテ被告人ニ對シテモ寛仁ノ態度ニ出ツルヲ奇貨措クヘシトナシ無道ニモ同月二十日午後三時頃同日深夜大崎巡查カ監視ノ勤務ニ服スル機會ニ乘シ同人ノ温情ヲ裏切り其ノ隙ヲ窺ヒ同巡查ヲ絞殺シテ同署保管中ノ自己ノ金品等ヲ強奪ノ上同拘禁場ヨリ逃走センコトヲ決意シ同日右房内ニ於テ密カニ所携ノ「ハンカチーフ」ヲ引割キ之ヲ以テ絞殺ノ用ニ供スヘキ細繩一本(證第三號)ヲ作り置キ翌二十一日午前一時頃恰モ大崎巡查カ他ノ巡查ト交替シテ單獨ニテ同監房監視ノ任ニ當ルヤ自己ノ所持品整理ニ籍口シテ大崎巡查ヲ同留置場内ノ所持品保管室ニ誘ヒ同日午前三時半頃右室内ニ於テ被告人ノ傍ニ佇立セル同巡查ノ隙ヲ窺ヒ突如其ノ背後ヨリ豫ネテ用意ノ前掲細繩ヲ同人ノ頸部ニ巻

キテ強ク絞メ付ケ同巡查カ其ノ場ニ昏倒スルヤ更ニ右布繩ノ兩端ヲ以テ其ノ咽喉部ニ於テ緊縛シ因テ同巡查ヲシテ
間モナク同所ニ於テ窒息死ニ至ラシメ同留置場南側中央監視巡查勤務ノ事務机ノ後方ニ置キ在リタル金庫用鋼鐵製
書類箱中ヨリ同署保管ニ係ル被告人所有ノ現金二十圓九錢及留置人渡邊金三郎外一名所有ノ現金合計金五圓三錢並
ニ同保管室ニ在リタル自己所有ノ雜品在中ノ折靴二個等ヲ強奪ノ上同留置場ヨリ逃走シ以テ所期ノ目的ヲ遂ケ
タルモノニシテ竊盜及強盜殺人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

(證據省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條後段第二百四十
二條暴行逃走ノ點ハ同法第九十八條ニ各該當スルトコロ右強盜殺人ト暴行逃走トハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸
ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ重キ強盜殺人ノ刑ニ從ヒ之ト竊盜トハ連續犯ナルヲ以テ
同法第五十五條第十條ヲ適用シ重キ強盜殺人ノ一罪トシ其ノ所定刑中諸般ノ情狀ニ鑑ミ死刑ヲ選擇處斷シ押收ニ係ル
布製繩一本(證第三號)ハ本件強盜殺人ノ犯行ニ供用セラレタル物件ニシテ被告人ノ所有ニ屬スルモノナルヲ以テ同法
第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク押收ニ係ル「クロム」側懷中時計一個(證第十號)ハ本件第一(二)
ノ犯行ニ依リ得タル贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ之ヲ
被害者佐藤龍平ニ還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ被告人ヲシテ全部之ヲ負擔セシムヘキ
モノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年十二月十五日

札幌控訴院刑事部

二八八 強盜殺人

判決

本籍 京都市下京區東中筋通魚ノ棚上ル天使突抜四丁目四百五十九番地
住居 大阪市住吉區阿倍野筋二丁目六十六番地 金城孝政方
柔道整復術見習 田口信三郎
大正七年十月十三日生

右者ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付昭和十三年十二月二十六日京都地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨ
リ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ無期懲役ニ處ス

理由

被告人ハ柔道ニ堪能ニシテ豫テ素行修ラサルモノナルトコロ昭和十三年六月一日頃ヨリ同月八日迄連日ニ亙リ原審相
被告人眞鍋孟ト共ニ遊興ヲ爲シ所持金ヲ費消シ盡シテ其ノ資ニ窮スルニ至リタルヨリ同月九日相携ヘテ京都市中京區

二八八 強盜殺人

新京極邊ヲ徘徊中偶々同區三條通烏丸西入御倉町八十七番地煙草商兼菓子小賣商古宮廷有子事布留官拾命子當二十五
 年カ一人暮ニシテ且常ニ相當ノ現金ヲ所持シ居レル旨聞知セルヲ想起シ茲ニ共謀ノ上同女ヲ殺害シテ金品ヲ強取セン
 コトヲ決意シ同夜同家表口ノ邊ニ到リテ様子ヲ窺ヒタルモ機會ヲ得サリシヨリ翌十日午後十一時過頃兩名客ヲ裝ヒテ
 同家ニ立越シ菓子ノ注文ヲ爲シ同女カ通り庭ニ立チテ之ヲ包ミ居レル隙ニ乘シ先ツ眞鍋孟ニ於テ突如其後方ヨリ右腕
 ニテ同女ノ頸部ヲ扼壓シ續イテ被告人田口信三郎之ニ替リ兩手ニテ同女ノ前襟ヲ捕ヘテ頸部ヲ絞付ケ同女カ倒ルルヤ
 更ニ眞鍋孟ニ於テ着用ノ帶革ヲ以テ頸部ヲ緊締シタルモ切斷シタルヨリ被告人ノ取外シタル同女ノ帶締ヲ以テ同様頸
 部ヲ緊締シ因テ之ヲ窒息死ニ致シタル上同家店ノ間及中ノ間ニ在リタル同女所有ノ現金約八拾參圓ゴールデンバツト
 約百個外國製煙草貳拾數個及木田淺次郎所有ノ背廣服上衣壹着外雜品參點ヲ強取シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十條ニ該當スルヲ以テ所定無期懲役刑ヲ選擇シテ被告人ヲ處斷スヘキ
 モノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

本件控訴ハ理由アリ

昭和十四年二月二十七日

大阪控訴院第〇刑事部

二八九 詐欺、強盜殺人、殺人未遂

判決

本籍 山口縣熊毛郡麻郷村大字麻郷第三千五百九十一番地
 住居 不定

無職

吉・中 正 男

大正元年十二月四日生

右ノ者ニ對スル詐欺強盜殺人、殺人未遂被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某、某等關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ
 如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

押收ニ係ル拳銃一挺(證第五號)ハ之ヲ被害者西岡留次郎ニ還付ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ釜山府公立第一商業學校ヲ卒業後一年志願兵トシテ龍山歩兵第七十八聯隊ニ入營シ昭和十三年三月豫備陸軍
 歩兵少尉ニ任セラレタルモノナルトコロ幼ニシテ母ヲ喪ヒ肉親ノ恩愛ニ惠マレス具サニ苦惱ヲ嘗メ來レルカ昭和九年十

二八九 詐欺、強盜殺人、殺人未遂

月頃ヨリ職ヲ求メテ大連奉天方面ヲ轉々スル内何時シカ飲酒遊興ノ弊風ニ染ミ性行漸ク荒ミテ自暴自棄ト爲リ昭和十一年二月中一旦釜山府土城町ナル父喜一郎ノ許ニ復歸シタルモ同人等ト融和ヲ缺ケル爲同年九月二十三日頃密ニ父ノ預金八百圓餘ヲ携ヘテ無斷家出シ同月二十七日頃大分縣別府市ニ到リ同地ニ於テ遊興ニ耽溺スル中女給藤岡文子ト馴染ヲ重ネ互ニ夫婦約束ヲ交スニ至リタルモ當時既ニ所持金ヲ蕩盡セルヨリ玆ニ同棲生活ノ資材ノ必要ニ迫ラレ之カ獲得ノ野望ヲ抱イテ同月二十八日別府港ヲ出發シ大阪市ニ向フ途上金策ノ手段ニ付苦慮セル末豫テ大阪市ノ株式街北濱ニ於ケル一流商店ニテハ日常多額ノ金員ヲ取扱ヘル事情ヲ聞知セルヨリ大阪市ニ於テ策ヲ按シテ拳銃ヲ入手シ之ヲ携ヘテ株式店ヲ襲ヒ一舉ニ巨額ノ金員ヲ強奪センコトヲ決意シ

第一、同年十二月二日正午頃陸軍歩兵少尉ノ軍服ヲ着用シテ大阪市東區大手前町借住住宅第二十四號陸軍二等軍醫正西岡留次郎方ニ到リ同人ノ妻モトヨニ對シ兵器廠ヨリ拳銃ノ検査ニ來リタル大森ナルカ拳銃及實包ヲ呈示セラレ度旨申許リ同人ヲシテ之ヲ呈示セシメタル上更ニ此拳銃ニハ不審ノ廉アレハ一時預リ歸ル旨申欺キモトヨヲシテ其旨誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヨリ留次郎所有ノブローニング六連發拳銃一挺及實包五十發ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二、同日午後一時過頃實包ヲ裝填セル右拳銃ヲ懷中ニシ大阪市東區今橋二丁目株式店不破福造方ニ到リ同人ニ面會ヲ求メタルモ福造ニ面會スルコトヲ得サリシ爲一旦同家ヲ立出テ同市浪速區惠美須町ヲ徘徊中森万之助ノ操縦セル大一一二七一號客用自動車ニ乗車シ數時間當度モナク同市内ヲ乘廻シ乗車賃十餘圓ニ達シタルモ所持金ナキ爲之カ支拂ノ途ナク而モ万之助カ金錢ヲ所持セル事情ヲ察知シ同人ヲ射殺シテ其ノ所持金ヲ奪取スルト共ニ乗車賃ノ支拂

ヲ免レンコトヲ決意シ翌三日午前零時過頃同市旭區永田町五十一番地先ノ人通りナキ田圃道ニ差蒐リタル際突如停車ヲ命シ万之助ノ隙ヲ窺ヒ所携ノ拳銃ヲ以テ其ノ後頭部ヲ狙撃シ因テ同人ヲ即死セシメタル上同人ノ所持金四圓餘ヲ奪取シ且乗車賃約十三圓ノ支拂ヲ免レ

第三、同月六日午後零時過頃右實包ヲ裝填シタル拳銃ヲ携ヘ同市天王寺區小宮町五十八番地先街路ヲ徘徊セル際偵邏中ノ巡查池田茂、坂本登ノ兩人ニ逮捕セラレントスルヤ之ヲ免レテ其場ヲ逃走センカ爲同人等ヲ射殺スルモ敢テ辭セサル意思ノ下ニ右拳銃ヲ以テ一回同人等ヲ狙撃シタルモ手許狂ヒテ彈丸カ命中セサリシ爲同人等ヲ殺害スルニ至ラサリシ

モノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實中

冒頭摘示事實ハ

- 一、被告人ニ對スル豫審第二、三回訊問調書ヲ通シ判示同旨ノ同人ノ供述記載
 - 一、第一回公判調書中被告人ノ供述トシテ兄弟姉ハ温情味ナク父ハ堅氣ナレハ何トナク物足ラサリシ旨ノ記載ヲ綜合シテ之ヲ認メ
- 判示第一事實ハ

- 一、被告人ニ對スル豫審第三回訊問調書中犯行ノ場所ニ關スル點ヲ除キ判示同旨ノ同人ノ供述記載
- 一、證人西岡モトヨト對スル豫審訊問調書中被害額末ニ付判示ニ照應スル同人ノ供述記載

一、證第五號拳銃ノ現存

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第二事實ハ

一、被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書中犯行ノ場所ニ關スル點ヲ除キ判示同旨ノ同人ノ供述記載

一、證人崔奇童ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ昭和十一年十二月二日夜十一時四十分カ四十五分頃自分カ惠美須町ガソリンスタンド前ヲ通りタル際同僚ノ森方之助カ運轉セル大一一二七一號ノ自動車ニ森カガソリンヲ注油シ居リ客室ノ電氣カ消エ居レルニ森ハ客カ中ニ寢テ居ルト申シ居リ其客ハ新世界附近ニ知合アリト言フニ付彼方此方探シ廻リタルモ判示結局見物シタケレハメーターカ十圓ニナル迄走レト言ヒ更ニ十三圓ニナル迄何處カ淋シイ所ヲ走ツテ吳レト申シ居ルト話シタレハ自分ハ變ナコトヲ言フ客タナト思ヒタル旨ノ記載

一、證人町田一二ニ對スル同調書中同人ノ供述トシテ自分ハ白谷タタシ株式会社千日前營業所主任ヲ致シ居レルカ昭和十一年十二月三日所屬運轉手森方之助カ今福署管内永田町ノ人家ヲ離レシ原場ノ路上ニ運轉手臺ニ居眠リテモシテ居ル様ナ恰好ニテ死シ居ルヲ見非常ニ驚キタリ森方乘用ノ自動車大一一二七一號ノメーターヲ調ヘタルニ走行回数十一回料金十九圓八十錢トナリ居リ運轉報告書ニ依レハ十回ニ四圓五十錢ノ料金ヲ受取リシ記入アルノミナレハ十一回目ノ料金ハ未タ貰ヒ居ラス從テ四圓五十錢ノ料金ヲ森カ所持シ居タルコトハ明白ナル旨ノ記載

一、證人神原タカヨニ對スル同調書中同人ノ供述トシテ自分ハ大阪市東成區澤江町一丁目二百二十一番地岡崎ハンカチーフ工場ニ女工トシテ住込メルカ昭和十一年十二月二日夜十二時ノサイレンカ鳴リタレハ戸締ヲシ寢ヤウトセル際銃聲カ一發シタリ斯様ナ淋シキ野原ノ家ニテ夜中銃聲ヲ聞キタレハ吃驚シタルカ翌朝七時頃自分方工場ノ東方半丁程離レシ野原道ニテ運轉手カ自

動車ノ中ニテ拳銃ニテ撃タレ死シ居レルコトヲ聞キタリ自分カ右銃聲ヲ聞キタルハ三日ノ午前零時二十分カラ三十分迄ノ間ナリシト思フ旨ノ記載

一、強制處分ニ依ル豫審判事ノ檢證調書中昭和十一年十二月三日午前十時頃大阪市旭區永田町五十一番地道路上ニ大一一二七一號自動車カ停車シ居リ附近一帶ハ草原ニシテ東方約二十間ノ箇所ニ一軒南方約四十間ノ箇所ニ一軒ノ人家アル外附近ニ人家ナク夜間ハ極メテ寂寥タル所ト思料セラル右自動車ノ運轉手席ニハ腰掛ケタル體絶息セル年齡二十七八歳位ノ男性死體アリ其後頭部ニハ彈痕ト思料セラル小指頭大ノ傷アリ客席ノ略中央部ヨリ南寄りニ藥莖一個放置セラレアル旨ノ記載

一、鑑定人松原豐治ノ鑑定書中森方之助ノ死體ニ存在セル損傷ハ後頭下部ヨリ前右側ノ方向ニ第一頸椎ト後頭骨底部トノ間隙ニ彈丸カ射入サレ右側頸部ノ筋肉層ヲ走り右鎖骨内端ニ達シ脊椎管内ニ突入シ第二頸椎體部後壁ニ達シテ彈丸ヲ保留シ其經過中延髓ヲ挫碎セル一個ノ盲管銃創ノミニシテ右銃創ハ近距離ヨリ發射セラレタル拳銃ノ彈丸ニ依リ生シタルコト確實ニシテ被害者ノ後方稍左側ヨリ後頭下部ニ向ツテ發射セラレタルモノト推定スヘク同人ノ死ハ該銃創ニヨリ延髓カ挫碎セラレタル結果拓招セシ急性死ニシテ死因ハ延髓損傷ニ因ル中樞神經機能麻痺ナル旨ノ記載

一、證第五號拳銃ノ現存
ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第三事實ハ

一、被告人ニ對スル豫審第五回訊問調書中同人ノ供述トシテ判示六日自分ハピストルヲトソビノ左内ポケットニ入レ裏廻リノ細道ノ黒板塀ノ家ノ角ニ立チ居ル際二人ノ男カ參リ警察ノ者タカ調ヘタキコトアレハ警察ハ同行シテ吳レト申シ素早ク自分ノ手ヲ兩方ヨリ細ミ逃カサヌ様ニシタレハ自分ハ之ヲ振切ツテ逃ケ出サントシタルモ振切ルコトカ出來ヌ暫ラク格闘シタルカ相手

二八九 詐欺、強姦殺人、殺人未遂

ハ二人ナル爲其場ニ押倒サレタレハ最早斯ウナツテハ仕方ナケレハピストルニテ二人共撃ツテ置キ逃ケヤウト思ヒ漸クピストルヲ取出シ撃ツツ撃ツツ申シタルモ自分ノ腕ヲ掴メル手ヲ離ササレハ一發々射シタルニ手ノ自由カ利カサリシ爲刑事ヲ撃ツコトカ出來ス刑事ハ益々自分ノ腕ニシガミ付キピストルヲ握キ取ラントシ最早ピストルヲ撃ツコト出來ス遂ニ逮捕セラレタル旨ノ記載

一、同第六回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分カ判示ピストルヲ發射セル際ニハ刑事等ニ中ツテモ中ラナクテモカマワヌ兎ニ角撃テ爾丈撃ツテ置キ逃ケヤウト言フ心算ニテ發射シタルモノナル旨ノ記載

一、證人池田茂ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ天王寺警察署詰巡査ナルカ強盜殺人容疑者吉中正男檢策ノ爲同僚坂本登巡査ト共ニ判示日時場所ニ差蒐リタル際被告人ニ行會ヒ坂本巡査ト左右ヨリ同人ノ腕ヲ掴ミ警察ニ同行ヲ求メタルニ矢庭ニ抵抗シ逃走セントシタレハ二人テ一生懸命捕縛ヲ掛ケントシタルモ力モ強ク死物狂ノ抵抗ヲ爲シタルカ其内坂本巡査カピストルヲ所持シ居レハ用心セヨト注意シタレハ注意シツツ同人ヲ嬲際ニ引張り行キ倒サントセル途端撃ツツ撃ツツト云ヒ乍ラ體カ自分ヲ狙ヒタリト思フカ一發發射シタルモ坂本巡査カピストルヲ持テル手ヲ抑ヘ居タル爲自由カス彈丸ハ誰ニモ中ラス坂本巡査カピストルヲ握キ取り同人ヲ逮捕シタリ後ニテ其男カピストルヲ握リ居ル手ノ上ヨリ兩手ニテ確ト握リ縮メ居タル爲藥莢カ飛出ス孔ヲ塞キ次ノ彈丸ヲ撃ツコトカ出來サリシコトカ判リタルカ若シ此ノ事ナケレハ數發々射出來ル譯ニテ如何ナル結果ヲ生セシヤモ知レサル旨ノ記載

ヲ綜合シテ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ強盜殺人ノ點ハ同法第二百四十條ニ殺人未遂ノ點ハ同法第二百三條第九十九條ニ各該當スルヲ以テ強盜殺人ノ所爲ニ付テハ右該當法條所定刑中死刑ヲ殺人未遂ノ

所爲ニ付テハ同該當法條所定刑中有期懲役刑ヲ各選擇シ以上ハ同法第四十五條ニ依リ併合罪ノ關係アルモ其ノ中ノ一罪タル強盜殺人ノ罪ニ付被告人ヲ死刑ニ處スヘキヲ以テ同法第四十六條ニ從ヒ他ノ刑ヲ科セス而シテ押收ニ係ル拳銃一挺(證第五號)ハ本件詐欺罪ノ贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ之ヲ被害者西岡留次郎ニ還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項第二百四十二條ニ依リ全部被告人ニ之方負擔ヲ命スヘキモノトス

辯護人奥田福敏ハ被告人ハ本件犯行當時心神喪失ノ狀態ニ在リタルモノナル旨主張スレトモ前段引用セル被告人ニ對スル豫審訊問調書ノ記載ニ依レハ本件犯行當時被告人カ事物ノ理非善惡ヲ辨識スル能力ナク又ハ此ノ辨識ニ從テ行動スル能力ナキ狀態ニ在リタルモノトハ認メ難キトコロハ右主張ハ採用セス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十三年四月十四日

大阪地方裁判所第〇刑事部

二九〇 竊盜、住居侵入、強盜殺人未遂

判決

本籍 茨城縣水戸市石川町四千二百八番地

住居 東京市小石川區高田豐川町十二番地

三輪源一方

二九〇 竊盜、住居侵入、強盜殺人未遂

二四九

衆吉並ニ長松事

肉屋雇人

森田久米吉

當十八年(大正十三年二月二十五日生)

主 文

右ノ者ニ對スル竊盜住居侵入強盜殺人未遂被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
被告人ヲ五年以上拾年以下ノ懲役ニ處ス

押收ニ係ル骨突庖丁壹挺(昭和十五年押第八三五號ノ三)ハ之ヲ沒收ス

押收ニ係ルワイシャツ壹枚(同押號ノ四)ハ被害者植松尙ニワイシャツ參枚(同押號ノ一一、一二、一三)ハ被害者

遠藤春五郎ニ夫々之ヲ還付ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ幼少ヨリ性粗暴ニシテ盜癖アリ尋常小學校中途退學後ハ東京市内ノ肉商ニ雇ハレ轉々シ居タルモノナルカ昭和十四年二月頃ヨリ郵便貯金ヲ志シ次第ニ其ノ増額スルヲ樂シミ居タルモ自己ノ給料ノ殘餘ノミニテハ何程モ貯金シ得サルヨリ不正ニ金品ヲ領得シテ貯金ノ資ニ當テントコトヲ企テ

第一、(一) 昭和十四年十月中旬頃ヨリ昭和十五年一月下旬頃迄ノ間前後三回ニ互リ當時雇ハレ先ナル東京市芝區田村町五丁目十九番地食肉營業小川商會事細川辰方ニ於テ同人所有ノラード四貫五百匁入二罐(價格合計金二十四

圓五十錢位相當)及同家雇人植松尙所有ノワイシャツ一枚(昭和十五年押第八三五號ノ四)クローム側腕時計一個(價格合計金二十三圓位相當)ヲ竊取シ

(二) 昭和十五年三月下旬頃ヨリ同年四月中旬頃迄ノ間前後三回ニ互リ當時雇ハレ先ナル同市小石川區高田豐川町十二番地牛豚精肉卸小賣商三輪源一方ニ於テ同人所有ノ豚ヒレ肉合計七百匁(價格合計金五圓九十五錢位相當)及現金四十三圓六十錢位在中ノズツク製集金袋一個ヲ竊取シ

第二、昭和十四年十月頃ヨリ徵兵検査迄ニ八百圓ノ貯金ヲ目算シテ毎月二十圓ノ貯金ヲ豫定シ居タルカ昭和十五年六月十日夜十時頃同月分ノ貯金ノ調達ニ苦慮シタル結果當時雇ハレ中ノ前記三輪源一方ノ西隣ナル同番地足袋洋品商遠藤春五郎方ニ忍込ミ其ノ賣上金ヲ竊取センコトヲ企テタルモ萬一家人ニ發見セラレシカ顔見知りナルヨリ直ニ發覺スヘキヲ虞レ無暴ニモ寧ロ家人ヲ襲殺シタル上金錢ヲ強取スルニ如カスト決意シ翌十一日午前三時頃同家表硝子戸ヲ破リテ屋内ニ侵入シ先ツ二階六疊ノ間ニ就寢シ居リタル右春五郎三男遠藤誠一(當二十六年)ヲ殺害スル目的ニテ熟睡中ノ右誠一ノ枕頭ニ忍寄り片膝ヲ立テ所携ノ骨突庖丁(昭和十五年押第八三五號ノ三)ヲ左手ニ持テ同人ノ咽喉部目算ケテ突キ刺シタルモ同人カ目ヲ覺シテ騒キ出シタル爲頸部ニ治療約三週間ヲ要スル切創等ヲ負ハシメタルニ止マリ殺害ノ目的ヲ遂ケサリシモ尙其ノ際階下店ノ間ニ在リタル前記春五郎所有ノワイシャツ三枚(同押號一、一二、一三)(價格合計金十一圓相當)ヲ強取シ

タルモノニシテ右竊盜並強盜殺人未遂ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

證據ヲ按スルニ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ餘ノ事實ハ

二九〇 竊盜、住居侵入、強盜殺人未遂

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル判示第一ノ(二)ノ竊取ニ係ルズツク製集金袋ノ在中現金高カ四十三圓六十錢位ナル點及判示第二ノ傷害ノ部位程度ノ點ヲ除キ判示同趣旨ノ供述

一、證人細川辰同三輪源一ニ對スル各豫審訊問調書中同人等ノ供述トシテ各自關係部分ニ付夫々判示ニ照應スル被害順末ノ記載並被害者植松尙提出ニ係ル盜難被害屆書中同人ノ關係部分ニ付判示ニ照應スル被害順末ノ記載

一、證人遠藤春五郎ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ遠藤誠一ノ受傷部位程度ノ點ヲ除キ判示第二ノ事實ニ照應スル被害順末ノ記載

一、醫師土肥圭三郎作成ニ係ル遠藤誠一ニ對スル檢診書中同人ノ受傷部位程度ニ付判示ニ照應スル記載

一、押收ニ係ル骨突庖丁一挺(昭和十五年押第八三五號ノ三)ノ存在

ヲ綜合シテ之ヲ認メ犯意繼續ノ點ハ被告人カ判示短期間内ニ判示ノ如ク同種行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ明カナリ仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ各所爲ハ刑法第二百三十五條ニ判示第二ノ所爲中住居侵入ノ點ハ同法第三百十條ニ強盜殺人未遂ノ點ハ同法第二百四十條後段第二百四十三條ニ各該當スルトコロ右竊盜ト強盜殺人未遂トハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニ依リ重キ強盜殺人未遂ノ一罪トナシ之ト右住居侵入トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十六條ニ則リ重キ強盜殺人未遂罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇スヘク尙ホ右ハ同法第四十三條本文ニ該當スル未遂罪ナルヲ以テ同法第六十八條第二號ニ依リ法定ノ減輕ヲ爲シ七年以上ノ有期ノ懲役ヲ以テ處斷スヘキトコロ被告人ハ少年法第一條ニ所謂少年ナルヲ以テ同法第八條第一項第二項ニ從ヒ

被告人ヲ五年以上十年以下ノ懲役ニ處シ押收ニ係ル骨突庖丁一挺(昭和十五年押第八三五號ノ三)ハ判示第二ノ犯行ニ供シタル物ニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收シ主文第三項掲記ノ物件ハ夫々判示第一ノ(一)ノ竊盜罪判示第二ノ強盜殺人未遂罪ノ贓物ニシテ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ主文第三項掲記ノ如ク被害者植松尙並ニ被害者遠藤春五郎ニ各還付スヘク訴訟費用ハ同法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年二月三日

東京刑事地方裁判所第〇部

二九一 強盜殺人未遂

判決

本籍並住居 和歌山縣日高郡上山路村大字殿原五百二十三番地

日稼業

瀧本 磯之助

明治三十一年七月四日生

右ノ者ニ對スル強盜殺人未遂被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役十年ニ處ス

押收ニ係ル白餡入モナカ菓子(證第一號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ妻ムラエトノ間ニ三男二女ヲ擁シ日稼ニ依リ其ノ生計ヲ維持シ居リタルモノナルトコロ數年前右耳ヲ患ヒ爾來勞働モ意ノ如クナラス殊ニ昭和十四年六月以來右ムラエカ精神ニ異狀ヲ來シタル爲生活愈困難ト爲リ多額ノ負債ヲモ生スルニ至リ之カ金策ニ付苦慮シ居リタル折柄偶知人ナル瀬戸梅三郎カ產物商ヲ營ミ常ニ多額ノ現金ヲ所持シ居ルヲ聞知スルヤ十數年前奈良縣吉野郡十津川村方面ニ出稼中氏名不詳ノ者ヨリ貰受ケ狸捕獲用トシテ所持シ居リタル硝酸ストリキニ一ネヲ使用シ同人ヲ毒殺シタル上金員ヲ強取センコトヲ企テ昭和十五年五月十日頃右梅三郎ニ對シ元軍人ニシテ數萬圓ノ資産ヲ有スル自己ノ遠縁ニ當ルモノカ賭博ヲ好ムニ因リ居村ノ深瀬榮一郎等ト相謀リ同人ヨリ金員ヲ捲上クル計畫ヲ爲シ居ルニ付金員ヲ多ク持參セハ持參スル程多額ノ儲アルヘキ旨虚構ノ事實ヲ告ケ辭巧ニ參加ヲ慫慂シ其ノ承諾ヲ得ルヤ茲ニ愈事ヲ決行センコトヲ決意シ同年五月十五日午前中被告人肩書居村庄司隆吉方空屋附近道路ニ於テ菓子小賣商崎山クラ方ヨリ買求メタル最中五個ノ中一個ニ前記硝酸ストリキニ一ネ約耳搔三杯ヲ投入シ準備ヲ整ヘタル上右梅三郎ヲ人跡稀ナル同村大字東通板谷ノ山ノ頂上鶴ヶ城跡ニ誘出シ同日午前十一時頃同所ニ於テ賭博仲間ノ集合シ來ルヲ待ツモノノ如ク裝ヒナカラ前記最中五個ヲ紙包ノ儘取出シ梅三郎ノ前ニ置キ同人ニ對シ之ヲ勸メ同人カ斯ル謀計アルトハ知ラス硝酸ストリキニ一ネノ混入シアル前記最中ヲ取上ケ其ノ約半分ヲ食シタルモ異狀アル

ヲ覺リ之ヲ中止シタルト右ストリキニ一ネノ混入分量カ少量ナリシ爲同人ニ對シ全治約六十日ヲ要スル胃腸障害ヲ蒙ラシメルニ止リ遂ニ其ノ目的ヲ遂ケサリシモノナリ

(證據説明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十三條第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定ノ無期懲役刑ヲ選擇シ未遂ナルヲ以テ同法第四十三條本文第六十八條第二號ニ從ヒ未遂減刑ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十年ニ處シ押收ニ係ル證第一號(白餡入モナカ菓子)ハ本件犯行ノ供用物件ニシテ被告人以外ノ者ノ所有ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ其ノ全部ヲ被告人ニ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年九月二十六日

和歌山地方裁判所〇〇支部

二九二 強盜殺人、同幫助

判 決

本籍 廣島縣高田郡吉田町七百十番屋敷

住居 同縣實茂郡西志和村大字志和西

二九二 強盜殺人、同幫助

二五五

竹細工職

堀川 忠人

二五六

明治四十年三月十一日生

本籍 廣島縣高田郡吉田町七百十番屋敷

住居 山口縣宇部市東見初炭坑株式會社

斜ノ八藤原兼太郎方

探炭夫

堀川 清次郎

明治三十七年十二月十七日生

右兩名ニ對スル強盜殺人被告事件ニ付昭和十三年十一月三十日廣島地方裁判所ニ於テ言渡シタル有罪判決ニ對シ各被告人ハ孰レモ控訴ヲ爲シタリ因テ當院ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人堀川忠人ヲ死刑ニ處ス

被告人堀川清次郎ヲ懲役四年ニ處ス

被告人堀川清次郎ニ對シテハ原審ニ於ケル未決勾留日數中百日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル綱一本(證第三號)ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用中證人福井宇之助ニ支給シタル分ハ被告人堀川忠人ノ證人藤原兼太郎ニ支給シタルモノハ被告人堀川清次郎ノ各單獨負擔トシ其餘ハ被告人兩名ノ連帶負擔トス

理 由

被告人兩名ハ兄弟ニシテ幼少ノ頃實父熊太郎カ家出シタル爲實母セイノ手ニテ養育セラレ廣島縣高田郡秋越村小越ニ於テ成人シタルモノナルカ被告人忠人ハ曩ニ叔父ニ該ル同縣豐田郡河内村河戸七瀬戸源一ノ妻サア(昭和十二年中死亡)ノ事實上ノ養子トナリ同家ノ事實上ノ養女タリシ右サアノ姪山沖清美ト内縁ノ夫婦トナリ同女トノ間ニ四人ノ子女ヲ儲ケタルモ家庭ノ事情上妻子ヲ殘シテ單身同縣賀茂郡西志和村大字志和西ニ移リ同所ニ職場ヲ設ケテ別居シ竹細工職ヲ營ミツツ妻子ニ生活ノ資ヲ送付シ居リタルカ偶々昭和十二年十月末頃ヨリ病氣ニ罹リ未タ全治スルニ至ラサルニ翌昭和十三年一月頃妻清美カ膽石病ヲ患ヒ漸ク其ノ輕快ニ赴キタル頃ニハ前記秋越村ニ居住セル母セイカ罹患シ更ニ清美ノ病氣再發スル等其ノ身邊ニ不幸續出シ家計著シク不如意トナリ竟ニ衣食ノ資ニモ窮乏スルニ至リタル上屢々清美ヨリ送金ヲ迫リ來リ之カ調達ニ焦慮シ居リタルモノニシテ被告人清次郎ハ幼少ノ頃ヨリ竹細工ヲ習得シ之ニ依リ一家ノ生計ヲ維持シ居リタルモノナルカ數年前ヨリ兎角健康勝レス金錢上弟忠人ノ援助ヲ受ケタルコト一再ニ止ラサリシモ昭和十三年二月頃ヨリ漸次健康ヲ回復シ宇部市東見初炭坑ノ坑夫トナリ日給二圓餘ヲ得テ其ノ生活漸ク安定セントスルニ至リ同年五月中旬頃弟忠人ノ恩ニ報ユル爲約六十圓ノ貯金ヲ携ヘテ一時母ノ家ニ歸省シタルニ偶々同月二十日多年所在不明ナリシ實父熊太郎カ廣島縣高田郡來原村ニ於テ行路病者トシテ死亡シタル旨ノ悲報ニ接シ其ノ屍體ノ引取及葬儀等ニ相當ノ失費ヲ要シ忠人ノ前記窮狀ヲ救済スルコト能ハサル状態ニ立至リタルモノナルトコロ

第一、被告人忠人ハ昭和十三年五月三十一日夜飯米ヲ齎ス爲兄清次郎ヲ促シ相携ヘテ右秋越村ヨリ西志和村ナル前記職場ニ立越ス途上清次郎ニ對シ叙上窮乏セル事情ヲ訴ヘ身ノ不遇ヲ啣チ右職場ニ到着スルヤ焦慮ノ餘豫テ知合ニシテ同村大字別府五百三十番地ノ離家ニ獨リ居住シ常ニ大金ヲ所持シ居レリトノ風評アル朝鮮人山本一郎事洪承榮

(當時五十年)ヲ殺害シテ金員ヲ強取センコトヲ企圖シタルモ尙單獨ニテ右兇行ヲ爲スコトヲ躊躇シ之ヲ兄清次郎ニ打明ケタル上兇行現場ニ同行センコトヲ求メタルトコロ同人ニ於テ其ノ非ヲ諭シ之ヲ斷念セシメントシタルモ被告人忠人ハ之ニ服セス尙モ同行ヲ懇願シテ止マザリシ爲被告人清次郎ハ痛ク被告人ノ窮境ニ同情スルト共ニ自己モ亦右忠人ノ窮狀ニ付責任アルコトヲ痛感シ骨肉ノ情止ミ難ク遂ニ右同行ヲ承諾シタルヲ以テ之ニ力ヲ得タル被告人忠人ハ愈々前記洪承榮ヲ殺害シテ金員ヲ強取スルノ決意ヲ固メ同所ニ在リタル竹割小刀(刃渡約四寸)ヲ吞ミ被告人清次郎ト共ニ右職場ヲ立出テ途中酒肴ヲ調へ同夜十一時頃前記洪承榮方ニ到リ被告人清次郎ハ同家戸外ニ残り被告人忠人一人屋内ニ入り先ツ洪承榮ト酒食ヲ共ニシツツ屑鐵賣買ノコトニ付押問答ヲ重ヌルコト數刻ニシテ洪承榮ハ戸外ニ立出テタルヲ以テ被告人忠人ハ其ノ後ヲ追ヒ同家西南路上ニ至ルヤ被告人忠人ハ突如所携ノ綱(證第三號)ヲ洪承榮ノ左脚ニ卷付ケテ同人ヲ地上ニ引倒シ之ニ乘懸リテ右手ヲ以テ同人ノ胸元ヲ押ヘ左手ニ前掲小刀ヲ揮ヒテ數回同人ノ右頸部ニ斬付ケ頸椎體ヲ切割セル創傷ヲ蒙ラシメ前示右頸部創傷ニ基ク失血ニ因リ同人ヲシテ即時同所ニ於テ死亡スルニ至ラシメ其ノ所持ニ係ル現金約七拾圓餘ヲ強取シタルモノナリ

第二、被告人清次郎ハ第一掲記ノ如ク被告人忠人ヨリ洪承榮ヲ殺害シテ金員ヲ強取スルノ意圖ヲ告ケラレ且其ノ兇行現場ニ同行スヘキコトヲ求メラルルヤ一旦其非ヲ諭シテ翻意セシムヘク力メタルモ前示ノ如キ事情上其ノ懇請ヲ拒ムコト能ハス遂ニ之ヲ容レ前記兇行現場迄同行シ因テ單身決行ヲ鈍レル被告人忠人ヲシテ強盜殺人ノ決意ヲ強固ナラシメ被告人忠人ノ叙上犯行ヲ容易ナラシメ以テ之ヲ幫助シタルモノニシテ被告人清次郎ハ右幫助當時心神耗弱者タリシモノナリ

證據ヲ案スルニ右ノ事實中冒頭掲記ノ事實ハ被告人兩名ノ當公廷ニ於ケル各關係部分ニ付夫々判示同旨ノ供述ニ依リ

第一、第二ノ事實ハ

一、被告人堀川忠人ニ對スル豫審判事ノ強制處分ニ依ル被疑者訊問調書中同人ノ供述トシテ五月三十一日(昭和十三年)午後六、七時頃迄バラツクノ取毀ニ働キタル後自分ハ兄清次郎ニ對シ西志和村ノ職場迄飯米ヲ取リニ行クカラ一緒ニ行ツテ吳レト頼ミタルトコロ兄ハ夫レヲ承諾シテ吳レ一緒ニ行ツテ吳レルコトトナリ兄ト共ニ秋越村ヨリ西志和村ノ職場ニ赴ク途中色々ト考ヘテ見タルモ苦シクテ堪ラス兄ニ對シ「正直ニシテ居タノテハ到底駄目タ苦シクテ到底遣リ切レナイ」ト申シタルニ兄清次郎ハ「馬鹿ナ事ヲ考ヘスニ待ツテ居レハ八九月頃ニハ金ヲ送ツテ遣ル」ト申ス故自分ハ「夫レハ當テニナラヌ」ト申シタルトコロ兄清次郎ハ「夫レテハ勝手ニセヨ」ト申スニヨリ自分ハ「勝手ニスル」ト言ヒテ職場ニ歸リタリ、豫テ知合ナル朝鮮人山本一郎事洪承榮ハ獨身者ニテ隣家ハ二、三十間乃至四、五十間離レ居リ平素自分ニ對シ「何時モ五、六百圓金ヲ持ツテ居ル」ト申シ居リタル故自分ハ洪承榮カ相當金ヲ所持シ居ルモノト信シ同人ヲ殺シテ金ヲ盜ルコトヲ決意シ職場ニ在リタル自分所有ノ「コギリ」ト言フ細工庖丁ヲ取リズボンノ左ポケットニ入レ尙家ノ取毀ニ使用スル細引六尺許リノモノヲズボンノポケットニ入レ居リタル故夫等ヲ道具ニスル積リニテ兄ト一緒ニ出掛ケタルカ兄ハ何モ持タス不精々々隨キ來タリタリ途中自分ハ西志和村字八條ノ富田商店ニテ酒五合ト蒲鉾一枚ヲ買ヒ洪承榮方ニ到着スル手前ニテ兄ハ「家ノ中ニ這入ラヌカラ」ト申シタル故自分一人洪承榮方屋内ニ入り「ヨウ」ト言フト同人ハ「ヤア」ト答ヘタルニヨリ自分ハ「一杯飲マウ」ト言ヒ夫レヨリ同人ト蒲鉾ヲ肴ニシテ酒ヲ飲ミ屑鐵賣買ノ話カ大分モツレタルカ洪承榮ハ便所ニ立チタル際戸外ニ居リタル兄ヲ呼入レ尙モ屑鐵賣買ニ付自分ニ愚圖々々申シ自分「僕ハ先ニ歸ル」ト言ヒ洪方ヲ立出テタルニ洪力出テ來テ自分ノ背ヲ掴ヘテ押シタル故自分ハ躡キタル途端ニポケットニ入レ居リタル細引ニ手カ觸レタル故夫レヲ左手ニ持チ替ヘタル際洪方再ヒ兩手ニテ自分ノ兩肩ヲ押シタリ其ノ時自分ハ兩手ニテ

洪ノ兩脚ニ抱付カントシタルカ左脚カ拔ケ右脚ニ抱付キタル故細引ノ一端ヲ他ノ端ノワサニ通シ三尺位引張リタルトコロ洪ハ左ヲ下ニシ横向キニ轉ヒ大聲ヲ上ケタリ自分ハ右手ニテ洪ノ上衣ノ胸倉ヲ掴ミテ押ヘツケボケツトノコギリヲ出シテ左手ニ持チ洪ノ咽喉ト思ハルル所ニ斬付ケ三、四回斬付ケタル頃洪ノ息カ絶エ聲カセヌヤウニナリタルニ依リ自分ハ右手ニテ洪ノ腹巻ヲ掴ミテ引出シ左手ニ持チタルコギリニテ腹巻ヲ切裂キ茶色ニツ折ノ懷中ヲ取出シタルカ洪カ腹巻ニ金ヲ入レ居ルコトハ酒ヲ飲ム際腹巻カフタレ居リタル故ヨク判リタル旨ノ記載

一、被告人堀川忠人ニ對スル豫審第一回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分カ洪承榮ヲ殺害シテ奪ヒタル金ハ七拾圓十四、五錢ナル旨ノ記載

一、同第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ判示職場ヨリ洪承榮方ニ出掛ケル際自分ハ兄ニ對シ朝鮮人ノ所ヘ行キ金ヲ貸セト言ヒテモ仲々貸サヌテアラウカラ殺シテモ取ツテ來ルト言ヒ自分ト一緒ニ洪承榮方ニ行キ呉レルヤウ頼ミタルカ兄ハ初メソノ様ナ事ハスナト言ヒ居タルモ結局自分ノ頼ヲ聽入レ一緒ニ行キ呉レタルナリ其ノ時兄カ如何ナル氣持ニテ行キ呉レタルカハ判ラサルモ自分トシテハ自分ノ仲間ニナリ一緒ニ行キテ貰フ氣持ナリキ殺シテモ奪ツテ來ル心算ト言ヒテモ獨リニテ決行スル程ノ元氣モナカリシ自分ハ兄カ一緒ニ行キ呉レルコトトナリ夫レニ力ヲ得テ愈々其ノ企ヲ實行シヤウト決心シタル旨ノ記載

一、當審第一回公判調書中被告人堀川忠人ノ供述トシテ自分ハ西志和村大字別府五百三十番地ノ離レ家ニ居住シ居リタル鮮人山本一郎事洪承榮(昭和十三年當時五十歲)ヲ殺害シテ所持金ヲ盜ミタル事ハ相違ナシ兄清次郎ハ右兇行現場ニ同行シタルモノナル旨ノ記載

一、被告人堀川清次郎ニ對スル豫審第一回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ弟カ鮮人ヲ殺シテモ金ヲ奪ツテ來ルト言ヒ自分ト一緒ニ行ツテ呉レト頼ム故ソノ様ナ事ハスルナト懇々制止シタルモ弟ハトウシテモ肯カス自分ニ對シ隨イテ行ツテ呉レサエ

スレハ良イカラ隨イテ行ツテ呉レト頼ムニ依リツイ引キツラレル氣持ニテ「夫レテハ一緒ニ行カウ」ト言ヒテ隨イテ行キタルナリ而シテ自分ハ職場ヲ出ル前ニ弟カコギリヲボケツトニ入レタノヲ見タルニ相違ナキモ自分ノ氣持トシハテ何所迄モ「弟ハアノ様ナ元氣ナ事ヲ言ツテ居テモ眞逆殺スヤウナコトハアルマイ又トウカソノ様ナコトハ起キナイテ欲シイ」ト思ヒ居リタルハ勿論ニシテ假ニ弟カ其ノ言葉通り實行スルトスルモ自分モ進ンテ手ヲ出サヤウナ氣持ハナカリキ弟トシテハ自分ノ承諾ヲ得タル故力強ク思ヒ愈々其ノ考ヲ實行スル元氣ヲ得タルニ相違ナシ其ノ様ナ弟ノ氣持ハ始ヨリ自分ニ判リ居リタルモ弟カ懇願シテ已マサリシ故遂ニ隨イテ行キタル次第ナル旨ノ記載

一、鑑定人香川卓二作成ノ昭和十三年六月二十日附鑑定書中判示ニ符合スル洪承榮ノ傷害ノ部位程度並死因ノ記載

一、鑑定人林道倫作成ノ昭和十四年十一月二十日附鑑定書中昭和十三年五月三十一日夜及現時ニ於ケル堀川清次郎ハ「ハンチンドン」舞踏病兼精神分裂病患者ニシテ舞踏病的性格異變ハ明瞭ナラサルモ精神分裂病ニヨル精神ノ荒蕪ハ被フヘカラサル状態ニ達シ居レルヲ以テ同人ハ即常人ノ範圍ヨリ一段下レルモノナル旨ノ記載

ヲ綜合シテ各之ヲ認ム仍テ判示犯罪ハ總テ其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人堀川忠人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十條後段ニ該當スルヲ以テ所定刑中死刑ヲ選擇處斷スヘク被告人堀川清次郎ノ判示所爲ハ同法第二百四十條後段第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇處斷スヘキトコロ從犯ニ係リ且心神耗弱者ナルヲ以テ同法第六十三條第二項第七十二條第六十八條本文同條第二號ニ依リ減輕ヲ爲シ尙犯罪ノ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役四年ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日

數中百日ヲ右本刑ニ算入シ主文掲記ノ押收物件ハ本件犯罪行為ニ供與シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セザルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ依リ主文末項掲記ノ如ク其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年十二月二十日

廣島控訴院刑事部

二九三 強盜強姦

判決

本籍 奈良縣高市郡畝傍町大字見瀬七百十四番地
住居 不定

ペンキ職

西川 信治郎

明治二十六年十月八日生

右ノ者ニ對スル強盜強姦被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケタル上判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役五年ニ處ス

理由

被告人ハ昭和十四年十二月五日午後九時頃奈良縣生駒郡富郷村大字興留大阪電氣軌道株式會社法隆寺線法隆寺驛待合所ニ於テ同縣同郡安堵村大字東安堵小林や枝(當時十九歲)ト出會シ共ニ徒歩ニテ東安堵ヘ向ヒタルカ同日午後九時二十分頃人家ヨリ數町隔リタル右富郷村大字興留所屬富雄川ノ堤防ヲ通行中遽ニ劣情ヲ催シ同女ヲ強テ姦淫セント決意シ背後ヨリ右手ニテ同女ノ右腕ヲ握リ左手ニテ左肩ニ抱キ付キ「言フコトヲ聽ケ聽カナケレハ赦サヌソ」ト申向ケテ同女ヲ極度ニ畏怖セシメ其ノ爲同女カ殺サレンコトヲ恐レテ金錢ヲ提供セント申出スルヤ右金錢ヲ強取セント決意シ同女ニ對シ「金ヲ出セ」ト申向ケ同人所有ノ現金六圓八十一錢在中ノ財布一個ヲ強取シタル上更ニ同女ニ對シ「言フコトヲ聽ケ聽カナケレハ殺スソ」ト申向ケテ畏怖シ居ル同女ノ反抗ヲ抑壓シ附近ノ叢中ニ於テ同女ヲ強テ姦淫シタルモノナリ

(證據說明省略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十一條前段ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ加ヘタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年二月二十九日

奈良地方裁判所刑事部

二九四 詐欺、業務上横領、住居侵入、強盜強姦、同未遂、竊盜

判決

本籍並住居 千葉縣船橋市海神町三丁目五百七十七番地

無職

竹内清次郎

當三十五年

右ノ者ニ對スル詐欺、業務上横領、竊盜及強盜強姦被告事件ニ付昭和十五年十二月十日千葉地方裁判所ニ於テ宣告シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事其關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役十二年ニ處ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ

第一、昭和十四年三月頃船橋市本町三丁目鈴木隆方ニ到リ同人妻さくニ對シ恰カモ千葉共榮無盡株式會社ノ外交員ナルカ如ク申向ケ無盡加入方ヲ勸誘シさくヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ同人ヨリ同月乃至同十五年一月ノ間十回ニ互

リテ右掛金名義ノ下ニ合計金百三十五圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二、昭和十五年四月頃ヨリ富國徴兵保險相互會社ノ代理店鳥光要一ニ使用セラレテ保險ノ勸誘及集金等ノ事務ニ從事シ居リタルトコロ同年七月一日加納米吉方ヨリ受領シタル保險料金二百四十圓ヲ業務上占有中其ノ頃十數回ニ互リテ犯意ヲ繼續シ擅ニ船橋市内等ニ於テ自己ノ用途ニ費消横領シ

第三、犯意繼續ノ上

(一) 昭和十五年九月十日千葉縣東葛飾郡行徳町大和田榊原一與方居宅六疊間へ侵入シ同人所有ノ現金約三十圓在中ノ中古手提鞆一個ヲ竊取シ

(二) 同月十八日船橋市海神町東一丁目田久保幾之助方居宅へ侵入シ店舗内ニ在リタル同人所有ノ現金約八圓及クローム側腕時計一個(價格約金十三圓)ヲ竊取シ

(三) 同月二十三日午前二時頃同縣東葛飾郡行徳町島野福治郎方六疊ノ間ニ於テ同人妻さく當三十六年が獨リ就寢シ居リタルヨリ同女ヨリ金品ヲ強取シ且強姦ヲ爲サントヲ決意シ風呂敷ニテ覆面ノ上同家西側羽目板ノ破損シタル個所ヨリ同家ニ侵入シ附近ニ在リタル薄刃庖丁ヲ携ヘテさくノ枕許ニ到リ「俺ノ云フコトヲ肯カナケレハ之ヲ殺シテ仕舞フゾ」ト脅迫シテ同女ヲ其ノ場ニ於テ強姦シ更ニ其ノ兩足ヲ半巾帶ヲ以テ縛リ頭部ニ單衣物ヲ覆セ其ノ上ヨリ晒布ニテ首ノ邊ヲグルグル卷ニシ「金ヲ出セ」ト申向ケテ脅迫シ金錢ノ所在ヲ告ケシメテ店舗其ノ他ニ在リシ現金約四圓及衣類數點(價格合計約金三十圓)ヲ強取シ

(四) 同月三十日午後八時四十分頃偶々市川市鬼越三百二番地細野正太郎カ外出スルヲ見ルヤ同家ニ於テ強盜ヲ爲

二九四 詐欺、業務上横領、住居侵入、強盜強姦、同未遂、竊盜

サンコトヲ決意シ直チニ覆面シテ同家ニ侵入シ六疊ノ間ニ横臥讀書シ居リタル右正太郎ノ妻よし當二十五年ノ頭部ニ突如衣類ヲ覆セテ押へ付ケ「騒クト殺スソ」ト申向ケ尙メリンスノ細紐ヲ以テ其ノ兩手ヲズボン下ニテ鼻口ノ邊ヲ夫々縛リタル上「金ヲ出セ」ト申向ケテ脅迫シ同女ヲシテ筆筒ヨリ現金三百五圓ヲ取出サシメテ之ヲ強取シ更ニ之ヲ強姦セント同所ニ敷キアリタル布團ノ上ニ押倒シテ馬乗りトナリ陰部ニ陰莖ヲ押當テタルモ勃起セザリシ爲其ノ目的ヲ遂ケス

(五) 同年十月四日横須賀市深田町加藤さくゑ方ニ投宿中同家下宿人前田安治ノ居室ニ侵入シ同所ニ置キ在リタル同人所有ノ現金十五圓及同人名義ノ金百二十圓二十五錢預入ノ郵便貯金通帳一冊竝前田ト刻セル木製認印一個ヲ竊取シ

タルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實中

第一ノ點ハ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル該判示同旨ノ供述

一、證人鈴木隆ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ鈴木さくゑハ自分ノ妻ナルトコロさくゑハ被告人ノ爲判示ニ照應スル詐欺ノ被害ヲ受ケタル旨ノ記載

ニ依リ之ヲ認メ

第二ノ點ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル該判示同旨ノ供述

一、證人島光要ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ判示ニ照應スル横領被害顛末ノ記載

ニ依リ之ヲ認メ

第三ノ(一)(二)(五)ノ點ハ何レモ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同旨ノ供述ニ依リテ之ヲ認メ

第三ノ(三)ノ點ハ

一、被告人ニ對スル第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ判示薄刃庖丁ヲ以テ脅迫シタル點ヲ除キ判示同旨ノ記載

一、證人島野きみニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ島野福治郎ノ妻ナルカ判示日時判示場所ニ於テ獨リ就寢シ居リタルトコロ何者カ侵入セシ様子ナリシ故誰何セシニ被告人カ覆面シテ枕許ニ來リ携ヘテ居リシ薄刃庖丁ヲ枕許ニ置キ「俺ノ言フ事ヲ肯カナケレハ之ヲ殺シテ仕舞フ」ト脅カセシ爲恐怖ノ餘リ如何トモスルコト能ハス賊ノ爲ス儘ニ委セ遂ニ強姦セラレタリ被告人ハ其ノ上自分ノ兩足ヲ半巾メリンス帶ニテ縛リ頭ニハ單衣物ヲ覆セ其ノ上ヨリ首ノ邊ヲ晒布ニテグルグル卷ニシテ「金ヲ出セ」ト申シタルヲ以テ錢箱ニアルト答フルヤ同人ハ店舗其ノ他ヲ物色シテ判示金品ヲ取りタル上出テ行キタル旨ノ記載

ニ依リ之ヲ認メ

第三ノ(四)ノ點ハ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル「騒クナ殺スソ」「金ヲ出セ」ト申向ケタル點ヲ除キ判示同旨ノ供述

一、證人細野よしニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ細野正太郎ノ妻ナルカ判示日時夫ノ外出後判示場所ニ布團ヲ敷キテ横ニナリ雜誌ヲ讀ミ居リシ所一名ノ賊侵入シ突然枕許ニ置キタル浴衣ヲ覆セラレテ押ヘテレタリ賊ハ「騒クト殺ス

二九四 詐欺、業務上横領、住居侵入、強姦強姦、同未遂、竊盜

ソト申シメリンスノ細紐ニテ自分ノ兩手ヲ縛リズボン下ニテ口ヨリ鼻ニ掛ケテ縛リタル上、金ヲ出セト申シタルヨリ自分ハ怖シサノ餘リ縛ラレタル儘籠篋ヨリ現金三百五圓出シタルトコロ其レヲ取り上ケ更ニ自分ヲ擱マヘ布團ノ上ニ押倒シ強姦セントシタル旨ノ記載

ニ依リ之ヲ認メ

以上第二及第三ノ各犯意繼續ノ點ハ被告人カ短期間内ニ各同種ノ犯行ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ明カナリ因テ判示事實ハ凡テ其ノ證明アリタルモノトス

而シテ被告人ハ昭和七年十二月二十四日千葉地方裁判所ニ於テ強盜罪ニヨリ懲役五年ニ處セラレ同年勅令第一九號減刑令ニヨリ懲役三年九月ニ變更サレ昭和十一年四月二十九日假出獄ヲ許サレ其ノ期間滿了ニヨリ右刑ノ執行ヲ免除サレタルモノニシテ該事實ハ被告人ノ當公庭ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニヨリ明白ナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中判示第一ノ詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項ニ、判示第二ノ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ、各該當シ判示第三ノ住居侵入ノ點ハ同法第三百三十條第五十五條ニ、強盜強姦ノ點ハ同法第二百四十一條前段ニ、同未遂ノ點ハ同法第二百四十三條第二百四十一條前段ニ、各竊盜ノ點ハ何レモ同法第二百三十五條ニ該當スルトコロ以上強盜強姦未遂竊盜ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條第十條ニヨリ之ヲ一罪トシテ重キ強盜強姦罪ノ刑ニ從ヒ之ト右住居侵入トハ手段結果ノ關係ニ在ルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ強盜強姦罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ前科アルヲ以テ以上各罪ニ付同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ特ニ判示第三ノ罪ニ付テハ同法第十四條ノ制限刑期範圍内ニ於テ夫々累犯ノ加重ヲ爲シ尙

以上ノ各罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ最モ重キ強盜強姦罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル上同法第十四條ノ制限刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十二年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニヨリ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年一月二十八日

東京控訴院第〇刑事部

二九五 強盜殺人、強盜強姦

判決

本籍 高知縣長岡郡稻生村八百十八番地
住居 不定

仲仕

井上清重

明治二十八年十月三日生

右ノ者ニ對スル強盜強姦殺人被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ死刑ニ處ス

二九五 強盜殺人、強盜強姦

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ昭和三年七月二日大阪控訴院ニ於テ強姦及強盜罪ニ依リ懲役七年（昭和三年勅令第二百七十號減刑令ニ依リ懲役五年三月七日ニ變更セラル）ニ昭和十年七月二十六日高知區裁判所ニ於テ傷害罪ニ因リ懲役一年ニ各處セラレ當時夫々右刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナル處長スルニ從ヒ賭博ト遊興ニ興味ヲ覺エ之カ爲其ノ家財ヲ蕩盡シ郷里ニ居堪マラスナリシヨリ遂ニ昭和十一年八、九月頃職ヲ求メテ來阪シ爾來轉々トシテ大阪市内築港方面等ノ仲仕宿ニ止宿シ同市内各所ニ於テ仲仕稼業ヲ爲シ其ノ日ノ糊口ヲ凌キ來リタルカ金錢ニ窮シタル結果通行中ノ婦女ヲ脅迫シ金品ヲ強奪センコトヲ意圖シ之カ決行ノ場所ニ付考慮ノ末豫テ出稼中其ノ地理ニ精通セル大阪府北河内郡四條畷村大字清瀧地内舊清瀧街道附近ト定メ昭和十五年二月十三日同所ニ赴キタルモ日没ニ至リシ爲之カ目的ヲ達セス當日ハ同所附近土取場道具小屋内ニ一夜ヲ明シ翌十四日朝右小屋内ニ藏置シアリタル棒切（證第一號）及録（證第二號）等ヲ所持シテ同所ヲ立出テ右舊清瀧街道上ヲ上清瀧部落ヨリ數町東方ニ距リタル地點附近ノ路傍ニ於テ待合ハセ其ノ機ヲ窺ヒ居リタル折柄同日午前九時頃偶々同所ニ通り掛リタル東口政枝（當二十五年）ヲ目撃スルヤ同女ノ風體身裝等ヨリシテ相當金品ヲ所持セルモノト思惟シ同女ヲ脅迫シテ金品ヲ強取セント欲シ右決行ニ付安全地點ナル同街道上通稱大師山下附近迄尾行シ同所ニ於テ突如右政枝ニ對シ左手ニテ同女ヲ右肩ヲ擁シ「姐サン五十錢貸シテ呉レ」ト申向ケ同女カ驚愕ノ餘悲鳴ヲ上クルヤ即座ニ同女ヲ殺害シテ金品ヲ奪取センコトヲ決意シ所携ノ前記棒切及録ヲ以テ右政枝ノ頭面部ヲ亂打シ右同所ニ二十數箇所ノ打撲創及刺創等ヲ負ハシメテ其ノ場ニ昏倒スルニ至ラシメ同所ニ於テハ右街道通行人

ヨリ之ヲ目認セララルル處アルヲ以テ之ヲ顧慮シ同街道ヨリ約十間距リタル丘陵地帶陰ノ溪流内迄全ク抗拒不能ニ陥リタル同女ヲ引摺リ然ル後徐ニ同女ノ所持シ居タル現金十餘圓在中ノ墓口一個男物黒羽二重紋付反物二反（證第二十號）朱珍裏地六枚風呂敷二枚蛇ノ目傘一本等（時價約九十圓相當）ヲ強取シ右贓物品ヲ檢分シタル後即時同所ニ於テ右政枝ヲ強ヒテ姦淫シタル上同女ノ肩掛（證第四號）ヲ同女ノ頸部ニ捲付ケテ強ク緊縛シ尙且兩手ヲ以テ頸部ヲ絞付ケ因テ即時同女ヲシテ窒息死ニ至ラシメ以テ殺害ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

（證據說明省略）

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中強盜殺人ノ點ハ刑法第二百四十條後段ニ強盜強姦ノ點ハ同法第二百四十一條前段ニ各該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ強盜殺人罪ニ付定メラレタル刑ヲ以テ處斷スヘク所定刑中死刑ヲ選擇シ被告人ヲ死刑ニ處シ尙訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ之ヲ全部負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年六月二十四日

大阪地方裁判所第○刑事部

第三十七章 詐欺及恐喝ノ罪

二九五 強姦殺人、強盜強姦

二七一

二九六 詐欺

判決

本籍 名古屋市南區呼続町五百三十九番戸
住居 大阪市天王寺區逢阪下ノ町二番地

株式ブローカー

太田 作之助

明治六年六月二十二日生

右者ニ對スル詐欺被告事件ニ付昭和十二年四月一日山田區裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役四年ニ處ス

理由

被告人太田作之助ハ原審相被告人河村國太郎、村上新平、小山準之輔ト共謀ノ上俗ニ鹿追ト稱シ「アオリ」「盡大」「忠兵衛」「ウワ」等ト役割ヲ定メ「アオリ」ハ所持金アル客ヲ物色シテ之ヲ誘引シ「盡大」ハ目合相場ナル賭事ヲ愛好スル資産家ナル如ク装ヒ「忠兵衛」ハ自ラ胴ト爲リ「盡大」ヲ張子トシテ先ツ試ミトシテ目合相場ヲ爲シ客ニ對シ目合相場トハ胴ニ於テ張子ニ知レサル様小石數個ヲ擱ミ張子ニ於テ之ニ一又ハ二ト張り若シ張子ニ於テ一ト張レハ胴ハ右擱ミタル

小石中ヨリ先ツ一個ヲ去リ更ニ殘數ヨリ二個宛ヲ去リ最後ニ殘リタル小石カ一個ナラハ張子ノ勝利ト爲リ若シ張子ニ於テ二ト張レハ胴ハ右擱ミタル小石中ヨリ先ツ二個ヲ去リ更ニ殘數ヨリ二個宛ヲ去リ最後ニ殘リタル小石カ二個ナラハ張子ノ勝利ト爲リ一個ナラハ胴ノ勝利トナリ以テ其勝敗ヲ決スル賭博ナレハ胴ニ於テ奇數ノ小石ヲ擱メハ張子ニ於テ一ト張ルモ二ト張ルモ胴ノ必勝ニ歸スル理ヲ會得セシメタル上「アオリ」ト共ニ客ニ對シ右必勝ノ理ヲ知ラサル「盡大」ヨリ所持金ヲ捲上ケンコトヲ勸說シ客ノ之ニ同意スルヤ胴金名下ニ客ヲシテ其所持金ヲ提供セシメ置キ「忠兵衛」「アオリ」ハ客ト聯合シテ「盡大」ト目合相場ヲ爲シ當初ハ「忠兵衛」側即チ客側ニ於テ連勝シ其内「忠兵衛」ハ機ヲ見テ密ニ右小石ニ一個ヲ加ヘ若シクハ一個ヲ減スル方法ニ依リ其ノ數ヲ偶數ニ爲シ置キ恰モ擱ミ損ネ等ニ因リ偶々右結果ヲ招キ「盡大」ノ大勝ニ歸シタルカ如ク装ヒ結局其真相ヲ知ラサル客ヲシテ其旨誤信セシメ其提供シタル胴金ヲ一時ニ失ハシメ「ウワ」ハ此間警察方面ニ對スル警戒及犯罪後ノ客ノ行動ヲ監視スル任ニ當リ斯ノ如キ詐欺賭博ノ方法ニ依リ他人ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ被告人太田作之助ハ「アオリ」河村國太郎ハ「忠兵衛」村上新平ハ「盡大」小山準之輔ハ「ウワ」ト各持役ヲ定メタル上昭和十二年二月十八日「アオリ」ナル被告人太田ハ宇治山田市伊勢神宮内宮境内ニ於テ未知ノ人ナル松本市洋服商矢澤茂美ニ話掛ケ同人ヲ附近ノ宇治神社境内ニ誘ヒ途中「忠兵衛」ナル河村「盡大」ナル村上モ落合ヒ右宇治神社境内ニ於テ村上ハ自分ハ過日松本市ノ某ト目合相場ナル賭博ヲ爲シ三千圓負ケタル故之ヲ回復スル爲メ同人ト横濱市ニ於テ勝負スル約アリテ之ニ赴ク途中ナル旨申偽リタル後用便ニ赴クトテ座ヲ外シタル間ニ河村ハ矢澤ニ對シ前掲ノ如キ目合相場ノ必勝方法ニ付解説シ共同シテ村上ヲ相手トシテ目合相場ヲ爲シ右必勝方法ニ依リ村上ノ所持金ヲ捲上ケンコトヲ偽リ勸メ矢澤カ之ニ應シテ胴金ノ出資ヲ承諾スルヤ河村ハ矢澤及被告人太田ト共同シ

テ村上ヲ相手ニ目合相場ヲ爲スコトヲ約シ一同相携ヘテ同日午後三重縣度會郡二見町太田屋旅館ニ至リ同旅館階下奥座敷ニ於テ河村ハ矢澤ニ胴金トシテ金三百圓ヲ提出セシメ置キ河村カ胴ヲ取り村上カ張子ト爲リ五回勝負ニテ河村カ勝テハ村上ノ賭金ヲ取り村上カ勝テハ河村側即チ矢澤側ニ於テ賭金ノ五倍ヲ村上ニ拂フコト、シテ小石ヲ以テ前記ノ如キ目合相場ノ勝負ヲ初メ當初河村側ニ於テ連勝シタルモ内一回河村ニ於テ殊更ニ前記ノ如キ欺罔方法ニ依リ村上ヲシテ大勝セシメ結局ニ於テ村上ノ勝利ニ歸セシメテ矢澤ノ提供シ置キタル三百圓モ村上ニ取得セシメテ之ヲ騙取シ尙其際被告人太田ハ右賭博ニ負ケ歸國ノ旅費ナキ故旅費ヲ貸與サレ度キ旨矢澤ヲ申欺キ同人ヲシテ即時同所ニ於テ旅費名下ニ金二十圓ヲ自己ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ合計三百二十圓ヲ騙取シタルモノニシテ右ハ繼續ノ犯意ニ出テタルモノナリ

被告人太田作之助ハ昭和六年六月十七日大阪地方裁判所ニ於テ詐欺罪ニ依リ懲役四年ニ處セラレ當時右刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スル被告人太田作之助ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルトコト被告人ハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ則リ累犯加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役四年ニ處スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年五月十五日

安濃津地方裁判所刑事部

二九七 詐 欺

判 決

本籍 新潟市湊町通三ノ町二千六百二十八番地
 住居 同市沼垂山下古川町

金庫商

本多 嘉 瑞 雄

當三十二年

(以下本籍住居省略)

ペンキ職

大 井 賢 司

當四十三年

日 雇

渡 邊 福 松

當三十九年

土 工

渡 邊 徳 治

當四十五年

右ノ者等ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂テ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人嘉瑞雄ヲ懲役壹年ニ同福松ヲ懲役六月ニ處ス

但シ未決勾留日數中三十日ヲ同被告人等ニ對スル右各本刑ニ算入ス

被告人賢司同徳治同五郎ヲ各懲役六月ニ處ス

但シ右被告人賢司、同徳治、同五郎ニ對シテハ何レモ本裁判確定ノ日ヨリ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

理 由

第一、被告人嘉瑞雄ハ本年春ノ新潟競馬ニ行キタル際同福松同賢司及同徳治等ト共ニ鹿追ト稱スル詐欺賭博ノ方法ヲ知得シ爾來之ニ多大ノ興味ヲ覺エ居タルトコロ昭和十五年七月中旬頃同五郎方ニ參リ同被告人ニ對シ前示詐欺賭博ノ方法ヲ傳授シタルカ其ノ後數日經タル同月十七日頃同五郎カ被告人嘉瑞雄方ニ參リ被害者トスルニ適當ナル「好イ鴨」ノ市川タマヲ探シ來リタルヲ以テ茲ニ於テ被告人嘉瑞雄ハ指導者ト爲リテ同賢司同徳治及同五郎ト共謀シ被告人嘉瑞雄ハ「技師」同賢司ハ「旦那」同徳治ハ「番頭」同五郎ハ「連出役」ト各持役ヲ定メ鹿追ト稱スル詐欺賭博ノ方法ニ依リ右タマヨリ金錢ヲ詐取センコトヲ企テ同年七月十八日頃「連出役」五郎カ商用ニ藉口シテ知合ノ右タマヲ誘出スヤ「技師」嘉瑞雄ハ之ヲ路上ニ待受ケテ右五郎及タマニ對シ「昨年春競馬ノ際ニインチキ賭博ニ依リ金ヲ捲上ケ

遣リタル津川在ノ賭博好キノ旦那カ亦來リタルニ依リ今カラ又之ヲ爲スヘキ」旨話掛ケ暗ニ右タマヲ懲懲シ且旦那ハ世事ニ疎ク賭事好キノ資産家ニシテ自己カ詐欺賭博ノ技術ニ長スルコトヲ實見セシムヘク先ツ新潟市沼垂日吉町料理店唐津屋ニ於テ恰モ嘉瑞雄、五郎カ右タマト通謀シ「番頭」徳治ヲ連レタル「旦那」賢司ヨリ詐欺賭博ニ依リ金員ヲ捲上クルカ如ク假裝シタマヲシテ連勝セシメ同人ヲ信用セシメ翌日ハ右詐欺賭博ノ資全五百圓位ヲ持參スヘキコトヲ勸メタル上翌十九日頃再ヒタマヲ同町料理屋梅本ニ誘引シ前示ノ如ク「旦那」賢司ヨリ金員ヲ捲上クルカ如ク裝ヒ基石ヲ利用シ俗ニ「摺ミ丁半」ト稱スル方法ニ依リ始メハタマヲ連勝セシメ同人ヲシテ最後迄必勝ヲ確信セシメタル上最後ノ決戦ニ於テ「旦那」賢司カタマノ目ヲ盜ミテ基石ノ數ヲ増シ因テ「旦那」ノ大勝ニ歸セシメ結局其ノ真相ヲ知ラサル同人カ賭金トシテ提供セル現金五百圓ヲ賢司ノ所得ニ歸セシメ以テ之ヲ騙取シ

第二、被告人福松ハ同嘉瑞雄等カ前示ノ如ク詐欺賭博ノ方法ニ依リ多額ノ金員ヲ捲上ケタルコトヲ耳ニスルヤ自己モ亦之ニ加入セント思惟シ昭和十五年七月下旬頃被告人嘉瑞雄方ヲ訪問シタルトコロ時恰モ同被告人ニ於テモ同五郎ノ知合ナル皆川ハツヲ上述ノ如ク詐取セント企テ居タル折柄ナリシヲ以テ此ノ訪問ヲ奇貨トシテ被告人嘉瑞雄ハ連ニ前同様指導者ト爲リテ同福松、同徳治及同五郎ト共ニ前示鹿追ノ方法ニ依リ同人ヨリ金員ヲ詐取センコトヲ共謀シ被告人嘉瑞雄ハ「技師」同徳治ハ「旦那」同福松ハ「番頭」同五郎ハ「連出役」ト各持役ヲ定メ其ノ翌日頃前示同様ノ手段ニ依リ同五郎カ知合ナル右ハツヲ商用ニ藉口シテ誘出スヤ路上ニ待受ケ居タル「技師」嘉瑞雄ハ右ハツニ對シ眞ニ前同様「旦那」徳治ハ賭博好キノ資産家ニシテ且嘉瑞雄ハ詐欺賭博ノ技術ニ長ケハツノ味方ヲ爲スモノト誤信セシメ更ニ同人ヲ確信セシムルニハハツニ之ヲ實見シ置クニ如カスト考ヘ先ツ同市沼垂町皆川ノ居宅ニ於テ「旦那」ヨリ詐欺

賭博ノ方法ニ依リ多額ノ金員ヲ捲上クルヲ實見セシメ次回ハ右欺詐賭博ノ資金三百圓ヲ持參スヘキコトヲ勸メ其ノ翌八月十一日頃同市沼垂芳原料理屋住の井ニ於テ嘉瑞雄及五郎カ恰モハット通謀シ詐欺賭博ノ方法ニ依リ「番頭」福松ヲ伴ヒタル「旦那」徳治ヨリ大金ヲ捲上クルモノノ如ク假裝シ貨幣ヲ使用シ其ノ表裏ヲ賭クル俗ニ「ナメカタ」ト稱スル方法ニ依リ始メハハツヲ連勝セシメ同人ヲシテ最後迄必勝ヲ確信セシメ最後ノ決戦ニ於テ嘉瑞雄カ壺中ノ貨幣ヲハツニ一見セシメタル後秘ニ貨幣ノ表裏ヲ反轉セシメ因テ旦那徳治ノ大勝ニ歸セシメ結局其ノ真相ヲ知ラサル同人力賭金トシテ提供シタル現金百圓ヲ徳治ノ所得ニ歸セシメ以テ之ヲ騙取シ

第三、被告人嘉瑞雄ハ上掲ノ如ク皆川ハツヨリ金百圓ヲ騙取シタル後右ハット共ニ歸途ニ就キタルカ其ノ途中ハツカ自己ノ過失ニ因リ前示ノ如ク大敗シタルモノト誤信シ居ルニ乘シ返済ノ意思ナキニ拘ラス恰モ之アルカ如ク裝ヒ「才前ノ見過リノ爲自分モ五百圓敗ケ差當リ明日百圓ヲ返サナケレハナラヌ所カアル故ニ百圓貸與セラレ度キ」旨申欺キ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因ツテ同日同市山ノ下日東紡績會社前ニ於テ同人ヨリ貸借名義ノ下ニ現金百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ被告人嘉瑞雄、同徳治、同五郎ノ右各所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク爾餘ノ部分ハ

- 一、被告人嘉瑞雄、同賢司、同徳治、同福松、同五郎ノ當公廷ニ於ケル各判示關係部分ニ付判示同旨ノ供述
- 一、市川タマニ對スル檢事ノ聽取書中同人ノ供述トシテ私ハ昭和十五年七月十八日頃判示ノ如ク阿部五郎ヨリ誘引セラレ本多嘉瑞雄ヨリ之カ懇願ヲ受ケ金儲ニハ何ヨリノ考案ト思ヒ同市沼垂ノ料理店ニ於テ其ノ方法ヲ實見シ益々確信シ其ノ翌十九日頃被

告人五郎、嘉瑞雄ニ誘ハレ新海市沼垂ノ料理屋テ番頭ヲ連レタ旦那ト「擲ミ丁半」ト謂フ賭博ヲ遣リタルカ此ノ旦那トハ前夜モヤリ嘉瑞雄ノ教ヘテ與レタ通りヤレハ必ス勝チ其ノ日モ始メハ私ノ方カ勝チタルトコロ旦那ハ持金全部賭ケロト云ヒシヲ以テ私ハ必ス勝ツト思ヒ之ニ應シ五百圓賭ケシニ其ノ時碁石カ意外ニモ一ツ違ツテ居リシ爲大敗シ旦那ニ私ノ持參シ來リタル五百圓取ラレタルカ其ノ後皆川ハット話合ヒ二人カ敗ケタ方法カ同シナリシ爲始メテ本多嘉瑞雄等ヨリ購サレテ金ヲ取ラレタルコトヲ知リタル旨ノ記載

一、皆川ハツニ對スル檢事ノ聽取書中同人ノ供述トシテ私ハ昭和十五年七月下旬嘉瑞雄等ヨリ金持ノ旦那ヲ「イカサマ」博奕ニヨリ購シテ金ヲ取ル方法ヲ教ヘラレ且私方ニ於ケル其ノ方法ヲモ實見シ次テ同年八月十一日頃百圓持ツテ新海市沼垂住の井料理屋ニテ嘉瑞雄等トグルニナリ壺ニ入レタ貨幣ノ表裏ヲ賭ケ始メハ勝チタルモ最後ニ持金全部ヲ賭ケタルトキ例ノ通り嘉瑞雄カ一寸開ケタ壺ノ下ノ貨幣ヲ私カ見テ表裏ヲ見誤ラサリシツモリナリシトコロ賭ケタノト反對ニナツテ居リシ爲持金全部ヲ取ラレ嘉瑞雄等モ敗ケタリ私ハ自分テ見誤リタルモノト思ヒ同人等ニ濟マナク思ヒ居リシ爲其ノ歸途嘉瑞雄カ判示ノ如ク敗ケテ困ルカラ百圓貸セト云ハルル儘ニ前示紡績會社ノ前テ百圓貸シタルモ右ハ孰レモ全ク欺カレテ金ヲ出シタル旨ノ記載ヲ綜合シテ之ヲ認メ

犯意繼續ノ點ハ被告人嘉瑞雄、同徳治、同五郎カ夫々判示短期間ニ同種行爲ヲ反覆実行シタル事跡ニ徴シテ明カナリ仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリトス

尙被告人嘉瑞雄ハ昭和十一年三月二十六日新海地方裁判所ニ於テ恐喝罪ニ依リ懲役五月ニ被告人福松ハ同年十一月十一日同區裁判所ニ於テ常習賭博罪ニ依リ懲役二月ニ各處セラレ孰レモ其ノ當時右刑ノ執行ヲ終リタルモノニシテ該事實ハ右兩被告人ノ當公廷ニ於ケル各關係部分ニ付其ノ旨ノ供述ニ依リ明白ナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示第一及第二ノ所爲ハ孰レモ刑法第二百四十六條第一項第六十條ニ被告人嘉瑞雄ノ判示第三ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項ニ各該當スルトコロ被告人嘉瑞雄、同徳治、同五郎ノ判示所爲ハ何レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ各連續一罪トシ尙被告人嘉瑞雄、同福松ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項、第五十七條ニ則リ再犯加重ヲ爲シ各其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人嘉瑞雄ヲ懲役壹年ニ同賢司、同福松、同徳治、同五郎ヲ各懲役六月ニ處スヘク但シ被告人嘉瑞雄同福松ニ對シテハ同法第二十一條ニ從ヒ未決勾留日數中三十日ヲ同被告人等ニ對スル右各本刑ニ算入シ、被告人賢司、同徳治、同五郎ニ對シテハ諸般ノ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條刑事訴訟法第三百五十八條第二項ヲ適用シ本裁判確定ノ日ヨリ孰レモ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年十一月十六日
新潟區裁判所

二九八 詐 欺

判 決

本 籍 茨城縣結城郡豐田村大字豐田二千二百八番地
住 居 東京市本所區平川橋五丁目一番地

執 行 處 倉 山 佐 一 郎

當三十四年

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役四月ニ處ス

但三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收物件中五圓紙幣二枚(證第六、七號)ハ之ヲ被害者ニ還付ス

理 由

被告人ハ氏名不詳者ト共謀ノ上昭和十四年六月二十三日日本競馬會主催ノ春季競馬會場タル福島市腰濱福島競馬場ニ於テ觀客ニ對シ勝馬投票券ヲ共同シテ購入シ若シ指定シタル競走馬カ優勝シタル時ハ日本競馬會ヨリ配當スル配當金ヲ得テ之ヲ出金額ニ應シ分配スルモノノ如ク裝ヒ觀客ヨリ該共同購入資金名義ノ下ニ金員ヲ騙取スル所謂「スキツチ」詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ犯意ヲ繼續シテ被告人ニ於テ同日第七競走ニ際シ觀客阿部忠清、伊藤力家ノ二名ニ對シ眞實購入ノ意思ナキニ拘ラス其ノ第二號馬「ハクタツ」ニ對スル勝馬投票券ノ共同購入ヲ勸誘シ同人等ヲシテ其ノ旨誤信セシメタル上該共同購買資金名義ノ下ニ順次各金五圓宛ヲ匯出セシメ以テ彼上「スキツチ」ノ方法ニ依リ之ヲ騙取シタルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處シ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ヲ適用シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク主文掲記ノ五圓紙幣二枚(證第六、七號)ハ之ヲ被害者ニ還付スヘキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ依リ一枚(證第六號)ハ被害者阿部忠清ニ一枚(證第七號)ハ同伊藤力家ニ各之ヲ還付スヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年七月六日

福島區裁判所

二九九 詐 欺

判 決

本籍 福島縣北會津郡川南村大字下米塚二千二百三十番地
住居 栃木縣那須郡野崎村大字薄葉千八百二十九番地
無職 荒 川 勇 三

當三十年

右者ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役一年ニ處ス

理 由

被告人ハ那須郡野崎村役場書記ニシテ兵事主任トシテ軍事扶助法ニ基キ應召者遺家族ニ對スル扶助金交付其ノ他ノ事務取扱ヒ居タルモノナルトコロ昭和十三年八月ヨリ同十五年二月迄ノ間ニ小林輝造外十五名ノ應召歸還者ニ對スル扶助金廢止ノ具申手續ヲ爲スヘキ義務アルニ拘ラス之ヲ爲サス栃木縣會計課員ヲシテ右十六名カ未ク歸還セサルモノト誤信セシメ其ノ頃數回ニ右遺家族ニ對スル扶助金合計二千八百九十六圓三十七錢ヲ野崎村役場ニ送付セシメテ之ヲ騙取シタルモノニシテ右詐欺ノ所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ右詐欺罪所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處スヘキモノトシ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年九月十二日

大田原區裁判所

三〇〇 詐 欺

判 決

本籍 大阪市東區住吉町渡甲ノ百十二番地
三〇〇 詐 欺

住居 同市此花區吉野町三丁目八十七番地

小原長一方

店員

小原國太郎

明治三十六年四月九日生

(以下本籍住居省略)

無職

池田力三郎

明治二十七年八月二十八日生

帽子クリーニング業

吉田房太郎

明治三十二年三月十日生

店員

溝口甲三郎

明治二十一年一月十日生

右ノ者等ニ對スル詐欺被告事件ニ付昭和十五年五月十三日大阪地方裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人等ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルニ依リ當院ハ檢事其關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人吉田房太郎同溝口甲三郎ヲ各懲役貳年ニ

被告人小原國太郎同池田力三郎ヲ各懲役壹年六月ニ處ス

但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人吉田房太郎同溝口甲三郎ニ對シ各百五十日ヲ被告人小原國太郎ニ對シ百

八十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス

訴訟費用(證人高田久太郎ニ支給シタル分)ハ被告人溝口甲三郎ノ負擔トス

理 由

第一、被告人吉田房太郎ハ豫テ大阪市港區九條通一丁目八十七番地ニ於テブラシ製造販賣業ヲ營ミテ失敗シ昭和十一年十一月頃ヨリ同所ニ於テ他人ト共同シテ電話金融業ヲ開業シ次テ同十二年三月頃同市西區梅本町五十七番地ニ店舖ヲ移轉進出シタルモ資金殆ト無ク金員ヲ貸與スルニ當リ債務者ヨリ賣渡擔保ニ取り所有名義ヲ移轉スヘキ契約ヲ爲シタル電話加入權ヲ直ニ他ニ擔保ニ入レ債務者ニ貸付ケタルヨリモ多額ノ金融ヲ受ケ其ノ差金ヲ有利確實ニ活用スルコトニ依リ僅ニ其ノ營業ヲ繼續シ來リタルモ其ノ運用意ノ如クナラス昭和十二年一月頃ニハ右方法ニ依リ既ニ多額ノ債務ヲ負擔スルニ至リタル爲辨濟期日ニ債務者ヨリ元利金ノ支拂ヲ受クルモ自己ノ金融難ノ爲前賣渡擔保ニ取りタル電話加入權ヲ約旨ノ如ク直ニ債務者ノ名義ニ變更シ得サルコト明ナルニ拘ラス別紙第一表記載ノ如ク昭和十二年四月二日ヨリ同年十一月ニ至ル迄ノ間前後十四回ニ互リ右店舗其ノ他ニ於テ里井秀夫外十三名ニ對シ金員ヲ貸與スルニ際シ右事實ヲ秘シ同人等カ辨濟期日ニ其ノ借受元利金ヲ支拂フトキハ直ニ名義變更ヲ爲スヘキ旨約定シ其ノ旨同人等ヲシテ誤信セシメ因テ其ノ都度其ノ場ニ於テ同人等ヨリ大阪中央電信局東分局七九三五番外十九ノ電話加入權(時價合計約二萬三千七百七十五圓相當)ヲ賣渡擔保名義ノ下ニ名義變更手續申請書ヲ添附シテ移轉セシメテ右價格ニ相當スル財産上不法ノ利益ヲ得

第二、被告人溝口甲三郎ハ豫テ雜貨メリヤス類ノブローカーヲ爲シ居リタルコトアリタル者ニシテ昭和十二年五月頃

ヨリ大阪市南區橫堀七丁目二十四番地ニ於テ店舗ヲ構ヘ太平商會名義ニテ雜貨商ヲ開業シタルモノナルトコロ資金僅少ニシテ業務ヲ繼續スルコト能ハサリシ結果賣買ニ藉口シ雜貨類ノ所謂取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年六月十日頃ヨリ同月三十日頃ニ至ル迄ノ間右店舗其ノ他ニ於テ織物業高田治一外四名ニ對シ代金支拂ノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ雜貨類ノ買受申込ヲ爲シ同人等ヲシテ約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ別紙第二表記載ノ如ク同人等ヨリ其ノ頃前後十一回ニ互リ取引名義ノ下ニズボン吊地外羅紗生地等代金合計額一萬四百八十九圓餘相當ノモノヲ右店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シ

第三、被告人吉田房太郎ハ前掲第一記載ノ如ク電話金融業ヲ營ミ居リタルモ其ノ業績振ハサリシヨリ其ノ店舗設備ノ相當ナルヲ奇貨トシ賣買ニ藉口シテ雜貨類ノ所謂取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年八月十日頃ヨリ同年十二月二十三日頃迄ノ間右店舗又ハ京都市下京區新町通佛光寺上ル風呂敷問屋北川惠三方ニ於テ代金完済ノ意思ナキニ拘ラス宛モ之アルモノノ如ク裝ヒ布帛類ノ買受申込ヲ爲シ同人ヲシテ約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ同人ヨリ其ノ頃前後十數回ニ互リ取引名義ノ下ニ紋綸子百二十八反外布帛類等代金合計約金六千二百七十四圓餘相當ノモノヲ前記自己ノ店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シ

第四、被告人溝口甲三郎ハ前記自己ノ營メル雜貨商營業ニ蹉跌シ被告人吉田房太郎ノ招請ニ應シテ同人ノ雜貨商ノ手傳ヲ爲スニ至リタルカ兩名ハ共謀ノ上前同様雜貨類ノ取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年十月十五日頃ヨリ同年十二月四日頃迄ノ間ニ京都市上京區六軒町通今出川南へ入ル南佐竹町二百十一番地木村正雄方及被告人吉田房太郎ノ前記店舗等ニ於テ右木村正雄外二名ニ對シ代金完済ノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒ布帛類ノ買受申

込ヲ爲シ同人等ヲシテ被告人吉田房太郎ニ於テ約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ別紙第三表ノ(一)乃至(三)記載ノ如ク同人等ヨリ其ノ頃前後數回ニ互リ取引名義ノ下ニカーテン地其ノ他布帛類代金合計約金千八百三十八圓餘相當ノモノヲ被告人吉田房太郎ノ前記店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シ

第五、被告人小原國太郎ハ昭和十二年十一月頃被告人溝口甲三郎ノ紹介ニ依リ被告人吉田房太郎方店員トシテ雇ハレ主トシテ雜貨類ノ仕入方面ヲ擔當シ居リタルモノナルトコロ被告人吉田房太郎及同小原國太郎ノ兩名ハ共謀ノ上前同様雜貨類ノ取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年十二月三日頃ヨリ同月七日頃迄ノ間被告人吉田房太郎ノ前記店舗ニ於テ合名會社宮村商店大阪營業所及株式會社龜井商店大阪出張所ノ各係員ニ對シ代金完済ノ意思ナキニ拘ラス宛モ之アルカ如ク裝ヒ毛絲類等ノ買受ノ申込ヲ爲シ同係員ヲシテ被告人吉田房太郎ニ於テ必ス約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ別紙第三表ノ(四)及(五)記載ノ如ク其ノ頃二回ニ互リ取引名義ノ下ニ右兩商店ヨリスコッチ毛絲等代金合計約金千八百八十圓餘相當ノモノヲ被告人吉田房太郎ノ前記店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シ

第六、被告人吉田房太郎同溝口甲三郎及同小原國太郎ノ三名ハ共謀ノ上前同様商品ノ取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年十一月二十四日頃ヨリ同年十二月十四日頃迄ノ間被告人吉田房太郎ノ前記店舗其ノ他ニ於テ株式會社山本仁商店外五商店ノ各店員等ニ對シ代金完済ノ意思ナキニ拘ラス宛モ之アルモノノ如ク裝ヒ商品ノ買受申込ヲ爲シ同店員等ヲシテ被告人吉田房太郎ニ於テ必ス約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ別紙第三表(六)乃至(十一)記載ノ如ク其ノ頃前後六回ニ互リ同商店等ヨリ取引名義ノ下ニウズラ大巾百疋等代金合計約金九千

九十五圓餘相當ノモノヲ被告人吉田房太郎ノ前記店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シ

二八八

第七、被告人池田力三郎ハ昭和十二年始頃ヨリ大阪市南區鹽町通四丁目十七番地ニ於テ雜貨織物商ノ傍ラ商品擔保ノ金融業ヲ營ミ居リタルトコロ被告人溝口甲三郎ノ紹介ニ依リ被告人小原國太郎ト相識ルニ至リタルカ被告人小原國太郎カ昭和十二年十二月大阪市東區博勞町一丁目ニ於テ大三商店名義ニテ織物雜貨商ヲ開業スルニ當リ資金竝ニ信用乏シカリシヨリ被告人池田力三郎ノ援助ヲ求メタル結果同被告人ニ於テ被告人小原國太郎カ銀行取引ヲ開始スルニ要スル資金ヲ貸與シ以テ前記大三商店ニ對シ信用ヲ得シムルト共ニ被告人小原國太郎ニ於テ右信用ヲ利用シ他ノ商店ニ買注文ヲ爲シ送附セシメタル商品ヲ被告人池田力三郎方ニ持參シ廉價ニ賣却又ハ擔保ニ供スルコトトシ以テ互ニ利得セムコトヲ謀リ茲ニ被告人兩名共謀ノ上同月二十三日頃被告人小原國太郎名義ヲ以テ被告人池田力三郎ノ出金ニ係ル金二千圓ヲ安田銀行船場支店ニ預入レ當座取引ノ口座ヲ開設シ其ノ小切手帖ト之ニ使用スル被告人小原國太郎ノ印形ハ被告人池田力三郎ノ手許ニ保管シ置キタル上右銀行取引アルヲ利用シ賣買ニ藉口シテ商品類ノ取込詐欺ヲ爲サンコトヲ企テ昭和十二年十二月二十九日頃ヨリ同十三年一月十三日頃迄ノ間被告人小原國太郎ノ前記店舗其ノ他ニ於テ株式會社平松商店外四商店ノ各店員等ニ對シ代金ノ完済ノ意思ナキニ拘ラス宛モ之アルモノノ如ク裝ヒ布帛類等ノ買受申込ヲ爲シ同店員等ヲシテ被告人小原國太郎ニ於テ必ス約旨ニ從ヒ代金ノ支拂ヲ爲シ呉ルモノト誤信セシメ因テ別表第四記載ノ如ク其ノ頃八回ニ互リ同商店等ヨリ金巾等代金合計約金七千七百八十二圓餘相當ノモノヲ被告人小原國太郎ノ前記店舗ニ送附セシメテ之ヲ騙取シタルモノニシテ右各被告人ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

證據ヲ案スルニ犯意繼續ノ點ヲ除ク爾餘ノ判示事實ハ

第一ノ事實ニ付

一、被告人吉田房太郎ノ當公廷ニ於ケル犯意竝ニ不法利得額ノ點ヲ除キ判示同趣旨ノ供述

一、同被告人ニ對スル豫審第四回訊問調書中同人ノ供述トシテ犯意ノ點ニ付判示同趣旨ノ記載

一、鑑定人辻野禎三ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ大阪中央電信局東分局七九三番外十九ノ電話加入權ノ時價ニ付判示同趣旨ノ鑑定記載

一、證人里井秀夫ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ判示同人ノ被害ニ照應スル被害額末ノ記載

第二ノ事實ニ付

一、被告人溝口甲三郎ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

一、證人高田久太郎及同辻井義雄ニ對スル豫審各訊問調書中同人等ノ供述トシテ高田久太郎ニ付テハ判示高田治一ニ關スル被害、辻井義雄ニ付テハ判示同人ノ被害ニ夫々照應スル被害額末ノ記載

(第三以下證據説明略)

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中被告人吉田房太郎ノ判示第一ノ所爲ハ各刑法第二百四十六條第二項第一項ニ同判示第三ノ所爲ハ各同條第一項ニ同判示第四乃至第六ノ所爲ハ各同法第六十條第二百四十六條第一項ニ被告人溝口甲三郎ノ判示第二ノ所爲ハ各同法第二百四十六條第一項ニ同判示第四及第六ノ所爲ハ各同法第六十條第二百四十六條第一項ニ被告人小原國太郎ノ判示第五乃至第七ノ所爲竝ニ被告人池田力三郎ノ判示第七ノ所爲ハ各同法第六十條第二百四十六條第一項ニ該當スルトコロ被告人等ノ判示所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定

刑罰範圍内ニ於テ被告人等ヲ夫々主文ノ刑ニ處スヘク同法第二十一條ニ則リ被告人吉田房太郎同溝口甲三郎及同小原國太郎ニ對シ夫々主文掲記ノ如ク原審ニ於ケル未決勾留日數中ノ一部ヲ本刑ニ算入スヘク訴訟費用(證人高田久太郎ニ支給シタル分)ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人溝口甲三郎ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

本件被告人吉田房太郎ノ控訴ハ理由アルモ其ノ餘ノ被告人等ノ控訴ハ理由ナシ
昭和十五年十月二十五日

大阪控訴院第〇刑事部

第一表

價務者	貸付日時	擔保ニ供シタル電話番号	電話ノ所有者
(一) 里井秀夫	昭和十二年四月二日	東 七九三五	里井秀夫
(二) 鈴木三郎	同	北濱 六二〇六	鈴木三郎
(三) 中川竹松	昭和十二年四月十六日	天王寺 二四八八	中川竹松
(四) 麻野市太郎	昭和十二年五月八日	西 三三九〇	麻野市太郎
(五) 吉田鹿一	昭和十二年五月二十九日	船場 二二三	吉田靜子
(六) 同	同	同 三二二八	同
(七) 同	同	北 三八二三	合資會社阪急ホテル

第二表

以上

(八) 同	同	同	三二四	同
(九) 同	同	同	六九二五	同
(十) 同	同	同	六九二六	同
(十一) 同	同	天王寺	六九二七	同
(十二) 柏原榮造	昭和十二年六月十日	堀川	七五四	柏原榮造
(十三) 藤田喜一郎	昭和十二年七月二十二日	北	三二四八	藤田喜一郎
(十四) 大盛琴美	昭和十二年八月二十日	櫻川	一三六六	大盛琴美
(十五) 井出良太郎	昭和十二年八月二十八日	同	七一六〇	井出良太郎
(十六) 砂子佐一郎	昭和十二年八月 日不詳	同	七〇八五	砂子佐一郎
(十七) 新谷武雄	昭和十二年九月三日	同	七二五九	新谷武雄
(十八) 田中半次郎	昭和十二年九月十五日	東	二八一六	田中半次郎
(十九) 木村土之助	昭和十二年九月十六日	同	一一四〇	木村土之助
(二十) 清水實治	昭和十二年十一月 日不詳	同	五〇五一	清水實治

被害者	商品名及數量	代金額	商品受取日
(一) 高田治一	ズボン吊地 一萬五百ヤール	四九五〇〇	昭和十二年六月十日頃

(二)	同	同	味ノ美製造株式会社	味ノ美	七千ヤール	三三〇、〇〇	昭和十二年六月十七日頃
(三)	同	同	味ノ美	味ノ美	四十八貫	八五二、〇〇	昭和十二年六月十日頃
(四)	同	同	關西羅紗株式会社	羅紗洋服地	九反	一七四〇、〇〇	同
(五)	同	同	同	同	二反	二六〇、〇〇	昭和十二年六月十二日頃
(六)	同	同	同	同	十二反	一八四五、〇〇	昭和十二年六月十七日頃
(七)	同	同	同	同	一反	一三一、二五	昭和十二年六月二十一日頃
(八)	同	同	同	同	十三反	一五八一、五六	昭和十二年六月二十二日頃
(九)	辻井 義雄	同	蚊張生地	蚊張生地	百五十反	一五七五、〇〇	昭和十二年六月二十六日頃
(十)	辻井 義雄	同	同	同	四百反	一〇五〇、〇〇	昭和十二年六月二十八日頃
(十一)	磯野 繁三郎	同	霞織人絹	霞織人絹	七十五本	六三〇、〇〇	昭和十二年六月三十日頃

第三表

以上

(一)	木村 正雄	カーテン地及雙人紡三色格子六十ヤール	五三六、二〇	昭和十二年十月十五日頃ヨリ同年同月二十五日頃
(二)	田中 政太郎	麻糸五十包入	一〇二五、〇〇	昭和十二年十一月十三日頃
(三)	今井 松次郎	カーテン地	二七六、九二	昭和十二年十一月二十四日頃及同年十二月四日頃

(四)	合名會社宮村商店	スコッチ毛糸	八十ポンド	二二四、〇〇	昭和十二年十二月三日頃
(五)	株式會社龜井商店	カネリン	七十五反	九五六、二五	昭和十二年十二月七日頃
(六)	株式會社山本仁商店	ウズラ大巾	百疋	六五〇、〇〇	昭和十二年十一月二十四日頃
(七)	福田 正三郎	軍手	六百打	九三八、〇〇	昭和十二年十一月二十八日頃
(八)	竹内 常三郎	別珍	十八反	一九八、三〇	昭和十二年十二月四日頃
(九)	合名會社金水堂	白金ダイヤ入指環	五本	五五三〇、〇〇	昭和十二年十二月十三日頃
(十)	株式會社中島弘商店	スフサージ	十四反	九五一、〇九	昭和十二年十二月九日頃
(十一)	辻吉三郎	ステールアルサージ	三十反	八二八、〇〇	昭和十二年十二月十四日頃

第四表

以上

(一)	株式會社平松商店	金巾	百三十反	一二九三、五〇	昭和十二年十二月二十九日頃及同年同月三十日頃
(二)	株式會社小林政治商店	毛布	五十枚	四七〇、〇〇	昭和十二年十二月三十日頃
(三)	株式會社廣瀬久商店	金巾	五百九十反	三六三四、〇〇	昭和十三年一月六七及八日頃
(四)	合名會社藤井善商店	セル地	十二反	一六〇四、九二	昭和十三年一月十一日頃
(五)	合名會社伊藤新商店	富士絹	三十疋	七八〇、〇〇	昭和十三年一月十三日頃

以上

三〇一 詐欺

判決

本籍 香川縣丸龜市福島町四十九番地
住居 不定

關澤茂事

無職

倉本茂

當五十年

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニ付昭和十五年二月二十八日東京刑事地方裁判所ノ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役二年六月ニ處ス

原審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理由

被告人ハ郷里丸龜市ニ於テ高等小學校ノ業ヲ卒ヘタル後、一時吳服商ノ丁稚トナリ、或ハ父親ノ許ニ於テ鍼力職ノ手

傳ヲ爲シタルコトアリタルモ、二十歳ノ頃ヨリ同市淨通寺住職秦精逸其ノ他數名ノ僧侶ニ師事シ、數年間眞宗學ヲ學ヒテ、大正六年頃上京シ、間モナク當時東洋大學ニ通學シ居リタル辛島きみ子ト同棲シテ之ト情ヲ通シ、同女ノ經濟的援助ニヨリ約一年間右大學ノ特別聽講生トナリテ佛教及ヒ哲學ヲ學ヒタルモ、其ノ後右きみ子ト別レ、同女ノ紹介ニヨリ知合トナリタル千代田生命保險相互會社事務員阿部サナオト内縁ノ夫婦關係ヲ結ビ、次イテ大正十一年頃當時日本女子大學々生タリシ三重野知々子ト相識ルニ及ンテ、之トモ情ヲ通シ、更ニ同女ノ紹介ニヨリ同シク當時右大學々生タリシ須田智嘉ト相識ルヤ、亦之トモ情ヲ通シタルカ、此ノ兩女カ何レモ資産家ノ子女ニシテ佛教ニ興味ヲ有シ其ノ研究ニ没頭セントスル意圖アルヲ知り、自ラ佛教殊ニ眞宗學ニ關シテハ當代隨一ノ學者ナルカ如ク吹聴シ、世事ニ疎キ同女等ヲシテ其ノ旨信用セシメ、遂ニ、佛教ノ研究竝ニ人格ノ修養ヲ目的トシテ大正十四年頃右須田智嘉ノ實家等ヨリノ出捐ニ依リ、東京市杉並區阿佐ヶ谷二丁目六百三十九番地ニ難思寮ナルモノヲ建設セシメテ、右兩女ノ外、其ノ紹介ニ依リ被告人ヲ偉大ナル宗教學者ナリト信シテ教ヘヲ求メ來レル日本女子大學卒業生關澤童子外同大學々生及ヒ千代田女子專門學校卒業生石關タケ等多數資産家ノ子女ヲ入寮セシメ、自ラ其ノ指導者且後援者ヲ以テ任シ、同女等ト起居ヲ共ニシ、口ニ佛教ノ研究、人格ノ修養ヲ説キ乍ラ、何等ノ根據ナク全ク佛教ノ教理ニ乖離シタル邪說ヲ捏造シテ、眞ノ宗教生活ハ禁慾生活ニアラス本能ヲ解放シ之ヲ淨化シテ解脱ノ境地ニ達スルニ在リト唱へ、巧ニ自己ノ好色極マリナキ性格ヲ擬裝シテ右寮生等ノ殆ント全部ト情交關係ヲ結ヒ居リタルニ拘ラス、極力此ノ事實ノ隱秘ニ力メ寮生及ヒ其ノ父兄ヲシテ人格高潔ナル佛教學者ナルモノノ如ク誤信セシメテ深く自己ヲ畏敬セシメ、寮生等ヲシテ生活費其ノ他ニ付キテモ經濟的援助ヲ爲サシメ居リタルカ、昭和六年五月頃ニ至リ右寮生等トノ情交關係ノ發覺ヲ惧

レタル等ノ事情ヨリ同寮ヲ退去シ、次イテ昭和八年十二月頃、前示寮生關澤童子ト入夫婚姻ヲ爲シテ鎌倉市ナル關澤家ノ別荘ニ隱棲シタルモ、尙引續キ寮生等トノ情交關係ヲ繼續シ、更ニ其ノ後昭和十年八月頃、寮生石關タケノ父ニシテ被告人ヲ眞ニ人格高潔ナル佛教學者ナリト妄信シ居リタル石關郡藏其ノ他寮生ノ父兄ヨリ夫々多額ノ出捐ヲ受ケテ、東京市世田谷區烏山町四百九十二番地ニ被告人ノ住居トシテ空華莊ヲ建設シ、妻童子ト共ニ之ニ引移リタルカ、固ヨリ定職トテハナク生計不安ナリシトコロヨリ、間モナク又之ヲ寮組織ニ改メ、空華莊ハ佛敎ノ眞隨ヲ體得セシメ日本女性ノ覺醒の指導者ヲ養成スルモノナリト稱シテ同年十一月頃ヨリ前示石關タケ及ヒ其ノ妹等並ニタケノ友人ニシテ資産家櫻井計一郎長女よしゑ及ヒ其ノ妹等外多數資産家ノ子女ヲ入寮セシメテ其ノ家計ヲ維持スルト共ニ、其ノ裏面ニ於テ此レ等多數ノ寮生ト情交關係ヲ結ヒテ淫逸限リナキ生活ヲ續ケ居リタルトコロ、右石關郡藏及ヒ櫻井計一郎カ其ノ子女ノ指導教育ヲ自己ニ託シ、自己ヲ前記ノ如ク人格高潔ナル善智識ノ如ク誤信シ居レルヲ奇貨トシ、更ニ右兩名等ニ對シ直接又ハ其ノ子女ヲ通シテ、空華莊ハ實踐的佛敎生活ニ基キ人格ノ修養ヲ目的トスルモノニシテ將來ハ之ヲ擴張シテ女子佛敎大學ヲ設立シ石關タケヲ其ノ初代總長ニ推シ其ノ寮生ヲ其ノ幹部ニ採用スヘク、又、遠照學林ナル名稱ノ下ニ女子家庭學校ヲ創立スヘシ等申詐リ右兩名等ヲシテ被告人カ眞實其ノ子女ノ佛敎ヲ育並ニ人格修養ノ指導ニ專念シツ、アル高潔ナル人格者ナリトノ誤信ヲ益々深カラシメ、右父兄ニ於テ若シ自己カ其ノ寮生タル子女ト情交關係アル事實ヲ知リタランニハ毫モ出捐セサルヘキコトヲ知リ乍ラ

第一、石關郡藏ニ對シテハ、其ノ妻ヨネ及ヒ娘タケヲ通シ、昭和十一年十二月以降昭和十三年八月迄ノ間ニ、十數回ニ空華莊佛壇設置費、同後援會費、同赤字補填費、同門堤修繕費、インバ夏冬ニ着分代金、丸龜旅行費等ノ名義ノ

下ニ合計金二千五百三十圓ヲ

第二、櫻井計一郎ニ對シテハ、其ノ妻アサ及ヒ娘よしゑヲ通シ、昭和十一年四月以降昭和十三年八月迄ノ間ニ、十數回ニ、空華莊佛壇設置費、同後援會費、同赤字補填費、同鐵門建設費、同庭石買入費、妻童子入院費等ノ名義ノ下ニ、合計金三千五百四十圓ヲ

夫々提供セラレ度キ旨申向ケテ、何レモ右兩名ヲシテ右誤信ニ基キ其ノ頃東京市內其ノ他ニ於テ右各金員ヲ交付セシメテ以テ之ヲ騙取シタルモノニシテ、以上ノ所爲ハ繼續ノ意思ニ出テタルモノトス

證據ヲ按スルニ、判示事實中被告人ノ所爲カ繼續ノ意思ニ出テタルモノナリトノ點ヲ除キ、其ノ餘ノ事實ハ

- 一、被告人ノ當公廷ニ於ケル、自分ハ本籍地ニテ高等小學校ヲ卒業シタル後、十七歳ノ秋迄吳服商(丁稚奉公)ニ行キ、其ノ後二十歳ノ秋迄親許ニテ鍼力職ノ手傳ヲ爲シ、夫レヨリ丸龜市淨通寺住職兼精逸ノ許ニ弟子入シ、更ニ宇多津町西光寺住職進藤專念ノ許ニ代ハリ、二十二歳迄居リテ中津市ニ行キ昭雲寺住職松崎善海ニ師事シテ二十五歳迄眞宗學ヲ研究シ、其ノ後大正六年ニ上京シタルカ或日散歩ノ折、以前九州ニテ會ヒタルコトノアル辛島きみ子ト邂逅シ、之ト同棲シテ情ヲ通スルヤウニナリタルカ、當時きみ子ハ東洋大學ニ通ヒ居リタル爲、自分モ亦同女ノ世話ニテ同大學ノ特別聽講生トナリタリ、自分カ同大學ニ通ヒタル期間ハ實際ハ一年餘リニスキサリシカきみ子ノ補助ヲ得テ大體生活シ居リタリ。其ノ後、自分ハきみ子ト別レタルカ、ソレハきみ子カ處女ニアラサリシコトヲ知リタル爲ナリ、きみ子ト別レタル後ハ、きみ子ノ紹介ニヨリテ知合ヒタル千代田生命保險會社ノ事務員阿部サナオト内職ノ夫婦トナリ、サナオノ收入ト自分カ佛敎ノ研究ニ來ル人々ヨリ御禮トシテ貰ヒタル金トニテ生活ヲ爲シ居リタリ、サナオヲ入籍セシメサリシハ、同女カ長女ナリシ爲、自分ニ養子ニ來テ吳レト申シタルヨリ、自

分ハ夫レヲ厭ヒテ、籍ハ其ノ儘ニ爲シ置キタルナリトノ旨ノ供述

一、被告人ニ對スル第三回豫審訊問調書中同人ノ供述(中略)

一、被告人ニ對スル第四回豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ、自分ハ三重野ト關係カ出來タル後、同女ニ對シ眞ノ宗教生活ハ禁慾生活ニアラス本能ヲ開放シテ之ヲ淨化シテ解脱ノ境地ニ達スルニアル旨ヲ申シ、又、難思寮カ出來タル後、寮生ト情交關係ヲ結フ際、本能解放ニ就キテ一應説明シ、又、其ノ後モ寮生ニ對シ、禁慾主義的宗教ハ中世的ノモノニシテ、本能ヲ開放スル宗教ハ現代的ノモノナリト説キ、キリスト教ノプロテスタントノ自由主義トカトリックノ禁慾主義トヲ對照シ、又、聖道門ト淨土門トノ關係ヲ對比シテ屢々其ノ話ヲスルヤウニナリタリトノ旨ノ記載

一、原審第二回公判調書中被告人ノ供述トシテ、難思寮ハ大正十四年五月、六月頃計畫シ、同年十二月二十六日ニ杉並區阿佐ヶ谷二丁目六百三十九番地ニ完成シタルカ、ソノ建築費用ノ中八千五百圓ハ埼玉縣ノ實業家ナル須田ノ兩親ヨリ、残り五百圓ハ關澤章子ヨリ出シテ呉レタリ、寮生ハ十四、五名ヨリ多イトキハ二十名位居リ、初メハ三重野、須田及ヒ三重野ノ姪菊枝ノミナリシカ、其ノ後日本女子大學卒業ノ關澤章子其ノ他同大學々生、及ヒ千代田女子專門學校卒業生石關タケ其ノ他カ次々ニ入寮シ三重野菊枝外三名ヲ除キタル他ノ寮生トハ皆情交關係ヲ結ヒタリ。自分ハ時々寮生ノ父兄ニ對シ難思寮ハ佛教ノ研究並人格ノ修養ヲ目的トスル道場ト日本女性ノ指導的人物ヲ作ルノタト申シ右様趣旨ノ規則書ヲ作り父兄ニ送リタリ、昭和六年五月、六月頃關澤章子ノ兄ニ自分ト章子トノ秘密ヲ知ラレ又新聞記者カ參リ囁カサレタリシタル爲一時難思寮ヲ出テ他ニ別居シタルモ習ヒ性トナリ依然寮生トノ關係ヲ續ケ居リタリ、昭和八年四月頃ヨリ鎌倉ノ關澤家ノ別荘ニ引越シ須田、三重野ノ推薦ニヨリ同年十二月三日入夫婚姻シ昭和十年四月迄同所ニ居リ其ノ間石關タケ等カ自分ノ處ニ通ヒ同女等ト引續キ關係ヲ續ケタリ、空華莊ニ移轉スルコトニナリタル當時寮生林淑子ノ父カ家カ大キイカラ經濟的援助ハ責任ヲ以テスルカラ安心セヨト申シ居リタ

ルモ同年十月半過ニナルモ何ノ話モナカリシニヨリ先ツ以テ自分ノ生活ヲトウシヤウト言フコトヲ考ヘネハナラヌコトニナリ此處ニ第二ノ難思寮ノ様ナモノヲ始メ様ト考ヘ其ノ頃別ニ寮ヲ經營シ居リタル石關タケヲ自分方ニ同居サセル運ヒニナシタリ、空華莊ハ自分夫婦ノ住居トシ世田谷區區島山町四百九十二番地ニ建テテ呉レタルモノニテ其ノ建設費ハ石關タケノ父郡藏カ七千圓、林淑子ノ父陸一カ三千圓、關澤章子ノ父茂吉郎カ二千八百圓、須田智嘉ノ父實郎カ二千圓ヲ出シテ呉レ土地モ家屋モ妻章子ノ名義ニナシタリ、同人等ハ自分ヲ佛教ニ就テハ當代ノ勝レタル學者テ智徳兼備ノ立派ナ人格者ト思ツテ援助シ自分カ美名ノ下ニ同人等ノ子女ト關係シ居ルコトヲ知ラスニ金ヲ出シタルモノニテ右様ノ關係ヲ知レハ金ナトハ出ササリシモノト思フ。空華莊ハ昭和十年八月末落成シ自分夫婦ハ同月三十日引越シ石關タケ及同女ノ妹石關トミ、漆原千代子、櫻井美佐子等カ同年十一月三日引越シテ參リ昭和十一年四月ヨリ石關トミノ妹ケイ、櫻井美佐子ノ妹親子カ入寮シ尙林尙士同よし及ノ夫妻其ノ他カ入り來リ林淑子ハ初メカラ通寮シ居リタリ、空華莊ニ於テハ難思寮ト同様佛教ノ本ヲ讀マセタリ哲學ノ講義ヲ爲シ居リタルカ自分カ空華莊ハ實踐的佛教生活ニ基キ人格ノ修養ヲ目的トシ將來ハ發展サセ女子ノ佛教大學ヲ建テ初代總長ニ石關タケヲ推シ其ノ他ノ寮生ヲ其ノ幹部ニスルト申シタルコトハ相違ナク又林ノ父カラ花籠學校ノ様ナモノヲ作ツタラトウカト言ハレシ爲遠照學林ヲ作ルト申シ規則書ヲ二、三百枚作り林ニ見セタルカ元々左様ナ學校ヲ作ル氣ハナカリキ、自分ハ空華莊ニ於テモ石關タケノ外ニ入寮セル大部分ノ寮生ト情交關係ヲ結ヒ居リタルカ寮生ニハ勿論其ノ父兄ニ對シテモ自分ハ寮生ヲシテ佛教ノ眞髓ヲ體得セシメ日本女性ノ覺醒的指導者ヲ養成スルモノナル旨吹聴シ居リタリ、空華莊ノ經濟ハ寮生ヨリ一ヶ月三十五圓乃至四十圓位ノ食費ト十圓宛ノ月謝ヲトリ月五百圓位ニナリタルモ自分ニハ浪費癖カアリ毎月備品ヤ植木等ヲ買ヒ不足ヲ生シ赤字補填ノ名義ニテ寮生ノ父兄ヨリ毎月不足分百圓乃至三百圓ヲ出シ貢ヒタルカ石關郡藏カラハ判示第一記載ノ如ク昭和十一年十二月ヨリ昭和十三年八月迄ノ間十餘回ニ亘リ判示名目ノ下ニ合計二千五百三十圓ヲ櫻井計一郎カラハ判示第二記載ノ如ク昭

和十一年四月ヨリ昭和十三年八月迄ノ間十餘回ニ亙リ判示名目ノ下ニ合計三千五百四十圓ヲ出金シテ貰ヒタリ、養生ノ父兄カ空室莊ニ其ノ子女ヲ預ケタルハ自分ヲ自分カ裝フ如ク佛教研究ニ於テハ勝レタ學者テアリ且佛教教育並人権修養ノ指導ニ専念シ居ルモノト思ヒタル爲ニテ若シ自分ニ前述ノ様ナ不品行アルコトカ判レハ父兄ハ子女ヲ預ケナカッタテアラウシ又斯様ニ出金セルノモ自分カ表面裝ヒタル如キ眞面目ナ佛教研究家ト信シ自分ヲ補助シ後援スル爲ニテ斯様ナ汚イ内面ヲ知レハ出金ナトセサリシモノト思フ、此ノ點ニ於テ養費ノ外ハ自分カ聖者ノ假面ヲ被リ父兄ヲ騙シテ金ヲ取ツタト申サレテモ一言ノ辯解モナシ自分ハ女ニ對シ眞ノ宗教生活ハ禁慾生活ニ非スシテ本能ヲ開放シ之ヲ淨化シテ解脱ノ境地ニ達スルニアリト申シタルモ皆出鱈目ニテ斯様ナコトハ何ノ根據モナク唯性的知識ナク世間知ラスノ女ヲ自分ヲ尊敬シ居ルノヲ利用シ騙シテ關係シタル次第ニテ自分ハ女ノ人格ト言フモノハ認め居ラサリシ旨ノ記載

(以下證據中略)

法律ニ照スニ、被告人判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ、所定期刑範圍内ニ於テ、被告人ヲ懲役二年六月ニ處スベク、同法第二十一條ヲ適用シ原審ニ於ケル未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スヘク、訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年八月十二日

東京控訴院第〇刑事部

三〇二 詐 欺

判 決

本 籍 埼玉縣南埼玉郡稻間村柴山枝郷字丸谷七十三番地
住 居 仙臺市國分町四十六番地
福 島 與 吉
鮪 商

明治三十五年四月二十四日生

主 文

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ
被告人ヲ懲役一年ニ處ス
但シ未決勾留日數中百八拾日ヲ右本刑ニ算入ス
訴訟費用中證人八甫谷忠助及篠田作三ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ昭和十一年頃仙臺市内ニ於テ行ハレ居リタル頼母子講ニ若干加入シタルカ其ノ後講及議員ハ次第ニ其ノ數ヲ増シ昭和十三年ニ入ルヤ急激ニ増加ノ勢ヲ示シ被告人モ亦多數ノ講ニ加入シ同年六月頃ヨリ殆ト家業ヲ顧ミスシテ之ニ没頭スルニ至リタルカ右頼母子講ハ執レモ講元ニ於テ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ議員ヨリ最初ノ掛金ノ全部又

ハ一部ノ供與ヲ受ケテ講ノ事務一切ヲ處理スルモノニシテ毎月一回乃至數回例會ヲ開キ講員ヲシテ一定額ノ掛金ヲ爲サシメ其ノ都度入札ノ方法ニテ最低入札者ヨリ順次落札者ヲ定メ之ニ落札ニヨル給付金ヲ交付シ同時ニ殘額ヲ爾餘ノ講員ニ割戻シ爾後落札者ハ滿會ニ至ル迄所定ノ掛金ヲ爲スヘキ義務アルモノナルトコロ被告人ハ多數ノ講ニ加入シタル結果遂ニ昭和十三年末ニハ一ヶ月ノ掛金合計約二萬圓ニ及ヒ割戻金ヲ控除スルモ現金約一萬四千圓ヲ要スルニ至リ被告人ノ當時ノ資産状態ニテハ更ニ他ノ講ニ加入シテ落札スルニ非レハ掛金ヲ爲スコト能ハス而モ斯クノ如キ方法ニテ一時ヲ糊塗スルモ難ク破綻ヲ免レ難キ窮境ニ立到リタルニ拘ラス昭和十四年一月三日以降同年五月四日迄ノ間別表記載ニ係ル前同様ノ頼母子講陸月會外四十三種ニ合計七百三十六口加入シ同年一月三日ヨリ同七月十七日迄ノ間百數十回ニ亘リ右講元タル柿澤正義外三十名ニ對シ落札後ハ滿會ニ至ル迄掛金ヲ繼續スヘキ資力ナク且其ノ意思ナキニ拘ラス之アルモノノ如ク裝ヒテ同講元等ヲ欺罔シ別表記載ノ如ク所定給付金ノ約二分ノ一前後ノ低額ニテ合計五百五十口ヲ落札シ其ノ都度同市内ニ於テ同講元等ヨリ給付金名義ノ下ニ同人等カ講員ヨリ取立テ保管シ居リタル金額合計四萬三千七百三圓三十二錢ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シタルモノニシテ以上ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

右事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク爾餘ノ事實ハ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ昭和十三年十二月頃ニハ加入講ヘノ掛金約二萬圓割戻金ヲ差引クモ現金約一萬四千圓ヲ要シタルカ自分ハ他ノ講ニ加入シ低額ニテ落札シ之ヲ掛金ニ充ツル考ニテ當時ハ目前ノ掛金ニ一生懸命ナリシ故斯ル方法ニテハ難テ行詰ルヘキコトニ考ヘ及ハス從テ昭和十四年一月以降加入ノ分ニ付テモ落札後掛金ヲ繼續スヘキ意思アリタルモノニシテ落札金ヲ騙取シタルモノニ非ル旨辯疏スル外判示同趣旨ノ供述

一、被告人ニ對スル豫審第十回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ澤山ノ頼母子講ニ加入シタル爲昭和十三年十二月ニハ一ヶ月二萬圓位ノ掛金カ必要テアリ其ノ上自分テ頼母子講ヲ發起シ講元ト爲リ居リタル故不掛金ノ立替分カ入用ニテ益々金ニ困リ昭和十四年一月以降ニ於テハ落札金ヲ目當トシテ頼母子講ニ加入シ一時モ早ク金ノ欲シサヨリ講金ノ二分ノ一乃至三分ノ一ノ低額ニテ落札シタリ自分ニハ少シモ資産信用トテナク銀行其ノ他ヨリ金融ヲ受クル見込ナカリシノミナラス又資産アル親族者モナク其ノ方ヨリ金ヲ調達スルコトモ出來ヌ故何ウシテモ頼母子講ニ加入シ落札金ヲ得テ其ノ金ヲ掛金スル外ナカリキソコテ滿會迄掛金出來ルカ何ウカナト云フコトヲ考ヘモセス出來ル丈頼母子講ニ加入シ落札許リ爲シ居リタリ昭和十三年十二月末迄ニ可成リ落札シ掛金ヲ増ス一方ナリシ故昭和十四年一月一日以降ノ加入講ニ付テハ滿會迄掛込ムコト不可能ナリキ斯ク滿會迄掛込ムコト到底不可能ナリシ故自分ハ滿會迄掛込ム見込カナク加入シタルコトニナルナリ落札スル迄ハ勿論落札後モ幾分か掛金シタルモ其ハ落札金ヲ得ル爲落札迄掛金シタノテアリ又落札後直ニ掛金セサルトキハ如何ニモ落札金ヲ得ルコトノミヲ目當トシタヤヤウニ思ハルル爲ナリ正直ナトコロ昭和十四年一月一日以降ニ於テハ滿會迄掛續ケル風ヲ裝ヒテ加入シ落札シ來リタル譯ナリ然シ自分加入ノ講元ハ大多數自分發起ニ係ル講ノ講員ナリシ故互ニ掛金ノ差引計算ヲツケレハ何トカ掛込ムコトカ出來ナイコトモナカラウト思ハナイテモナカリキ其ノ考ハ漠然トシタモノニテ正確ニ掛金ヲ計算シテ滿會迄差引計算ヲツケルコトカ出來ルトカ先方カ差引計算ヲスル意思カアルカ何ウカ確メタ上ノコトニ非サリシ故不確實ナ考ニ過キス自分ハ自ラ講元ヲ致シ居リタル故講元ノ心持ヲ知り居ルモ講元ハ講員カ滿會迄間違ナク掛金スルト思フカラコソ加入ヲ承諾スルモノニシテ若シ滿會迄掛ケサルモノナレハ加入ヲ承諾スル管ナク落札金ヲ渡スコトナシ自分カ加入シタル講元ハ勿論自分カ滿會迄掛込ムモノト信シテ自分ノ加入ヲ承諾シ落札ノ際落札金ヲ渡シテ呉レタルニ相違ナシ各講元カ滿會迄掛込ミ得サル自分ノ事情ヲ知ルトキハ自分ノ加入ヲ承諾セサルモノト思フ尙自分ハ判示各講ニ加入シ判示落札金ヲ得タルニ相違ナキ旨ノ記載

(以下證據略)

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役壹年ニ處シ但シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中百八拾日ヲ右本刑ニ算入シ訴訟費用中證人八甫谷忠助及篠田作三ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年十二月十六日

仙臺地方裁判所刑事部

昭和十四年中ニ於ケル頼母子購加入表

購元	購名	加入月日	加入口數	一口ノ掛金	給付金ノ口數	落札月日	落札口數	落札金額
柿澤正義	陸月會	一、三一	一〇	一五〇〇〇	四五〇	三、二五	五	九〇五・六〇
高成生	高生會	一、一二	三	一二・五〇	三〇〇	四、二七	三	四四九・九七
同	竹	一、二七	三〇	六〇〇	一一〇	四、二七	三〇	一、九六二・〇〇
同	利	三、一八	一〇	六〇〇	一一〇	四、一八	三	二二八・七八
同	松	四、三〇	一〇	六〇〇	一一〇	四、三〇	一	六〇〇・〇〇
宮城マサ	兔	一、一〇	一〇	一二・五〇	五〇〇	五、二〇	一	一三九・〇〇
坂藤彌之助	竹	三、一三	一〇	一〇〇〇〇	三〇〇	三、二七	五	五〇〇・〇〇

青木清次	イ	三、七	一〇	一〇〇〇〇	二四〇	四、三七	一〇	一、〇七〇・一五
星練實	今一號	五、一	一〇	五〇〇〇	一一〇	五、一一	五	三〇五・〇〇
上總芳造	松	一、二六	三	一〇〇〇〇	三〇〇	四、二六	三	四〇二・七八
渡藤一	櫻	二、六	一〇	一〇〇〇〇	二〇〇	五、六	二	一四三・六二
井口貞壽	壽	四、一	六	二五〇〇	五〇〇	五、一一	二	四五〇・〇〇
同	別二號	五、四	二〇	五〇〇〇	一〇〇	五、四	二	一一〇・〇〇
高橋幸治	娘會一號	二、四	一〇	六〇〇〇	一一〇	五、四	五	二八八・〇〇
同	十號	二、一六	一〇	一〇〇〇〇	三〇〇	四、二六	五	七二七・二九
那須豐治	コ	一、二四	二〇	六〇〇〇	一一〇	三、二四	二〇	一、三九四・〇〇
犬飼勤治	親和會	三、一四	一〇	一〇〇〇〇	三〇〇	五、一四	六ノ内	二〇〇・〇〇
岩淵つふ	捷	一、一五	一〇	一〇〇〇〇	四〇〇	三、一五	一〇	二、一一一・四一
佐藤喜三郎	特二號	一、二〇	一〇	一〇〇〇〇	二〇〇	二、一六	一〇	一、〇六五・〇〇
同	特三號	一、二〇	一〇	七〇〇〇	一四〇	三、一六	一〇	八四〇・〇〇
井上啓次	愛仙號	二、一一	一〇	二五〇〇	五〇〇	五、三、一六	四	一、一八〇・二〇
長谷山あさの	二壽號	一、一一	三〇	五〇〇〇	一〇〇	五、三、一六	二八	一、一五二・〇〇
同	秋	三、九	五〇	四〇〇〇	一〇〇	七、四、一七五	五〇	三、三三〇・〇〇
齋藤嘉輝	二號	一、二五	一〇	六〇〇〇	一一〇	五、三、三三三	九	六〇六・六四

同	宋	同	佐々木	藤田	皆川	同	加藤	山崎	泉田	高橋	同	關本	富士田	同	早山	浅野
人	在	人	はる	澤次	勇助	人	鋼二	はる	よい子	新吉	人	運七	照代	人	孝作	てい
小野	新	梅	新	サ	皆	二	一	十	特	一	新	新	鶴	ス	三	五
號	年	號	年	ク	川	號	號	號	別	號	二	一	龜	ビ	百	號
二、一五	一、三	三、五	一、六	一、二五	三、二七	四、三	四、三	一、一七	一、二一	一、二〇	一、一六	一、一六	三、二七	四、五	二、二八	一、一九
二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	三〇	一〇	一〇	一〇	二〇	二〇	五〇	二〇	二〇	五〇	三〇	一〇
八〇〇	一〇〇〇	六〇〇	二〇〇〇	五〇〇	七五〇	六〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	六〇〇	一〇〇〇	三〇〇	八〇〇	一二五〇	五〇〇	七五〇	一三〇〇
二四〇	二八〇	二二〇	五〇〇	一〇〇	三〇〇	二二〇	三〇〇	三〇〇	二二〇	二〇〇	七二	一九二	五〇〇	一〇〇	三〇〇	三九〇
至自	至自			至自						至自	至自		至自	至自	至自	
五四、二二	二、一三	五、一七	三、二六	五四、八八	六四、三九	五五、九三	四、一九	四、二七	五四、二二	四二、一八	四、一七	五、二七	五三、二七	五四、二四	四二、一九	五五、二六
一七	一〇	五	四	一三	三	一〇	五	二	一三	二〇	五〇	二〇	一〇	五〇	七	七
一、六六〇〇	一、二五八〇	三五〇〇	一、一八二五一	六八九三一	三一・四〇	四九八・七〇	六四二・〇〇	二五五・七八	六七五・九六	一、八四一・〇〇	一、五二一・〇〇	一、六〇二・九六	二、二一六・二四	四、四二六・〇〇	五六五・〇〇	一、三〇七・八八

三〇三 詐欺

判決

同	半澤	澁谷	計
人	トク	たか	
新生	松	五	
號	號	號	
三、七	一、一八	一、三〇	七三六
二〇	二四	一〇	
七〇〇	七五〇	八〇〇	
二二〇	一五〇	二四〇	
至自	至自	至自	
五四、一七七	五二、一九七	五三、一七七	
六	一四	一〇	五〇五
五一三・〇〇	一、〇八八・一六	一、〇八七・九八	四三、七〇三・三二

本籍 栃木市萬町三百六十五番地
 住居 同市本町千四百十二番地

無職

宮本 伍市

當五十二年

本籍 岩手縣稗貫郡八重畑村大字關口十九地割七番地ノ二
 住居 栃木縣下都賀郡藤岡町大字藤岡千三百八十四番地

無職

佐藤 十三吉

當三十六年

本籍 住居 栃木縣下都賀郡國府村大字惣社五十九番地

三〇三 詐欺

農業

三〇八、
柏崎竹三

當五十四年

本籍並住居 同縣同郡同村大字國府七百二十二番地

農業

石川定治郎

當四十三年

右ノ者等ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人宮本伍市ヲ懲役一年六月、被告人佐藤十三吉ヲ懲役一年、被告人柏崎竹三ヲ懲役八月、被告人石川定治郎ヲ懲役六月ニ處ス

但被告人宮本伍市、佐藤十三吉、柏崎竹三ニ對シテハ何レモ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人石川定治郎ニ對シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中證人平岩眞一郎、關根源七、田中好次、北村譽造、小山文平、中澤あきニ支給シタル分ハ被告人等四名、證人熊倉常雄、野崎眞三郎、木村喜八ニ支給シタル分ハ被告人宮本、佐藤、柏崎等三名、證人土淵ハギノ、淺野進、石崎楚治ニ支給シタル分ハ被告人宮本、佐藤兩名ノ連帶負擔トス

理 由

被告人宮本伍市ハ千代田生命保險相互會社ノ外交員、被告人佐藤十三吉ハ東武鐵道株式會社野州大塚驛助役ニシテ傍

ラ生命保險加入者ノ紹介、勸誘等ヲ爲シ被告人宮本ト懇意ノ間柄、被告人柏崎竹三、石川定治郎ハ何レモ同驛附近居住者ニシテ被告人佐藤ノ仲介ニ依リ被告人宮本ト夫々交際スルニ至リタルモノナルトコロ

第一、被告人宮本、佐藤、柏崎ノ三名ハ共謀シテ東京市京橋區京橋二丁目二番地ノ一千代田生命保險相互會社ヲ欺罔シ保險金ヲ騙取セントコトヲ企テ被告人柏崎ノ長女柏崎チヨ(當時十九年)カ結核性肋膜炎ニ罹リ生命保險ノ被保險者タル資格ナキモノナルコトヲ知りナカラ昭和十年九月下旬被告人宮本ニ於テ同會社囑託醫平岩眞一郎ニ懇請シ同醫師ヲシテ診査ヲ爲サスシテ右チヨカ健康體ナル旨ノ診査報狀ヲ同會社ニ送付セシメ同係員ヲシテチヨヲ健康體ナリト誤信セシメタル上被告人宮本ニ於テ之カ保險契約ノ申込手續ヲ爲シ昭和十年十月二十二日同人ヲ被保險者トシ五十歲滿期保險金三千圓保險契約者柏崎竹三保險金受取人相續人ト定メタル生命保險契約ヲ締結セシメ同十二年四月一日チヨカ同症及腸結核合併症ニ因リ死亡スルヤ被告人柏崎ニ於テ同月十二日栃木市倭町同會社代理店ヲ經由シ同會社ニ對シ右保險金支拂請求ノ手續ヲ爲シ同會社係員ヲシテチヨカ該契約後發病死亡スルニ至リシモノト誤信セシメ因テ同月二十四日同代理店ニ於テ同店主關根源七ヲ介シ同會社ヨリ保險金額三千圓中延滞保險料ヲ控除シタル金二千九百四十七圓二十五錢ヲ被告人宮本ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二、(イ) 被告人宮本、佐藤、石川ノ三名ハ共謀シテ同會社ヨリ前同様保險金ヲ騙取セントコトヲ企テ岩田朝次郎(當時五十年)カ腎臟病及心臟病ヲ患ヒ重態ニテ生命保險ノ被保險者タル資格ナキモノナルトコロヲ知りナカラ被告人柏崎カ右朝次郎ト同年輩ナルヲ奇貨トシ昭和十年十二月中旬同被告人ヲ其ノ替玉トシテ前記平岩醫師ノ診査ヲ受ケシメ同醫師ヲシテ岩田朝次郎カ健康體ナル旨ノ診査報狀ヲ同會社ニ送付セシメ以テ同會社係員ヲシテ右朝

次郎ヲ健康體ナリト誤信セシメタル上被告人宮本ニ於テ之カ保險契約ノ申込手續ヲ爲シ同十年十二月三十一日同人ヲ被保險者トシ七十五歲滿期保險金三千圓保險契約者同人保險金受取人岩田タカト定メタル生命保險契約ヲ締結セシメ且同十一年一月二十日朝次郎カ同症ニ因リ死亡スルヤ醫師出井市郎ノ作成ニ係ル朝次郎カ腦溢血症ニ因リ急死セル旨ノ虚偽ノ死亡診斷書ニ依リ同年二月十五日頃被告人石川ニ於テ前記代理店ヲ經由シテ同會社ニ對シ右保險金支拂請求手續ヲ爲シ同會社係員ヲシテ朝次郎カ該契約後突然發病死シタルモノト誤信セシメ因テ同年三月三十一日同代理店ニ於テ前記關根ヲ介シ同會社ヨリ保險金三千圓ヲ被告人宮本ト同伴セル岩田タカニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(ロ) 被告人柏崎ハ被告人宮本、佐藤等カ共謀ノ上前記ノ如キ方法ニヨリ同會社ヲ欺罔シ保險契約ヲ締結セシメ同會社ヨリ保險金ヲ騙取スルモノナル情ヲ知りナカラ昭和十年十二月中旬栃木市ニ於テ被告人佐藤、宮本兩名ノ依頼ニ基キ前記朝次郎ノ替玉トシテ前記平岩醫師ノ診査ヲ受ケ因テ右被告人等ノ保險金騙取ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ

第三、被告人宮本、佐藤ノ兩名ハ共謀シテ同會社ヨリ前同様保險金ヲ騙取セントコトヲ企テ土淵春一(當時三十六年)カ結核性肋膜炎患者ニシテ生命保險ノ被保險者タル資格ナキコトヲ知りナカラ昭和十一年三月下旬被告人佐藤ニ於テ右春一ノ替玉トシテ同會社囑託醫石崎楚治ノ診査ヲ受ケ同醫師ヲシテ春一カ健康體ナル旨ノ診査報狀ヲ同會社ニ送付セシメ同會社係員ヲシテ春一ヲ健康體ナリト誤信セシメタル上被告人宮本ニ於テ之カ保險契約ノ申込手續ヲ爲シ同十一年四月三日同人ヲ被保險者トシ七十五歲滿期保險金二千圓保險契約者同人保險金受取人土淵ハギノト定メタ

ル生命保險契約ヲ締結セシメ同十二年二月十三日保險金額ヲ金千圓ニ減額變更シ且同十三年二月十六日春一ガ化膿性肋膜炎ニ因リ死亡スルヤ前記出井醫師作成ニ係ル春一カ肺炎心臟麻痺症ニ因リ死亡セル旨ノ虚偽ノ死亡診斷書ニ依リ同年三月六日頃被告人宮本ニ於テ前記代理店ヲ經由シ同會社ニ對シ右保險金支拂請求手續ヲ爲シ同會社係員ヲシテ該契約後發病急死ヲ遂ケタルモノト誤信セシメ因テ同月十四日同代理店ニ於テ前記關根ヲ介シ同會社ヨリ保險金千圓ヲ被告人宮本ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ被告人宮本、佐藤、柏崎ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

(證據略)

法律ニ照スニ被告人宮本、佐藤ノ判示第一、第二(イ)、第三ノ所爲、被告人柏崎ノ判示第一ノ所爲並ニ被告人石川ノ判示第二(イ)ノ所爲ハ何レモ刑法第二百四十六條第一項第六十條ニ被告人柏崎ノ判示第二(ロ)ノ所爲ハ同法第六十二條第一項第二四十六條第一項第六十三條第六十八條第三號ニ該當シ被告人宮本、佐藤、柏崎ノ判示所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ヲ適用シ夫々連續ニ罪トシ被告人柏崎ニ對シテハ同法第十條ニ依リ重キ判示第一ノ所爲ニ付定メタル刑ニ從ヒ被告人四名ニ對シ其ノ刑期範圍内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷シ被告人宮本、佐藤、柏崎ニ對シテハ各同法第二十一條ヲ適用シ未決勾留日數中夫々六十日ヲ本刑ニ算入シ被告人石川ニ對シテハ情狀ニヨリ同法第二十五條ヲ適用シ三年間刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ夫々主文掲記ノ如ク被告人等ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十四年二月二十八日

宇都宮地方裁判所栃木支部

三二二

三〇四 詐 欺

判 決

本籍 沖繩縣中頭郡與那城村字上原八十一番地

住居 不定

無職

宮 城 信 助

大正二年八月二十九日生

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニツキ檢察某ノ立會テ審理ヲ遂ケ左ノ如ク判決スル

主 文

被告人ヲ懲役一年六月ニ處スル

理 由

被告人ハ昭和十三年六月二十四日那覇區裁判所テ詐欺罪ニヨリ懲役一年六月ノ判決ヲ受ケ、昭和十四年十二月二十四日ソノ執行ヲ終リ作業賞與金約九圓ヲ得テ沖繩刑務所ヲ出所シタカ、賞與金ヲ藥代ソノ他ニ消費シテシマツテ郷里ニ歸ルコトカテキナクナツタノテ、時恰モ國ヲ舉テテ聖戰ニ力メテイル最中テ戰傷病兵士ニ對スル國民ノ感謝ヤ同情ノ厚

キコトヲ想起シ、ソノ同情ヲ得ル趣旨テ、昭和十四年十二月二十五日頃カラ昭和十五年一月九日頃マテノ間前後八回ニ亘ツテ、島尻郡大里村字與那原ノ當間ツル、當間元保、中頭郡西原村字小波津ノ小波津禧、小波津ウト、同郡美里村字比屋根ノ上江洲安仁及ヒ富川宗盛方ヲ訪レテ、

「自分ハ中支戰線テ足部ニ敵彈ヲ受ケ負傷シタ」トカ或ハ「中支戰線テマラリヤニ罹ツタタメニ歸郷ヲ命セラレタ」ト偽リヲ申向ケテ、夫々同人等ヲ欺キ傷病兵士ニ對スル同情ヲ利用シテ同人等方ニ宿泊シ或ハ同人等カラ飲食ノ費ヲ受ケテ代價合計約四圓ニ相當スル財産上不法ノ利益ヲ得タホカ、前記富川宗盛カラ現金一圓ヲ騙取シタモノテアル右ノ犯行ハ何レモカ繼續的意思ノ下ニ爲サレタモノテアル

尙前記被害者ノウチ、當間ツルハ戰死者ノ遺族テ、小波津ウトハ夫ヲ戰線ニ送ツテイルモノテアル

以上ノ事實ハ本件犯行カ繼續的意思ノ下ニ行ハレタ點ヲ除イテソノ他ノ事實ハ被告人カ當公判廷テコレト同一ノ供述ヲスルノミナラス、當間ツルホカ五名ニ對スル司法警察官又ハ檢察ノ聽取書中ニ同人等ノ供述トシテ「戰傷病兵テアルト云フコトヲ本當ニシテ御馳走シタノテ本當テナケレハ同情ヲシナカッタ」旨ノ記載或ハ「中支戰線テ戰傷シマラリヤニ罹ツタ歸還兵テアルト申シマスノテ氣ノ毒ニナツテ御飯ヲ出シタ」旨ノ記載カアルハテ證明サレルカ、繼續的意思ノ下ニ行ハレタ點ハ被告人カ短イ期間ノウチニ同種ノ行爲ヲ反覆シタ事實ニ徴シテコレヲ認メルコトカテキル

法律ニヨルト被告人ノ本件犯行ハ刑法第二百四十六條第五十五條ニ該當スルカ、被告人ニハ前記ノヤウナ前科カアルノテ同法第五十六條第五十七條ヲ適用シテ累犯ノ加重ヲナシソノ刑期(懲役一月以上二十年以下)範圍内テ處斷スヘキトコロ、本件犯行カ出所ノ翌日早クモ爲サレタ點、被害者ノウチニハ今次ノ聖戰ニ從ツテ東亞ノ危機ニ身ヲ挺シ、勇

躍奮日夜ノ勞苦ニ堪ヘ臣子ノ本分ヲ盡シテ哀レ悲シクモ護國ノ鬼ト化シク者ノ遺族ヤ或ハ現ニ遠ク異郷ニ奮戰スル者ノ家族カアツテ等シク國民カコレ等ニ對シ應分ノ誠ヲ捧クヘキモノナルニ拘ラス却ツテ夫等ヲ欺罔シ又被告人ノ本件犯行ニヨリ眞ノ戰傷病兵ニ對スル迷惑トヲ彼是考ヘ合セルトソノ被害額ハ寡額テアルカ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スルノヲ相當ト認メテ主文ノ通り判決ヲ爲ス次第テアル

昭和十五年二月六日

那覇區裁判所

三〇五 詐 欺

判 決

本籍 朝鮮慶尙南道金海郡二北面匙山里四百七十番地ノ四
住居 大阪市天王寺區大道三丁目三十四番地

服部兼事

機械販賣商

董 瑞 坤

明治三十一年三月十日生

右ノ者ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ判示第一ノ罪ニ付懲役六月ニ判示第二ノ罪ニ付懲役壹年ニ處ス
未決勾留日數中參百日ヲ右第二ノ罪ノ本刑ニ算入ス
訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ紙袋問屋ヲ本業トスルモノナリト稱シ自己ト取引ヲ希望スル紙袋製造家ヲ募集スルモノノ如ク裝ヒ應募者ヲ欺罔シテ紙袋製造機械ヲ販賣シ其ノ賣買代金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和七年三月頃大阪市西區本田通一丁目十三番地ニ店舗ヲ設ケ商號ヲ千代田商事本店ト稱シ紙袋製造機械ノ販賣業ヲ創メ次テ昭和九年三月頃合名會社千代田商事本店ヲ設立シ右營業ヲ承繼シ更ニ同年十月頃名古屋市中區東田町四丁目十九番地ニ支店ヲ設置シ被告人ニ於テ其ノ無限責任社員トナリ業務一般ヲ統轄處理シ居タルモノナル 處右店舗開設以來大阪朝日新聞ヲ始メ全國各地ノ主要新聞紙上ニ千代田商事本店或ハ合名會社千代田商事本店又ハ同名古屋支店名義ヲ以テ弊店カ獎勵スル紙袋製造ハ本業又副業トシテ最モ適シ小額ノ資本ヲ以テ四季ノ區別ナク婦女子小供ニモ容易ニ爲シ得ヘク且紙袋ノ需要ハ益々大ナレハ數量ノ制限ナク現金ニテ取引ヲ爲スヘキニヨリ簡單確實有利ナル事業ニシテ弊店ノ優秀ナル紙袋製造機械ヲ購入シ專屬製造家トシテ永久的取引ノ希望者ニハ案内書ヲ呈スヘキ旨ノ廣告ヲ爲シ眞實被告人ノ販賣ニ係ル手動式並ニ足踏式紙袋製造機械ハ孰レモ之カ操作ニ相當熟練スルコトヲ要シ熟練者ト雖モ一日手動式機械ニ依リ約二千枚足踏式機械ニ依リ約三千枚ノ紙袋ヲ製造シ得ルニ過キス從テ製造者ノ紙袋製造ニ因リ取得スヘキ工賃ハ千枚ニ付三十錢ト假定シテモ一日ノ收益ハ手動式機械ニ依リ六十錢足踏式機械ニ依リ九十錢ヲ得ルニ止マリ又被告人ノ販賣ニ係ル機械

ノ購入者ヲ專屬製造家トシ繼續シテ製袋用ノ原料紙ヲ供給シ永久ニ製品ヲ買取り誠實ニ賣買取引ヲ爲スヘキ意思ナキニ拘ラス

第一、昭和九年一月頃ヨリ同年六月頃迄ノ間ニ前示廣告ニ誘引セラレテ前記店舗ニ對シ書面ニ依リ照會ヲ爲シ又ハ面接ノ上説明ヲ求メ來タリタル別紙第一表掲記ノ京都府久世郡宇治町大字宇治郷東内二十四番地生澤甚三郎外二十五名ニ對シ被告人ノ販賣ニ係ル紙袋製造機械ハ最モ進歩シタル精巧且堅牢ナルモノニシテ其ノ操作簡單ナレハ婦女子小供ト雖モ容易ニ其ノ製造方法ヲ習得シ一日手動式機械ニ依ルモ八千枚足踏式機械ニ依レハ一万五六千枚ヲ製造シ得ヘク而シテ紙袋ハ千枚ニ付十五錢乃至四十五錢平均三十錢ノ割合ニ依ル工賃ヲ支拂ヒ其ノ製品ヲ引取ルヘク弊店ハ紙袋問屋ナルカ故ニ製造ノ取引ヲ主眼トスルモノナルヲ以テ機械ノ購入者ヲ專屬製造家トシテ優遇シ繼續シテ製袋用原料紙ヲ供給シ其ノ製品ヘ前記所定ノ工賃ニテ永久ニ買受ケ誠實ニ紙袋ノ賣買取引ヲ爲スヘキ旨虛偽ノ事實ヲ記載シタル案内書ヲ送付シ或ハ手交シテ説明シ因テ右生澤甚三郎等ヲシテ右機械ヲ購入シ紙袋ノ製造ニ從事セハ相當多額ノ收益ヲ永續シテ確實ニ擧ケ得ルモノノ如ク誤信セシメ其ノ頃前記店舗等ニ於テ同人等ヨリ紙袋製造機械ノ賣買代金名義ノ下ニ別紙第一表掲記ノ如ク合計金二千五百六圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二、同年八月頃ヨリ昭和十一年十二月頃迄ノ間ニ前示廣告ニ誘引セラレテ前記店舗ニ對シ書面ニ依リ又ハ面接ノ上説明ヲ求メ來タリタル別紙第二表掲記ノ廣島市水主町五百四十二番地古谷仙吉外五百五十一名ニ對シ前同様虛偽ノ事實ヲ記載シタル案内書ヲ送付シ或ハ手交シテ説明シ因テ右古谷仙吉外五百五十一名ヲシテ前同様誤信セシメ其ノ頃前記店舗等ニ於テ同人等ヨリ紙袋製造機械ノ賣買代金名義ノ下ニ別紙第二表掲記ノ如ク合計金五万八千八百七十

三圓五十錢ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ右第一ノ各所爲及第二ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

證據ヲ按スルニ判示事實中各犯意繼續ノ點ヲ除キ其ノ餘ハ

- 一、被告人ノ當公廷ニ於ケル自分ハ紙袋問屋ニアラサリシカ之レヲ本業トスルモノナリト稱シ昭和七年三月頃大阪市西區本田通一丁目十三番地ニ於テ千代田商事本店ナル店舗ヲ設ケ紙袋製造機械ノ販賣業ヲ創メタリ而シテ昭和九年三月頃同所ニ自分個人ノ右營業ヲ會社組織トシテ經營センカ爲ニ右機械ノ販賣等ヲ營業目的トスル合名會社千代田商事本店ヲ創立シ次テ同年十月頃名古屋市中區東田町四丁目十九番地ニ同社名古屋支店ヲ設置シテ引續キ右機械ノ販賣ヲ爲シ居タル自分ハ會社設立以來無限責任社員トナリ業務執行ノ任ニ當リ總テヲ指揮シ自分ノ意ノ儘ニ營業ヲ爲シ居タリ從テ右會社ノ營業ハ自分個人ノ營業ト何等異ルトコロナカリシ旨及自分カ判示機械ノ販賣業ヲ營ミテヨリ引續キ判示名義ヲ以テ判示新聞紙上ニ判示題旨ノ廣告ヲ爲シタルトコロ右廣告ニ依リ判示店舗ニ對シ書面ニヨリ照會ヲ爲シ又ハ面接ノ上説明ヲ求メ來タリタル判示第一ノ生澤甚三郎外二十五名並ニ判示第二ノ古谷仙吉外五百五十一名ニ對シ判示ノ如キ題旨ヲ記載シタル案内書ヲ送付シ又ハ手交シテ説明ヲ爲シタル旨及判示第一ノ生澤甚三郎外二十五名並ニ判示第二ノ古谷仙吉外五百五十一名ヲシテ判示機械ヲ購入セシメ各判示日時場所ニ於テ賣買代金名義ノ下ニ右生澤甚三郎外二十五名ヨリ合計金二千五百六圓右古谷仙吉外五百五十一名ヨリ合計金五万八千八百七十三圓五十錢ヲ受取リタル旨ノ供述

一、被告人ニ對スル第二回遺審訊問書中同人ノ供述トシテ自分ノ販賣ニ係ル製袋機械ハ其ノ宣傳シタルトコロト著シク異リ結局顧客ヲ欺シテ右機械ヲ賣付ケタル事ニナリ不都合ナリシ事ハ充分承知シ居タル旨ノ記載

一、被告人ニ對スル第三回遺審訊問書中同人ノ供述トシテ自分ノ販賣ニ係ル機械ノ製造能力ハ案内書其ノ他ノ廣告ト異リ熟練

シタル者カ一日十時間操作シテモ足踏式ニ依リ三千枚位手動式ニ依リ二千枚位ノ製品ヲ仕上ケ得ルニ過キサリキ自分カ昭和十二年三月頃警察署ニ於テ其ノ命ニ依リ足踏式ヲ使用シテ其ノ性能ヲ實驗シタルニ千枚ヲ製品トシテ仕上ケルノニ五時間五十三分ヲ要シタリ案内書ニ一日八千枚又ハ一万五、六千枚貼リ得ルモノノ如ク記載シタルハ實驗シテ見タ譯テハナク根據ナキモノニシテ實際一日ノ製品ノ出來上リ數ハ其ノ四分ノ一或ハ五分ノ一ニモ達セサル程度ノモノナリ

次ニ製袋ノ工賃ハ案内書ノ記載ト異リ實際ニハ十五錢位ノモノヲ多ク貼ラセ四十五錢位ノモノハ殆ント貼ラシタルコトナク從テ平均三十錢ニナリタルコトナシ尙千枚ニ付六錢或ハ十錢位ノ三角貼リ袋ヲ貼ラセタルコトアリ元來自分ノ店舖ニ於テ機械ヲ購入シタル者ヨリ買取ル製品ハ副業的ニ未熟者カ粗雑ナ機械ヲ製作シタル袋ナレハ専門製袋業者カ動力機械ニ依リ製作シタル袋ニ比較シテ其ノ形態カ不揃テアリ又糊付ケニ厚薄カアリテ低級品カ多ク從テ専門業者ノ製品ノ價格ヨリ二割乃至四割引ニテ賣却セネハナラヌ有様ナリシヲ以テ製袋ノ取引ニ於テハ殆ント損失ヲ蒙リ居タルカ故ニ製品ノ取引ヲ爲ス意思ナク又工賃ヲ眞面目ニ支拂フ積リハナカリシナリ尙顧客ハ案内書記載ノ製造能力ヤ工賃收益ヲ信シテ機械ヲ購入シタルモノノ如ク實際ニ使用シテ其ノ欺サレタルコトニ氣付キ機械ノ買戻ヲ請求シ來タリタル者多カリシ旨ノ記載

一、被告人ニ對スル第四回豫審訊問書中同人ノ供述トシテ自分ハ案内書ニ弊店ハ紙袋問屋ナレハ紙袋ノ取扱ニ依ル收益ヲ主眼トスルモノニシテ弊店ノ機械ヲ購入シタル者ヲ其ノ分工場ト爲シ製品ハ弊店ニ於テ之ヲ纏メテ販賣スルモノナルカ故ニ製品ノ取引ハ永久ニ繼續シ工賃收益ハ確實ニ擧ケ得ル旨記載シタルモ之ハ全ク偽リナリ自分ハ機械ヲ販賣シテ儲ケレハヨイノテ其ノ後製品ノ取引ヲ永久ニ繼續スル意思ナク唯機械ヲ賣付ケンカ爲ノ手段トシテ右ノ様ナ記載ヲ爲シ顧客ヲ欺シタル旨ノ記載

一、證人中崎惣太郎ニ對スル豫審訊問書中同人ノ供述トシテ新聞紙上ニ有利ナル紙袋製造機械ノ千代田商事本店ノ廣告カアリタルヨリカタログヲ取寄セタルニ機械ノ購入者ニハ紙袋ノ原紙ヲ供給シ製品ハ永久ニ買取リ繼續シテ取引ヲ爲シ機械ハ最初カ

テニテモ一日八千枚以上貼リ得ル性能ヲ有シ工賃ハ千枚ニ付最低十五錢ナレハ一日二圓程度ノ收益カアリ其ノ操作ハ婦女子ニテモ容易ニ爲シ得ル旨ノ記載アリ又同様ノ説明ヲ聞キタルヲ以テ自分ハ製品ヲ誠實ニ買取リ取引ヲ繼續シテ呉レルモノト信シ昭和十年十二月二十八日手動式紙袋製造機械一臺ヲ代金七十圓ニテ買入レタリ然ルニ機械ノ性能ハ一日精々二三百枚位貼リ得ル程度ノモノナルノミナラス製品ノ取引ニ付テモ製品ニ難癖ヲ付ケテ取引ヲ拒絶スル態度ニ出テタリ自分ハ三回取引ヲ爲シタルノミナル旨ノ記載

一、證人田畑登子ニ對スル豫審訊問書中同人ノ供述トシテ大阪朝日新聞紙上ニ手内職ニ有利ナル紙袋製造機械ノ千代田商事本店ノ廣告カアリタルヨリカタログヲ取寄セタルニ其ノ機械ハ一日七、八千枚ノ製袋性能カアリ工賃ハ千枚ニ付十五錢以上ナル旨ノ記載アリ又同様ノ説明ヲ聞キタルヲ以テ自分ハ一日二圓ノ收益ハナク假令一圓ニテモ好キ内職ナリト思ヒ昭和十一年六月頃千代田商事本店ヨリ足踏式紙袋製造機械一臺ヲ代金百二十圓ニテ買受ケタリ然ルトコロカタログノ記載ヤ説明トハ著シク異リ袋ヲ貼リテ製品ニ仕上ケル迄ニハ一日二、三百枚位シカ出來スニケ月程カカリテ原紙五連分ノ袋ヲ貼リ之レヲ千代田商事本店ニ納メテ工賃六圓程ヲ受取リタルカ其ノ後ハ採算カ取レサリシヨリ紙袋製造ヲ爲ササリシ旨ノ記載

ヲ綜合シテ之ヲ認メ

各犯意繼續ノ點ハ被告人カ判示並期間内ニ夫々同種行爲ヲ反覆果行シタル事跡ニ徴シ明白ナリ

仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

尙被告人ハ昭和九年七月九日大阪區裁判所ニ於テ贈賄罪ニ依リ罰金百圓ニ處セラレ該裁判ハ同月二十日確定シタルモノニシテ右事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ右ハ前示前科ニ係ル

犯罪トハ同法第四十五條後段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第五十條ニ則リ未タ裁判ヲ經サル右詐欺罪ニ付其ノ所定期期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ判示第二ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役壹年ニ處シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中參百日ヲ右本刑ニ算入スヘク尙刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ訴訟費用ハ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年二月十四日

大阪地方裁判所第一刑事部

第一表

年月日	被害者	被害額	年月日	被害者	被害額
昭和九、一	生澤基三郎	一一〇、〇〇圓	昭和九、五、二	山本龜吉	一一五、〇〇圓

(以下二十四名省略)

總計

被害者 二十六名
被害額 二千五百六圓

第二表

年月日	被害者	被害額	年月日	被害者	被害額
昭和九、八、二九	古谷仙吉	一二五、〇〇圓	昭和九、一、二〇	黃一鶴	一一〇、〇〇圓

(以下五百五十名省略)

總計

被害者 五百五十二名
被害額 五萬八千八百七十三圓五十錢

三〇六 業務上横領、詐欺

判決

本籍並住居 茨城縣新治郡懸瀨村大字大塚九百十四番地
無職 友部 來 三

當四十六年

右ノ者ニ對スル業務上横領詐欺被告事件ニ付水戸地方裁判所カ昭和十四年九月九日宣告シタル有罪判決ニ對シ被告人並原審辯護人ヨリ適法ノ控訴申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケタル上判決スルコト左ノ如シ

主文

三〇六 業務上横領、詐欺

被告人ヲ懲役一年二月ニ處ス

但シ本裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用ハ全部被告人ト原審相被告人梶山隆道ノ連帯負擔トス

理 由

被告人ハ昭和二年以來水戸市泉町二丁目ニ友部株式店ヲ開キ原審相被告人梶山隆道ヲ雇入レ有價證券賣買業ヲ營ミ來リタルトコロ

第一、業務上ノ收益尠ク營業ノ繼續ニ苦シミ株式清算取引ニ於ケル證據金代用名義ノ下ニ顧客ヨリ有價證券ヲ騙取セシメテ企テ右雇人梶山隆道ト共謀ノ上客ノ爲ニ株式清算取引ノ注文ヲ取次ク意思ナキニ拘ラス之有ルモノノ如ク裝ヒ犯意ヲ繼續シテ昭和十一年一月七日頃ヨリ同十三年三月二十四日頃マテノ間ニ前記泉町本店ノ外茨城縣久慈郡大子町並福島縣平市ナル各支店ニ於テ數回ニ亙リ掛札丑太郎外四名ヨリ東京株式取引所ニ於ケル清算取引ノ爲同取引所取引員ニ對スル取引注文ノ取次方ヲ依頼セラルルヤ之ニ應シテ其ノ旨右掛札等ヲ誤信セシメ因ツテ其ノ頃後記第一目錄記載ノ如ク夫々同人等ヨリ委託證據金又ハ追證據金代用名義ノ下ニ株券國庫債券等(時價合計金四萬千七百六十八圓五十錢相當)ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二、常陽證券株式會社カ資本ノ總額二十萬圓一株ノ金額二十圓株式總數一萬株ニテ設立ヲ企圖セラレ株式ハ發起人ニ於テ其ノ一部ヲ引受ケ殘餘ニ付株主ヲ公募シテ其ノ申込人ヲシテ夫々一株ニ付金額金二十圓ヲ拂込マシメ昭和十三年五月一日ノ創立總會ヲ經テ設立ヲ完了シタルトコロ右設立ニ際リ被告人ハ前示梶山隆道外十數名ト共ニ其ノ發

起人トナルヤ右梶山ト共同シテ右拂込株金ヲ同會社設立ノ爲業務上保管中同人ト共謀ノ上犯意ヲ繼續シテ同年四月十五日頃ヨリ同月三十日ニ至ルマテノ間後記第二目錄記載ノ如ク其ノ中金一萬八千五百圓ヲ數回ニ亙リ擅ニ前記株式店其ノ他ニ於テ其ノ營業資金等自己ノ用途ニ費消シテ横領シ

タルモノナリ

證據ヲ案スルニ判示事實ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ

一、被告人ニ對スル書審第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ自分ハ昭和三年四、五月頃水戸市泉町二丁目ニ友部株式店ヲ開業シ表面ハ公債勸業債券各種株式ノ現物賣買ヲ營業ト爲シ居リタルカ實際ハ東京市場ニ於ケル長期又ハ短期取引ノ取次ヲ爲シ又自分自ラノ清算取引モ爲シ居タリ株式賣買ノ長期又ハ短期清算取引ノ取次トイフハ客ノ注文ニ從ヒ東京株式取引所ノ取引員ニ株式賣買ノ長期又ハ短期清算取引ヲ委託スルモノナルカ之ハ一々客ノ名義ニテ委託スルニハ非スシテ自分ノ名義ニテ委託スルモノナリ此ノ取引ノ損益ト取引員ニ對スル手数料及繰延料ハ客カ持ツモノナリソシテ此ノ場合ニ自分ノ店ニテハ取引員ヨリ手数料ノ一割乃至二割ノ割戻金(普通交際費又ハ電話料ト申シ居タリ)ヲ貰フノミニテ客ヨリハ全然手数料等ハ取レサルナリ右ノ割戻料ノミニテハ電話料ニモ足ラサルタメ自分ノ店ニテハ開業後一年位經テ客ヨリ清算取引取組ノ注文ノアリタル場合注文ヲ店ニテ吞ミ取引員ニ取次カス客トノ間ハ東京株式取引所ノ公定相場ヲ標準トシテ差金ノ授受ヲ爲シ居タリ此ノ場合客ニ吞行爲ヲ打明ケス何處ニテモ取引員ニ注文ヲ取次キタル如クニ爲シキタルモノニテ大部分ノ客ハ吞行爲ヲ知ラスニ取引ヲ爲シキタルモノナリ吞行爲ノ場合電話ニテ東京ノ取引員ニ相場ヲ問合セル時客カ店ニ居レハ豫テ東京大福商店等ノ取引員ト打合セテ置キ吞ム場合ニハ何株買ヒ又ハ賣リト言ヒ眞實取次ク場合ニハ何枚賣リ又ハ買ヒトイフ言葉ヲ使ヒタルナリソシテ吞行爲ノ場合ニ

ハ客ト差金ノ授受ヲスル外取引員ノ場合ニ準シ手数料及繰延料ヲ客ヨリ取りキタリ自分ノ店ニ於ケル現物買買ト清算取引ハ金額ヨリ言ハハ現物買買カ一割足ラス位ニテ他ハ清算取引ナリキ又清算取引ノ内注文通り取引員ニ取次ク場合ハ全注文ノ一割位ニテ其ノ他ハ行爲ニ依リ差金ノ授受ヲ爲シキタルナリ自分ノ店ハ本店ヲ水戸市泉町ニ置キ支店ヲ助川町大子町及平市ニ置キ店員トシテ本店ニ梶山隆道外二名平支店ニ友部通外一名大子支店ニ梶山豊彦外一名カ居リタリ支店ニ注文カアリタル場合ニハ現物モ清算取引モ大抵本店ニ取次キ本店ニテ取扱ヒ支店ニテ受取リタル證據金代用證券等ハ本店ニ之ヲ送りキタリ本店ニテハ自分ハ殆ント毎日店ニ出テ梶山隆道以下ノ店員ヲ指揮シテ同人等ニ事務ヲ執ラセ梶山ヲ支配人格ト爲シテ店ノ事ハ大體同人ニ委セヤラセ居タリソシテ行爲ヲスルトキハ特ニ自分ヨリ取引員ニ取次クヤウニ注意スル場合及客カ品物ヲ受渡シスル場合ヲ除キ全部呑ムトイフコトニ爲シキタルモノニテ其ノ事ハ本店ノ店員ニモ支店ノ社員ニモ徹底シキタル譯ナリ支店ニ於テ注文ヲ受ケタル時ニハ直チニ電話ニテ本店ニ通知シ來ルモノニシテ其ノ時自分ヨリ右様ノ注意ヲ爲シ又客カ品物ノ受渡シヲスルト申ササル限り呑ムコトハ支店ノ店員モ判リキタルモノナリ友部株式店ニテハ現物買買ノ時並清算取引ノ場合成行注文ノ時ハ何レモ注文ト同時ニ賣買手附金又ハ其ノ代用證券ヲ客ヨリ取ルモノニテ指值注文ノ時ハ注文ノ範圍ノ相場カ市場ニ現レタルトキハ客ニ賣買カ出來タル旨ノ通知ヲ爲シ客ヨリ賣買手附金トシテ現金又ハ其ノ代用證券ヲ取ルモノナリ清算取引ノ場合注文通り取引員ニ取次ク場合ニハ前述ノ様ニ自分ノ名義ニテ注文スルモノナレハ其ノ損益ハ表面上自分カ負擔スルコトトナルモ客トノ關係ハ自分カ客ノ爲ニ自分ノ名義ニ取引ヲ爲シタルモノナレハ損益共ニ客ニ行クコトトナリ其ノ場合自分ノ損害ヲ擔保スル爲ニ右ノ如キ賣買手附金トシテ現金又ハ代用證券ヲ受取ルナリトノ旨ノ記載

(中略)

一、押收ニ係ルカード(昭和十三年地押第二七號ノ一、二)ノ存在

ヲ綜合シテ之ヲ認メ犯意繼續ノ點ハ短期間内ニ同種犯行ノ反覆セラレタル事跡ニ依リ明カナリ

法律ニ照スニ判示被告人ノ所爲中詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項第五十五條第六十條ニ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條第六十條ニ各該當スルコロ以上ハ併合罪ナルニ依リ同法第四十五條前段第四十七條第十條ニ則リ犯情重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年二月ニ處スヘク但シ犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ其ノ全部ヲ被告人ト原審相被告人梶山隆道ノ連帶負擔ト定ムヘキモノトス仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年四月十九日

東京控訴院第〇刑事部

第一目錄

依頼者	交付年月日	證	券	株數	摘要
掛札丑太郎	昭和一一、六、五	東京電燈株式會社株券		二〇	
同	同年六、八	日本電氣工業株式會社株券		一〇	
同	年一二、二六	鬼怒川水力電氣株式會社株券		二〇	
同	同上	同會社新株株券		一〇〇	
同	昭和一二、一一、一八	大日本電力株式會社株券		四〇	

同	人	同	上	日本電氣工業株式會社株券	一〇	
同	人	同	上	同會社新株株券	一〇	返還
川崎	松之介	昭和一、一、七	上	明治製糖株式會社新株株券	一〇	
同	人	同年八、二九	上		二〇	
高木	政三	同年五、一一		(ト)號四分利國庫債券百圓券	三枚	
同	人	昭和二、九、二一		株式會社櫻田機械製作所株券	一〇〇	
野上	貞	同年五、四		東京株式取引所新株株券	一〇	
同	人	同年二、四	上		一〇	
同	人	同年二、一八	上		二〇	
同	人	昭和三、一、一九		鐘淵紡績株式會社株券	一〇	
同	人	同年一、二〇	上		一〇	
同	人	同年一、二五	上		一〇	
同	人	同年二、一〇	上		一〇	
石崎	彪夫	同年二、一九		日本電力株式會社株券	二〇	
同	人	上		東京電燈株式會社株券	五〇	
同	人	同年二、二三	上		七〇	
同	人	同年三、二四	上		五〇	

同	人	同	上	日本電力株式會社株券	二〇	
---	---	---	---	------------	----	--

以上時價總計金四萬千七百六十八圓五十錢

第二目錄

流用年月日	金額	用途	流用年月日	金額	用途
昭和二三、四、一五	一六〇〇・〇〇	營業資金	昭和二三、四、二七	四〇〇〇・〇〇	營業資金
同年四、一九	四二〇〇・〇〇	株券買入資金	同年四、二八	一七〇〇・〇〇	同上
同年四、二三	一四〇〇・〇〇	營業資金	同年四、三〇	五六〇〇・〇〇	同上
合計	一八五〇〇・〇〇				

三〇七 公文書毀棄、公文書偽造行使、詐欺

判決

本籍並住居 茨城縣筑波郡久賀村大字濱田八百三十八番地

久賀村役場書記

羽田勝太郎

明治拾八年貳月拾四日生

右ノ者ニ對スル公文書毀棄公文書偽造行使並詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如

三〇七 公文書毀棄、公文書偽造行使、詐欺

主 文

被告人ヲ懲役壹年ニ處ス

未決勾留日數中參拾日ヲ右本刑ニ算入ス

昭和拾貳年押第三六號ノ七ノ中偽造戶籍抄本一通ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ茨城縣筑波郡久賀村役場書記トシテ村長ノ指揮監督ノ下ニ戶籍、兵事、統計等ノ事務ヲ擔當シ居リタルモノナル處昭和九年壹月貳拾九日三女理(大正拾壹年五月拾七日生)カ病死シタルヨリ翌參拾日其ノ死亡届手續ヲ爲シ戶籍掛トシテ自ラ戶籍ノ記載抹消等ヲ了シタルカ同日理カ生前郵便局取扱ノ簡易生命保險ニ加入シ居ラサリシコトヲ知ルヤ生活費ニ窮シ居リタル爲理カ生存スルモノノ如ク裝ヒテ簡易保險加入ノ手續ヲ爲シ機ヲ見テ理ノ死亡ヲ申出テ以テ保險金名義ノ下ニ金員ヲ騙取センコトヲ企テ理ノ死亡ヲ親族近隣ニ秘シテ其ノ死體ヲ密葬シ理ノ生存ヲ裝ハンカ爲同年貳月上旬頃前記役場ニ於テ同所備付ノ戶籍簿中肩書本籍地戶主被告人羽田勝太郎外家族二十一名ノ戶籍事項ヲ記載セル被告人家ノ戶籍原本中最初ノ一葉ヲ除ク其ノ餘ノ四葉(被告人ノ妻茂以下家族十三名ニ關スル部分ニシテ理カ昭和九年壹月貳拾九日午後十二時本籍地ニ於テ死亡シタル旨戶主羽田勝太郎ヨリ届出同月參拾日受附ノ旨彙ニ被告人自ラ記載シ末尾ニ村長片山寛一ノ認印ヲ押捺シタル部分ヲ含ム)ヲ不法ニ除去シ以テ公務所ノ用ニ供スル該文書ヲ毀棄シ

次テ行使ノ目的ヲ以テ戶籍原本用紙四葉ヲ使用シ之ニ右ノ如ク除去シタル戶籍原本四葉ノ記載事項中亡理ニ付同女カ前記日時ニ死亡シ其ノ届出アリタル旨記載シタル部分ヲ除ク外其ノ他ハ凡テ從前ノ儘ノ記載ヲ引寫シ各事項ノ末尾ニ偶々被告人カ保管セル前村長高橋松次郎(昭和八年八月貳拾日死亡)ノ認印ヲ擅ニ押捺シタル上右四葉ヲ前記戶籍簿中被告人家ノ戶籍原本ノ除去セサリシ真正ノ一葉ノ次ニ綴込ミ以上五葉ノ間ニハ擅ニ茨城縣筑波郡久賀村長ノ職印ヲ使用シテ契印ヲ押捺シ以テ理カ尙生存スルモノノ如ク裝ヒタル戶籍原本一通ノ偽造ヲ完成シ即時之ヲ同役場ニ備附ケテ行使シ更ニ同年五月貳拾五日右役場ニ於テ同縣北相馬郡相馬町藤代郵便局簡易生命保險掛増山鐵太郎ニ對シ故ラ理ノ死亡ヲ默秘シ同女ヲ被保險者被告人ヲ契約者被告人ノ妻茂ヲ受取人トスル保險金額四百貳拾圓保險料月額貳圓五拾錢拾五年滿期養老ノ簡易保險契約ノ締結方ヲ申入レ因テ右増山ヲシテ理カ尙生存スルモノナリト誤信シタル結果之ヲ承諾シテ其ノ手續ヲ取ルニ至ラシメ翌日附ヲ以テ該保險契約ノ成立ヲ證スル簡易保險局長名義ノ保險證券一通ヲ發行交付セシメ爾來保險料名義ノ下ニ所定ノ金員ノ拂込ヲ繼續シ來リシカ昭和拾壹年四月六日前記役場ニ於テ被告人ト縁戚關係アル同村大字濱田猪瀨市太郎ノ四女キヌカ前日病死シタル旨醫師木村長造作成ニ係ル死亡診斷書ヲ添附セル死亡届ヲ受理シ且其ノ頃右キヌカ病中同郡川原代村醫師秋田哲ノ診察投藥ヲモ受ケタル事實ヲ聞知スルヤ醫師ハ診察中ノ患者カ死亡シタルトキハ檢案セシテ死亡診斷書ヲ交付シ與ルルコトアルヲ奇貨トシ先ツ情ヲ知ラサル羽田イク(戶籍上ハ被告人ノ養女ナルモ事實ハ妾)ヲシテ其ノ頃未タ猪瀨キヌカノ死亡ヲ知ラサリシ右秋田醫師方ニ到リ同醫師ニ對シ彙ニ其ノ診察投藥ヲ受ケタル猪瀨キヌカハ筑波郡久賀村大字濱田羽田勝太郎ノ娘ニシテ本名ハ羽田理ナリト稱シ前後數回ニ亙リテ水藥散藥等ノ交付ヲ受ケ且猪瀨キヌカ分ノ未納藥價ヲモ支拂ハシメ同醫師ヲシテ猪瀨キヌカハ眞實羽田理ト

同一人ニシテ未タ死亡セサル旨誤信セシメ置キ次テ同年五月六日情ヲ知ラサル羽田久遠ニ羽田理ハ同日午前二時死亡セル旨及其ノ他死亡診斷書作成ニ必要ナル事項ヲ記載セル封書ヲ托シテ同醫師方ニ到リ之ヲ同人ニ示シテ羽田理ニ對スル死亡診斷書ノ交付ヲ乞ハシメ同醫師ヲシテ其ノ旨誤信セシメ檢案ヲ經スシテ羽田理カ同日死亡セル旨ノ虚偽ノ死亡診斷書一通ヲ作成ノ上右羽田久遠ニ交付セシメテ之ヲ入手シ同月八日同役場ニ於テ前記偽造ニ係ル被告人家ノ戶籍原本中羽田理ノ部分ニ理カ同月六日午前二時本籍地ニ於テ死亡戸主羽田勝太郎届出同月七日受附ナル虚偽ノ事項ヲ記入シ其ノ末尾ニ同村長片山寛一ノ認印ヲ押捺シ戸籍簿上理ノ死亡日時ヲ偽裝シタル上直ニ行使ノ目的ヲ以テ戸籍用紙ヲ使用シ擅ニ同村長名義ヲ以テ右戸籍原本ノ記載ニ則リ死亡日時ヲ偽リタル羽田理ノ戸籍抄本一通ヲ作成シ右村長名下ニ其ノ職印ヲ押捺シテ之カ偽造ヲ完成シ(昭和拾貳年押第三六號ノ七ノ中)同日前記藤代郵便局ニ於テ右増山鐵太郎ニ對シ之ヲ真正ニ成立シタルモノトシテ前記保險證券死亡診斷書等必要書類ト共ニ提出行使シテ羽田理ノ死亡ニ因ル保險金交付方ヲ申出テ因テ右増山ヲシテ羽田理カ右戸籍抄本並死亡診斷書記載ノ日時ニ死亡シタルモノト誤信セシメ即時同所ニ於テ同人ヲシテ保險金支拂名義ノ下ニ金四百貳拾圓ヲ交付セシメテ騙取シタルモノニシテ右各公文書偽造並各偽造公文書行使ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

證據ヲ按スルニ各犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ判示事實ハ

- 一、被告人ノ當公廷ニ於ケル保險金騙取ヲ決意シタルハ昭和九年五月二十五日保險契約ノ申込ヲ爲シタル際ニシテ戸籍原本ヲ毀棄シ且之ヲ偽造シタルハ同月三十日ナル旨主張スル外判示ト同趣旨ノ供述
- 一、被告人ニ對スル豫審第三回訊問調書中保險金騙取ヲ決意シ戸籍原本ヲ毀棄シ且之ヲ偽造シタル各時期ニ付判示ト同趣旨ノ供

述記載

- 一、豫審判事ノ檢證調書中判示久賀村役場備附ノ戸籍簿中同村大字濱田八百參拾八番地戸主羽田勝太郎家ノ戸籍原本五葉中第二葉以下ノ各記載事項末尾ニハ凡テ高橋松次郎ノ認印ヲ押捺シタリ第二葉以下ノ第壹葉ト對照スルトキハ其ノ紙質用紙ノ新舊記載ノ筆跡ノ相違第一葉及第二葉間ノ契印ノ狀況ヨリシテ一度ニ書キ改メタルモノナルコトヲ認メ得ヘク立會人山下仙助ノ言ニ依レハ第二葉以下ノ記載ハ全部羽田勝太郎ノ筆跡ナル旨ノ記載
- 一、證人羽田イク同羽田久遠(但シ日時ノ點ヲ除ク)同秋田哲(第一、二回共但シ死亡診斷書ノ交付ヲ受ケタル者ハ羽田久遠ナリシトノ點ヲ除ク)及同増山鐵太郎ニ對スル各豫審訊問調書中各自ノ關係部分ニ付判示ニ符合スル供述記載
- 一、昭和拾貳年押第三六號ノ七ノ中戸籍抄本一通ノ存在ヲ綜合シテ之ヲ認メ各犯意繼續ノ點ハ被告人カ右認定ノ如ク保險金騙取ノ目的ヲ以テ各同種行爲ヲ反覆実行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム

依テ判示各犯罪事實ハ總テ其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中公文書毀棄ノ點ハ刑法第二百五十八條ニ各公文書偽造ノ點ハ同法第五百五十五條第一項第五十五條ニ各偽造公文書行使ノ點ハ同法第五百五十八條第一項第五十五條第一項第五十五條ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ夫々該當スル處右公文書偽造同行使及詐欺ノ點ハ其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ之ト公文書毀棄トハ同法第四十五條前段所定ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役壹年ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中參拾日ヲ右本刑ニ算入スヘク昭和拾貳年押第三

六號ノ七ノ中ノ戶籍抄本一通ハ判示公文書偽造ノ行爲ヨリ生シタルモノニシテ且何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和拾貳年九月貳拾九日

水戸地方裁判所土浦支部

三〇八 公文書偽造、同行使、詐欺、同未遂

判決

本籍並住居 廣島縣高田郡甲立町大字上申立四百四十九番地

無職

下 石 重 男

明治三十六年十一月二十二日生

右ノ者ニ對スル公文書偽造同行使詐欺同未遂被告事件ニ付昭和十五年四月九日廣島地方裁判所三次支部ニ於テ言渡シタル有罪ノ判決ニ對シ被告人ハ控訴シタリ因テ當院ハ檢事某關與更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス

押收物件中證第九號偽造戶籍謄本一通證第十五號偽造戶籍抄本一通證第八號及證第三十號偽造死亡證明書二通ハ之ヲ沒收ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

理 由

被告人ハ打續ク家族ノ疾病其ノ他ノ事情ノ爲多額ノ負債ヲ生シ之カ支拂ニ窮シタルトコロヨリ簡易保險金ヲ編取センコトヲ企テ犯意ヲ繼續シ

一、昭和十三年十月二十四日廣島市富士見橋郵便局ニ到リ同市東魚屋町岡村定方福永正登ト詐稱シ被保險者ヲ虛無人福永登(大正六年八月二日生)トスル保險金六百八十四圓拂込期間三十年ノ養老保險契約ノ申込ヲ爲シ同年十一月中旬頃同郵便局ヨリ右申込ニ係ル契約ノ保險證書及保險料領收帳ヲ受領シタル上擅ニ情ヲ知ラサル同市大手町一丁目印刷業藤野義信ヲシテ島根縣邑智郡川戸村長職印等ヲ彫刻セシメ次テ情ヲ知ラサル廣島市中町印刷業宮本玉吉ヲシテ前記川戸村役場用紙及戶籍用紙第一、二號各百枚宛ヲ印刷セシメ同年十二月十五日肩書自宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ曩ニ偽造セル川戸村長職印等ヲ使用シ虛無人上杉忠良ヲ同村長トシ同村長名義ノ認證アル島根縣邑智郡川戸村大字道平三百十七番地福永登ノ戶籍謄本(證第九號)同福永清ノ戶籍抄本(證第十五號)同福永登カ同年十一月十日中華民國推龍坳附近ノ戰闘ニ於テ戰死セル旨ノ證明書(證第八號)同福永清カ同年十二月三日同國合德附近ノ戰闘ニ於テ戰死セル旨ノ證明書(證第二十號)各一通ヲ順次偽造シ同月十六日前記郵便局ニ赴キ右村長名義ノ福永登ノ戶籍謄本及死亡證明書カ真正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ前記保險證書並保險金領收帳ト共ニ一括シテ同郵便局

三〇八 公文書偽造、同行使、詐欺、同未遂

三三三三

ニ提出行使シ同郵便局係員ヲシテ該被保險者福永登ノ戦死ヲ原因トシテ保險金ノ即時拂請求アリタルモノノ如ク誤信セシメ因テ即時同所ニ於テ保險金支拂名義ノ下ニ保險金六百八十四圓ヨリ滞納保險料金一圓八十錢ヲ控除シタル金六百八十二圓二十錢ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

一、同年十一月十一日廣島市千田町郵便局ニ到リ前同様詐稱シ被保險者ヲ虚無人福永清(大正七年七月三日生)トスル保險金六百八十圓四十錢拂込期間三十年ノ養老保險契約ノ申込ヲ爲シ昭和十四年一月中旬同郵便局ヨリ右申込ニ係ル契約ノ保險證書及保險料領收帳ヲ受領シ同月二十一日曩ニ偽造セル川戸村長名義福永清ノ戸籍抄本及死亡證明書ヲ執レモ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ之ヲ前記保險證書及保險料領收帳ト共ニ一括シ情ヲ知ラサル使者ヲシテ同郵便局ニ提出セシメテ之ヲ行使シ同郵便局係員ヲシテ福永清ノ戦死ヲ原因トスル保險金ノ即時拂請求アリタルモノノ如ク誤信セシメ因テ保險金支拂名義ノ下ニ金六百八十圓四十錢ヲ交付セシメントシタルモ同郵便局員ニ於テ右即時拂ニ應セザリシ爲其ノ目的ヲ遂ケサリシモノ

ニシテ右公文書偽造其ノ行使竝詐欺同未遂ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

證據ヲ案スルニ右ノ事實中犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ事實ハ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同旨ノ供述

一、證人河村實ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ私ハ昭和九年三月一日ヨリ廣島市富士見橋郵便局長ヲ勤メ居レルカ昭和十三年十月二十四日廣島市東魚屋町岡村定方福永正登ナル者カ當局ニ出頭シ證書ハ未タ來テ居ラヌカト申シ交付ヲ求メタル故タイト申スニヨリ被保險者福永登大正六年八月二日生保險金六百八十四圓保險料拂込期間三十年ノ養老保險契約ノ申込ヲナシ

第一回ノ保險料金一圓八十錢ヲ納メタリ簡易保險局ヨリ保險證書及保險料領收帳カ當郵便局ニ送付セラレテ未タ本人ニ發送セサル以前ニ多分申込ノ日ヨリ十二、三日後右福永正登ナル者カ當局ニ出頭シ證書ハ未タ來テ居ラヌカト申シ交付ヲ求メタル故同人ニ手交シタリ昭和十三年十二月十六日契約者カ窓口ニ出頭シ被保險者福永登カ支那ニ於テ戦死セルモノトシテオ示シノ證第八號ノ證明書及第九號ノ戸籍抄本ト疊ノ保險證書及保險料領收帳ヲ一括シテ差出シ保險金ノ即時拂ヲ請求シタル故保險金受領證ニ所要事項ヲ記入シヤリ本人ニ捺印セシメテ保險金六百八十四圓ヨリ滞納保險料一ヶ月分一圓八十錢ヲ控除シ殘額六百八十二圓二十錢ヲ本人ニ交付シタリ保險契約申込ノ時ハ無論時節柄アリソウナ事ト思ヒタル故別ニ不審モ抱カス申込ヲ受理シ保險院簡易保險局ニ通知シ保險契約カ締結セラルルニ至リタルモノニシテ又保險金請求ノ際モ何レモ正當ニ作成セラレタルモノト思ハルル書類カ完備シ居リタル故別ニ不審モ抱カス契約者ニ同情ヲ表シ直チニ支拂ヒタル次第ナリ若シ申込カ虚無人名義ニテナサレ又保險金請求カ虚偽ノ事實ヲ記載シタル偽造文書ニヨリテ爲サレタル場合ニハ該申込ヲ受領セサルハ勿論假ニ受理シタリトスルモ保險金ヲ支拂フカ如キコトハ絕對ニナク結局私等カ騙サレタト云フ結果ニナリタルモノナル旨ノ記載

一、證人田中敏夫ニ對スル豫審訊問調書(兼夫トアルハ敏夫ノ誤記ト認ム)中同人ノ供述トシテ私ハ大正十五年ヨリ廣島市千田町郵便局長ヲ勤メ一般事務ヲ取扱ヒ居レルカ昭和十三年十一月十一日四十歳前後ノ男カ廣島市東魚屋町岡村定方福永正登名義ヲ以テ被保險者福永清大正七年七月三日生保險金額六百八十圓四十錢保險種類三十年滿期養老保險ノ申込ヲ爲シタルニヨリ之ヲ受理シ簡易保險局ヨリ保險證書及保險料領收帳ヲ送り來リタル故本人ノ要求ニ依リ局ニ預リ居リタルトコロ大分日カ經チテ契約者カ受取リニ來リシニヨリ交付シタリ昨年(昭和十四年)一月二十一日ニ本人ノ代理人トシテ廿歳許リノメツセンチャールカ保險證書、保險料領收帳戸籍抄本死亡證明書及手紙ヲ持チテ保險金受領ニ來リシ故書類ヲ見タルトコロ被保險者ハ昭和十三年十二月三日戦地ニ於テ死亡シタル旨ノ記載アリ戦死者ノ事ナル故直チニ保險金ヲ交付セント思ヒシモ虫カ知ラスト申スカ何トナ

ク不審ナリシ故書類ヲ受取リタルノミニテ其ノ儘メツセンチヤイラシメタリ右申ス如ク不審ニ思ヒタル故即時拂ヲ止メ保
 險局ヨリ通常拂ニスルヤウ手續ヲ執リタルトコロ保險局ヨリ私ノ局ト契約者トニ金ヲ渡スト云フ通知カアリタルニ拘ラス何時
 迄モ取リニ來ヌ故私ノ局ヨリ契約者ノ住所ニ宛テ通知シタルモ出頭セス其ノ内ニ保險局ヨリハ早ク渡セト云フ督促アリタル故
 契約者ノ住所タル宿屋ニ行キテ見タルニ通知書ハ宿ニテ勝手ニ受取リ居リ本人ハ居ラサルコト判明シタル故不審ニ思ヒ本籍地
 役場ニ照會シタルトコロ契約者ヤ被保險者ニ該當スル者ハ居住セス又證明書ヤ戶籍抄本ニ記載ノ如キ氏名ノ村長モ居ラス從テ
 同人名義ノ戶籍抄本ヤ死亡診斷書モ下付シタルコトナキコト判明シタルヲ以テ其ノ旨廣島通信局ニ報告シタル旨ノ記載
 ニ依リ之ヲ認メ犯意繼續ノ點ハ被告人カ短期間内ニ夫々同種行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム
 仍テ判示犯罪ハ總テ其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スルニ被告人ノ判示所爲中公文書偽造ノ點ハ刑法第五十五條第一項ニ偽造公文書行使ノ點ハ同法第五百五
 八條第一項第五百五十五條第一項ニ詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項ニ同未遂ノ點ハ同法第二百五十條第二百四十
 六條第一項ニ各該當スルトコロ右偽造公文書ノ一括行使ノ點ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニシテ右公
 文書偽造、偽造公文書行使並詐欺同未遂ハ夫々犯意繼續ニ係リ且其ノ間順次手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十五
 條第五十四條第一項前段後段第十條ニ依リ結局最モ重キ偽造公文書行使罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ
 刑ヲ量定處斷シ主文掲記ノ押收物件ハ孰レモ本件偽造公文書行使罪ノ組成物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以
 テ同法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシ
 テ全部之ヲ負擔セシムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年五月二十七日

廣島控訴院刑事部

三〇九 詐欺、横領、有價證券偽造行使

判決

本籍 小樽市山田町二十七番地
 住居 札幌市南五條西四丁目 五條ハウス事小林温子方
 無職 市橋トミエ

明治三十五年一月六日生

右被告人ニ對スル詐欺、横領、有價證券偽造行使被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左
 ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役一年ニ處ス

但シ未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル證第一號約束手形ハ之ヲ沒收ス

三〇九 詐欺、横領、有價證券偽造行使

被告人ハ北海道壽都郡壽都町ニ於テ漁業市橋由造ノ五女トシテ出生廳立函館高等女學校ヲ卒ヘ大正十年頃夕張郡栗山町ナル酒造業小林新吉ノ許ニ嫁シタルモ幾何ナラスシテ不縁ト爲リ其ノ後同十二年頃小樽市山田町開業醫小松一郎ノ許ニ後妻トシテ再婚スルニ到リタルカ昭和七年六月及同八年十二月ノ二回ニ亙リ小樽區裁判所檢事局ニ於テ私文書偽造行使詐欺罪等ノ嫌疑ニ依リ取調ヲ受ケ起訴猶豫ノ處分ヲ受ケタルヨリ家庭内ニ不和ヲ生シ遂ニ同十二年五月頃右小松トモ離別シ爾來札幌市、室蘭市ノ料亭カフエー等ニ於テ女給稼等ヲ爲ス内年少ナル北海道帝國大學附屬醫院副手佐藤一彦ト慰勸ヲ通シ一時ハ札幌市内ニ於テ同棲生活ヲ營ミ居タルモ同人ノ兩親ノ知ルトコロト爲リ遂ニ同人トモ離別セサルヘカラサル状態トナリ昭和十四年十一月頃ヨリハ單身ニテ肩書住居ニアパート生活ヲ始ムルニ立至リタルモノナルトコロ生來美貌ニシテ虛榮心強ク定職定收ナキニ拘ラス身分不相應ナル生活ヲ續ケタル爲途ニ生活費等ニ窮シ第一、他人ヲ欺罔シ金員ヲ騙取セシメテ之ヲ企テ

(一) 昭和十四年七月十五日頃ヨリ同年十二月二十日頃迄ノ間前後約五回ニ亙リ室蘭市大町三十五番地藝妓置屋業谷リツフニ於テ同人ニ對シ眞實自己ニ弟ナク且將來藝妓稼業ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス或ハ藝妓稼業準備資金トシテ或ハ自己ノ弟カ今次事變ニ將校トシテ應召セラレタルニ依リ軍裝整備又ハ軍刀購入資金トシテ金員ヲ貸與セラレ度ク貸與金員ハ藝妓稼業ニ依ル收入若クハ再婚後離別シタル小樽市ノ醫師ヨリ慰藉料ノ支拂ヲ受ケ之ヨリ辨濟ヲ爲スヘキ旨虚構ノ事實ヲ申向ケ、同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ、因テ其ノ頃五回ニ亙リ同人ヨリ貸借名下ニ現金合計金八百八十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二) 同十五年五月四日頃北海道札幌郡江別町五條三丁目一番地カフエー業佐藤政吉方ニ到リ同人ニ對シ自己及姪ナル市橋郁子ニ於テ將來同人方ニテ女給稼ヲ爲ス意思ナキニ拘ラス有之モノノ如ク裝ヒ同月中旬頃ヨリ同人方ニテ女給稼ヲ爲シ稼業收入ヨリ逐次辨濟ヲ爲スヘキヲ以テ前借金ヲ貸與セラレ度キ旨申向ケ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時同人ヨリ前借金名下ニ現金三百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(三) 同年六月十八日頃ヨリ同年十一月二十三日頃迄ノ間前後約十數回ニ亙リ札幌市南四條西四丁目十七番地梶谷彦六方ニ於テ同人ニ對シ自己ハ日本製鐵株式會社室蘭製鋼所第一製鉄課長里村伸二ノ知遇ヲ得居レル者ニテ同人ノ内部的斡旋ニ依リ室蘭市ノ地主富田某ノ所有地ヲ右日鐵會社ニ買收セシムヘキ運動ヲ爲シ居レルカ、右里村ノ努力ニ依リ交渉好轉ノ狀況ニ在リ之カ運動促進ノ爲東京本社ニ赴キ重役ト折衝シ度キヲ以テ之カ運動費、旅費等ヲ貸與セラレ度ク貸與金員ハ運動成功ノ曉里村又ハ富田ヨリ交付セラルヘキ周旋料金一萬數千圓ヲ以テ辨濟ヲ爲スヘキ旨虚構ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ眞實右土地賣買ノ運動ハ相當進捗シ成功疑ナキモノノ如ク誤信セシメテ因テ其ノ頃十數回ニ亙リ貸借名下ニ現金合計金七百六十圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(四) 同年七月二十二日頃同市北二條東十丁目十五番地産婆金子みき方ニ到リ同人ニ對シ前記梶谷ニ對シテ爲シタルト同一ノ欺罔手段ニ依リ同人ヲ欺罔シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ即時同人ヨリ貸借名下ニ現金五百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(五) 同年十二月十二日頃同市北一條東七丁目十番地松橋貞一方ニ到リ同人ニ對シ前示里村ノ斡旋ニ依リ日鐵室蘭製鋼所ヨリ「ワークス」ヲ拂下ケセシメ遣ルヘキ金員ヲ貸與セラレ度キ旨虚構ノ事實ヲ申向ケ同人ヲシテ眞實被告

人及右里村ノ努力ニ依リ室蘭製鋼所ヨリ「コークス」ノ拂下ケヲ得之ニ依リ相當利益ヲ揚ケ得ヘキモノト誤信セシメ因テ即時同人ヨリ貸借名下ニ現金三百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二、同年九月十日頃同市南三條西四丁目十一番地毛皮商松島健治ヨリ同人所有ノ獺ノ皮五枚、ラッコノ皮一枚ノ賣却方依頼ヲ受ケ之ヲ預リ保管中其ノ頃數回ニ肩書居宅其ノ他ニ於テ擅ニ前記佐藤政吉其ノ他ノ債權者ニ對シ自己ノ債務ノ一部等トシテ差入レ以テ横領シ

第三、其ノ後前記梶谷等ヨリ土地賣買周旋融資ノ返濟ヲ求メラルルヤ前示里村伸二振出名義ノ約束手形ヲ偽造行使シ以テ一時ヲ糊塗センコトヲ企テ同年十一月二十三日頃室蘭市本旅館ニ於テ振出人トシテ里村伸二ノ署名ヲ冒用シ其ノ名下ニ豫テ作成シ置キタル「里伸」ナル角型印ヲ押捺シテ金額一萬五千圓振出地支拂地、支拂場所執レモ室蘭市振出日昭和十五年十一月二十三日滿期同年十二月七日ナル被告人宛約束手形一通(證第一號)ヲ偽造シ之ヲ同月二十五日頃前記梶谷方ニ於テ同人ニ對シ眞正ニ成立シタルモノノ如ク裝ヒ交付行使シ

タルモノニシテ判示第一ノ詐欺、判示第二ノ横領ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ出テタルモノトス

證據ヲ按スルニ

判示事實中冒頭記載ノ部分ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メ

判示第一事實ハ

- (一) 被告人ノ當公廷ニ於ケル詐欺ノ犯意アリタル點ヲ除キ判示ト同趣旨ニ歸スル供述
- (二) 被告人ニ對スル檢事ノ聽取書(第一回、第二回)中判示ト同趣旨ニ歸スル供述記載

(三) 證人谷リツ、佐藤政吉、梶谷彦六、金子みき、松橋貞一ニ對スル檢事ノ各聽取書中判示關係部分ニ照應スル被害順末ノ供述記載

(四) 證人里村伸二ノ當公廷ニ於ケル被告人市橋ヨリハ判示日時頃判示ノ如キ土地賣買、コークス拂下等ノ話アリタルモ自分ノ地位トシテハ斯ル斡旋ハ爲シ難キ事情アリタルニ依リ同人ノ話ヲ聞キ置ク程度ニ止メ積極的ニ夫レ等ノ斡旋ヲ爲シ遺ル等ト申シタルコトハナカリシ旨ノ供述

ヲ綜合シテ之ヲ認メ(中略)

判示第一、第二ノ所爲カ犯意繼續ニ係ルコトハ夫々判示期間内ニ同種行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ照シ明白ナルヲ以テ判示事實ハ全部其ノ證明アリタルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第一項、第五十五條ニ、第二ノ横領ノ點ハ同法第二百五十二條第一項、第五十五條ニ、第三ノ約束手形(有價證券)ヲ偽造シタル點ハ同法第六十二條第一項ニ、偽造手形ヲ行使シタル點ハ同法第六十三條第一項ニ各該當スルトコロ、右約束手形ノ偽造ト其ノ行使トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段、第十條ニ依リ犯情重シト認ムル手形偽造罪(刑法第六十二條)ノ刑ニ依リテ處斷スヘク、而シテ以上ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條、第十條ニ依リ最モ重キ有價證券偽造罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ刑法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入スヘク、押收ニ係ル證第一號約束手形ハ本件手形偽造行爲ニ依リ生シタルモノニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルモノナルニ依リ刑法第十九條ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年三月十一日

札幌區裁判所

三四二

三一〇 竊盜、詐欺

判決

本籍 福島縣雙葉郡龍田村大字井出字館ノ澤六十三番地
 住居 東京市瀧野川區西ヶ原町千二百二十五番地 内閣印刷局瀧野川分室寄宿舎内
 内閣印刷局工員 上田ヨシエ

當二十三年

右ノ者ニ對スル竊盜詐欺被告事件ニ付昭和十五年十二月四日東京區裁判所カ言渡シタル有罪判決ニ對シ、被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリタルヲ以テ當裁判所ハ檢事某關與ノ上更ニ審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人ヲ懲役六月ニ處ス

當審ニ於ケル未決勾留日數中參拾日ヲ右本刑ニ算入ス

押收ニ係ル未完成日本銀行兌換券四枚(昭和十六年押第四九號ノ一乃至三)ハ之ヲ被害者内閣印刷局ニ還付ス

理由

被告人ハ昭和十五年九月十四日女子工員トシテ内閣印刷局ニ雇ハレ同月十七日ヨリ東京市瀧野川區西ヶ原町千二百二十五番地内閣印刷局瀧野川分室ニ勤務シ居タルモノナルトコロ

第一、(一) 同年同月十七日午後五時頃右内閣印刷局瀧野川分室寄宿舎第二號室ニ於テ同室ノ押入内ニ在リタル工員木村ヒデ所有ノハンドバック中ヨリ現金二圓ヲ竊取シ

(二) 同年十月一日午後三時頃前記内閣印刷局瀧野川分室三階證券印刷部檢査課仕上掛模樣檢査作業室ニ於テ模樣檢査作業ニ從事中監督者ノ監視ノ隙ヲ窺ヒ内閣印刷局瀧野川分室物品取扱主任内閣技手三谷勸平ノ管理ニ係ル、未タ記號番號ノ記入ナキ日本銀行兌換券未完成品十圓券六枚續ノモノ一枚ヲ竊取シ

第二、右犯行後前記ノ如ク竊取シタル右日本銀行兌換券半製品十圓券六枚續ノモノ一枚ヲ各十圓券一枚宛ニ切離シタル上未タ記號番號ナキ右未完成兌換券ヲ使用シテ他人ヲ欺罔シ金品ヲ騙取センコトヲ企テ

(一) 同年十月六日午前九時頃右同町九百四十六番地乾物商關口貫一方ニ到リ同家人ニ對シゼリ一菓子百匁キヤラマル五錢賣ノモノ二十箇(代金合計一圓四十七錢相當)ヲ注文シ、之カ代金支拂ニ當リ右ノ如ク切離シタル未完成日本銀行兌換券十圓券一枚ヲ恰モ真正ナル日本銀行兌換券ナルカ如ク裝ヒテ之ヲ同人ニ交付シ因テ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ即時同所ニ於テ該物品及釣錢名義ノ下ニ現金八圓五十三錢ヲ交付セシメテ右金品ヲ騙取シ

(二) 前同日午前九時二十分頃及同十時頃ノ二回ニ亙リ右同町八百八十八番地菓子商加藤辨一方ニ於テ同家人ニ對シ、卵パン百匁其ノ他菓子類代金合計四圓十錢相當ノモノヲ注文シ、前同様ノ方法ニ依リ前記未完成日本銀行兌換

三三〇 竊盜、詐欺

三四三

換券十圓券二枚ヲ同人ニ交付シ因テ前同様同人ヲ欺罔シ其ノ都度即時同所ニ於テ同人ヲシテ該物品及前同名義ノ下ニ現金合計十五圓九十錢ヲ交付セシメテ右金品ヲ騙取シ

(三) 前同日午後四時頃右同町千七十九番地履物商林春二方ニ於テ同家人ニ對シ、小町下駄一足(代金一圓六十錢相當)ヲ注文シ前同様ノ方法ニ依リ前記未完成日本銀行兌換券十圓券一枚ヲ同人ニ交付シ因テ前同様同人ヲ欺罔シ即時同所ニ於テ同人ヲシテ該物品及前同名義ノ下ニ現金八圓四十錢ヲ交付セシメテ右金品ヲ騙取シタルモノニシテ右竊盜及詐欺ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

證據ヲ按スルニ判示事實中各犯意繼續ノ點ヲ除ク其ノ餘ノ事實ハ

一、被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

一、關口貫一、加藤辨一、林春二各提出ニ係ル詐欺被害届ト題スル書面中判示各關係部分ニ照應スル詐欺被害願末ノ記載

一、押收ニ係ル未完成日本銀行兌換券十圓券四枚(昭和十六年押第四九號ノ一乃至三)ノ存在

ヲ綜合シテ之ヲ認メ各犯意繼續ノ點ハ被告人ガ判示短期間内ニ同種ノ行爲ヲ夫々反覆累行シタル事跡ニ徴シ明白ナルヲ以テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ、被告人ノ判示所爲中竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條第五十五條ニ、詐欺ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第五十五條ニ、各該當スルトコロ、以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ヲ適用シ、犯情重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ、同法第二十一條ニ從ヒ當番ニ於ケル未決勾留日數中三十日ヲ右本刑ニ算入シ、押收物中未完成日本銀行兌換券十圓券四枚(昭和十六年押

第四九號ノ一乃至三)ハ判示第一ノ(二)ノ犯行ニ基ク贓物ニシテ被害者内閣印刷局ニ還付スベキ理由明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第三百七十三條第一項ニ則リ之ヲ内閣印刷局ニ還付スヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十六年二月二十日

東京刑事地方裁判所第〇部

三三一 詐欺

判決

本籍 熊本市出水町大字今二百九十三番地

住居 福岡市警固本丁三番地 金森厚方

無職

福田 貞吉

明治三十五年十月十日生

本籍 靜岡縣駿東郡浮島村西船津四十五番地ノ一

住居 東京市王子區袋町二丁目千三百八十六番地

乾體技術員

中西 和 三郎

三二一 詐欺

明治二十八年二月二十六日生

右ノ者等ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事其關與審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人貞吉ヲ懲役二年ニ

同和三郎ヲ懲役一年六月ニ處ス

未決勾留日數中各百五十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス

但シ本裁判確定ノ日ヨリ被告人貞吉ニ對シテハ四年間同和三郎ニ對シテハ三年間孰レモ右刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中證人瀨戸寛一及稻村久惠ニ支給シタル分ハ被告人和三郎ノ負擔トシ其餘ハ被告人等ノ連帶負擔トス

理 由

被告人中西和三郎ハ矢合正五郎、林忠次郎等ト共ニ昭和十二年七月頃ヨリ東京市王子區ニ於テ石炭乾餾事業ヲ目的トスル矢合化學研究所ヲ經營シ居タルモ資金難ニ陥リタル折柄、被告人福田貞吉カ熊本市塩屋町裏一番丁五十番地ニ本店ヲ有シ煉炭製造事業ヲ目的トスル九州特許煉炭株式會社ヲ經營シ居ルモ資金杜絶ノ爲同會社ノ事業ヲ休止シ居ルヲ聞知シ、中西ハ正五郎ト協議ノ上右會社ヲ買收シ株券ヲ發行シ資金獲得ニ名ヲ藉リ該株券ヲ賣付又ハ擔保ニ供センコトヲ畫策シ、石井幸平ノ仲介ニヨリ、被告人福田ト右會社ノ買收方ヲ交渉ノ結果、買收ノ上ハ福田ヲ該會社ノ重役トシ後ニ發行スヘキ株式二千五百株ヲ買收ノ代價トシテ交付スヘキ約定ノ下ニ昭和十二年八月五日右九州特許煉炭株式會社ノ買收ヲ了シ、本店ヲ東京市王子區赤羽町三丁目千五百五十四番地ニ移轉登記ヲ爲シ目的並ニ商號ヲ、石炭乾餾並

其ノ製品ノ販賣及ヒ之ニ附帶スル一切ノ業務ヲ目的トスル矢合乾餾興業株式會社ト改メ前記林忠次郎ノ所有ナル矢合化學研究所工場建物機械並ニ既ニ消滅セル特許權等ヲ會社ノ資金トシテ計上シ取締役社長ヲ矢合正五郎トシ一株ノ金額二十圓全額拂込濟ノ株券二万五千株ヲ發行シタルカ、右會社ハ登記簿上ノ名義ハ存スルモ見ルヘキ資産無ク現ニ事業ヲ經營セス且將來ニ於テモ其ノ見込無キニ拘ラス被告人等ハ該株券ヲ以テ現在有利ニシテ將來有望確實ナル會社ノ株券ナルカ如ク裝ヒ經營資金獲得ニ藉口シ之ヲ賣却又ハ擔保ニ供シ金員ヲ騙取センコトヲ企テ其ノ宣傳ニ供スル爲ニ矢合乾餾興業株の内容又ハ「矢合乾餾興業株式會社の内容」ト題シ、右會社ハ大正九年操業以來優秀製品ヲ市場ニ出シ絶大ノ賞讃ト良好ノ業績ヲ以テ豫想以上ノ收益ヲ擧ケ今期ハ優ニ配當八朱ト保證確定シ政府ノ低溫乾餾助成金ヲ享受シ向フ十ヶ年間ノ諸稅免除ノ特典ヲ有スル旨虛偽ノ事實ヲ記載セル小冊子ヲ發行シ

第一、被告人等ハ共謀ノ上

(一) 昭和十三年六月十九日頃長崎市材木町二十六番地山口吉廣方ニ於テ同人ニ對シ前記小冊子ヲ示シ且其内容ヲ口述宣傳シテ同人ヲ欺罔シ同月二十一日頃同市爐糟町旅館諏訪莊方ニ於テ右會社ノ株券千株ヲ擔保ニ供シ借用名義ノ下ニ同人ヨリ金五千圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

(二) 昭和十三年十二月初旬頃東京市赤坂區青山五丁目眞保眞二方等ニ於テ荒木金之助ニ對シ前記小冊子ヲ示シ且其ノ内容ヲ口述宣傳シテ同人ヲ欺罔シタル上同月十三日、十九日、二十六日ノ三日ノ三回ニ亙リ同市麻布區本村町百五十番地ナル金之助方ニ於テ右會社株式合計二千株ヲ擔保ニ供シ借用名義ノ下ニ同人ヨリ現金三千圓及千圓相當ノ西庄鑛業株式會社株式百株ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二、被告人福田貞吉ハ昭和十三年四月上旬福岡市因幡町三十三番地原勇夫方ニ於テ同人ニ對シ前記小冊子ヲ示シ且其内容ヲ口述宣傳シテ之ヲ欺罔シタル上情ヲ知ラサル澤井民三ヲ介シテ同年七月中旬頃迄ノ間十數回ニ亙リ前記勇夫方等ニ於テ右會社株券合計二千三百六十株ヲ賣付ケ其ノ代金名義ノ下ニ右勇夫ヨリ合計金九千九百圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第三、被告人中西和三郎ハ矢合正五郎死亡後、昭和十三年十二月二十一日前記會社ノ商號ヲ變更シ東洋乾餾工業株式會社ト改メ昭和十四年二月中專務取締役タル自己名義ヲ以テ一株金額二十圓全額拂込ノ株券十株券五十株券ヲ發行シ別ニ豫備株券トシテ五十株券二百枚十株券百枚ヲ印刷シ右豫備株券五十株券用紙百六十三枚ニ夫々番號ヲ附シ自己及齋藤末吉名義ト爲シ置キタルカ金錢ニ窮シタル結果昭和十四年六月二十四日頃情ヲ知ラサル瀬戸寛一ヲシテ、自己名義ト爲シ置キタル前記豫備株券五十株券用紙十枚ヲ宇部市沖宇部三千四百八十番地稻村久惠方ニ持參セシメ右豫備株券用紙カ真正ニ發行セラレタル右會社ノ株券ナルカ如ク裝ハシメテ久惠ヲ欺罔シテ之ヲ擔保ニ供セシメ貸借名義ノ下ニ金二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

タルモノニシテ被告人貞吉ノ判示第二ノ所爲ト第一ノ(一)(二)ノ各所爲及同和三郎ノ判示第一ノ(一)(二)ノ各所爲ト第三ノ所爲トハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

證據ヲ按スルニ判示事實ハ

一、被告人等ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述

一、證人山口吉廣ニ對スル豫審第一、二回訊問調書ヲ通シ判示第一ノ(一)ノ事實ニ照應スル供述記載

一、證人荒木金之助ニ對スル豫審訊問調書中判示第一ノ(一)(二)ノ事實ニ照應スル供述記載

一、證人原勇夫ニ對スル豫審訊問調書中判示第一ノ事實ニ照應スル供述記載

一、證人稻村久惠ニ對スル豫審訊問調書中判示第三ノ事實ニ照應スル供述記載

一、押收ニ係ル「矢合乾餾興業株の内容」(證第十四號)「矢合乾餾興業株式會社の内容」(證第六十三號)ト題シ判示ノ如キ記載アル小冊子ノ存在

ニ依リ之ヲ認メ

犯意繼續ノ點ハ被告人等カ判示短期間内ニ判示所爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム

仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリトス

法律ニ照スニ被告人兩名ノ判示所爲ハ刑法第二百四十六條第一項、第五十五條ニ各該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人等ニ對シ夫々主文ノ刑ヲ量定處斷シ、同法第二十一條ニ從ヒ未決勾留日數中各百五十日ヲ夫々右本刑ニ算入シ尙情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ被告人貞吉ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ四年間同和三郎ニ對シテハ同三年間刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項、第二百三十八條ヲ適用シ主文ノ如ク被告人等ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十二年十二月十日

山口地方裁判所刑事部

三三二 詐欺

判決

本籍並住居 岐阜縣稻葉郡各務村各務千五百七十三番地

農兼周旋業

長 繩 領 一

明治三十一年三月三日生

本籍 三重縣鈴鹿郡壹生村大字下庄二千四百五十一番地

住居 松阪市大字白粉町五百十七番地

僧侶

松 尾 秀 觀

明治十九年八月二十八日生

本籍並住居 姫路市土山五百七十八番地

農

中 島 勘 次 郎

明治二十年十月二十八日生

本籍並住居 松阪市大字津津三百五十四番地

農兼湯屋業

油 利 木 信 象

明治三十一年四月二十八日生

本籍並住居 松阪市大字松阪日野七百九十一番地

百貨店營業

永 作 好 生

明治三十二年七月五日生

右ノ者等ニ對スル詐欺被告事件ニ付安濃津地方裁判所ニ於テ昭和十四年五月二十二日言渡シタル有罪判決ニ對シ各被告人ヨリ適法ナル控訴ノ申立アリ尙當院檢事ヨリ被告人長繩領一ニ對シ附帶控訴ノ申立アリタルヲ以テ當院ハ檢事某關與ノ上審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人長繩領一、中島勘次郎、油利木信象、永作好生ヲ各懲役壹年ニ被告人松尾秀觀ヲ懲役拾月ニ處ス

但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人中島勘次郎ニ對シ百日、被告人油利木信象、永作好生ニ對シ各百貳拾日

被告人松尾秀觀ニ對シ百五拾日ヲ孰レモ右各本刑ニ算入ス

被告人松尾秀觀、油利木信象、永作好生ニ對シ孰レモ本裁判確定ノ日ヨリ四年間右各刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中豫審ニ於ケル證人水野壽一ニ支給シタル分ハ被告人長繩領一及原審相被告人高木仙爾、福田泰一ノ連

帶負擔、豫審ニ於ケル證人平松久男、水谷庄太夫、稻葉庄平ニ支給シタル分ハ被告人松尾秀觀及原審相被告人大林

義治、佐野新次郎ノ連帶負擔、豫審ニ於ケル證人植田和一ニ支給シタル分ハ被告人中島勘次郎、油利木信象、永

作好生及原審相被告人高木仙爾ノ連帶負擔、原審公判ニ於ケル鑑定人小西徳次郎ニ支給シタル分ハ被告人松尾秀

觀、油利木信象及原審相被告人大林義治、佐野新次郎、福田泰一、高木仙爾、青木源次郎ノ連帶負擔、豫審ニ

於ケル證人永井菊次郎及當審ニ於ケル證人山本多吉ニ支給シタル分ハ被告人油利木信象ノ單獨負擔、當審ニ於ケル證人西川駒吉ニ支給シタル分ハ被告人中島勘次郎ノ單獨負擔トス

理由

第一、被告人長繩領一ハ小野木武助及原審相被告人木村青峰事高木仙爾、福田泰一等ト共謀ノ上岐阜縣稻葉郡蘇原村大字伊吹水野壽一ニ對シ高木仙爾所有ノ銅造菩薩立像一體(領置第五十一號證第二十七號ノ一)カ明治以後ノ作ニシテ時價三、四百圓ヲ出テサルモノナルニ拘ラス古代ノ高價ナル逸品ノ如ク申欺キ賣買代金名義ニテ壽一ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和十三年七月上旬頃被告人領一ハ小野木武助ト共ニ右佛像ヲ水野壽一方ニ持込ミタル上同人ニ對シ該佛像ハ同郡那加村津田安五郎ノ秘藏品ナルカ之ヲ擔保ニ金員ヲ貸與セラレ度旨申詐リ一方右仙爾泰一ハ偶然土地見分ノ爲壽一方ヲ訪問シタルモノノ如ク裝ヒ同人方ニ到リ仙爾ハ古美術ノ鑑識眼アリト吹聴シタル上領一等ト何等關係ナキモノノ如ク裝ヒテ右佛像ヲ鑑定シタル後右佛像ハ推古時代ノ作ニシテ時價七萬圓位ノ逸品ナレハ他ニ轉賣ノ周旋ヲ爲シ遺ルモ可ナル旨申向ケ壽一ノ購買心ヲ煽リ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメ豫メ其ノ旨ヲ含メ置キタル右津田安五郎トノ間ニ右佛像ニ付賣買契約ヲ締結セシメ同月中旬頃ヨリ同月十九日頃迄ノ間ニ二回ニ前記津田安五郎方ニ於テ壽一ヨリ右賣買代金名義ノ下ニ合計金三千八百五十圓ヲ自己等ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二、被告人松尾秀觀ハ原審相被告人大林義治、佐野新次郎ト共謀ノ上

(一) 三重縣多氣郡相可町四十八番地稻葉庄平ニ對シ被告人秀觀所有ノ銅造菩薩立像一體(領置第五十一號證第八號)カ時價三百五十圓位ナル明治以後ノ作ナルニ拘ラス古代ノ高價ナル逸品ノ如ク申欺キ賣買代金名義ニテ庄平ヨ

リ金員ヲ騙取センコトヲ企テ佐野新次郎カ客引、大林義治カ鑑定人ヲ各裝ヒ昭和十二年十二月頃被告人秀觀ハ稻葉庄平方ニ於テ同人ニ對シ借財支拂ノ爲メ先師タル松阪市來迎寺住職ヨリ形見ニ貰ヒ受ケタル秘藏ノ右佛像ヲ手離スモノナル旨申詐リ大林義治カ被告人秀觀及右新次郎ト何等關係ナキモノノ如ク裝ヒテ之カ鑑定ヲ爲シ自ラ買取ル意思ナキニ拘ラス右佛像ハ鎌倉時代ノ作ニシテ時價一萬圓以上ノ逸品ナレハ金五千五百圓位ニテ買取ルモ可ナリト吹聴シ新次郎カ轉賣周旋ノ意思ナキニ拘ラス之ヲ買取リ置カハ後日義治ニ賣却ノ周旋ヲ爲シヤル旨申向ケ庄平ノ購買心ヲ煽リ庄平ヲシテ其ノ旨誤信セシメ被告人秀觀トノ間ニ右佛像ニ付賣買契約ヲ締結セシメ同年同月二十日頃三重縣飯南郡花岡町ナル新次郎方ニ於テ庄平ヨリ新次郎ニ其ノ賣買代金名義ノ下ニ金三千二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(一)(二)省略

第三、被告人中島勘次郎ハ原審相被告人高木仙爾ト共謀ノ上

(一) 神戸市神戸區元町通二丁目二百二十八番地植田和一ニ對シ高木仙爾所有ノ木造菩薩立像一體(領置第六十一號證第十五號)カ時價三百圓位ノモノナルニ拘ラス古代ノ高價ナル逸品ノ如ク申欺キ賣買代金名義ニテ和一ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和十一年七月頃姫路市土山ナル自宅ニ於テ和一ニ對シ右佛像ヲ提示シ株ニ失敗シタル爲メ祖先傳來ノ秘藏品ヲ手離スモノナル旨申欺キ仙爾ヲシテ自己ニ何等關係ナキモノナルカ如ク裝ハシメテ鑑定ヲサシメ右佛像ハ時價八千圓位古代ノ名作ナリト激賞シ且買取リ置カハ多大ノ利益アル旨申向ケシメ植田和一ノ購買心ヲ煽リ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ自己ト右佛像ニ付賣買契約ヲ締結セシメ其ノ頃同人方ニ於テ同人

ヨリ自己ニ其ノ賣買代金名義ノ下ニ金四千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二)乃至(五)省略

第四、被告人油利木信象ハ山本多吉及原審相被告人高木仙爾ト共謀ノ上前記植田和一ニ對シ仙爾所有ノ銅造菩薩立像(領置第五十七號證第四號)文珠菩薩普賢菩薩像二幅(領置第五十七號證第五號)大般若波羅密多經一卷(領置第五十七號證第六號)ノ計四點時價合計數百圓ノモノヲ恰モ舊家ナル被告人信象方ノ家寶ノ如ク申欺キ賣買代金名義ノ下ニ和一ヨリ金員ヲ騙取セントヲ企テ昭和十三年二月二十五日頃被告人信象カ神戸市榭屋旅館ニ於テ植田和一ニ對シ埋立事業ニ失敗シタル爲メ先祖傳來ノ秘藏品ヲ處分スルモノナレハ右佛像等ヲ金三萬圓ニテ買取ラレ度キ旨申欺キ和一ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ自己トノ間ニ右佛像等ニ付賣買契約ヲ締結セシメ同日同旅館ニ於テ和一ヨリ自己ニ其ノ賣買代金名義ノ下ニ金一萬五千二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第五、被告人油利木信象、永作好生ハ共謀ノ上

(一) 前記植田和一カ田舎ノ舊家所藏ノ先祖傳來ノ品ナルニ於テハ偽物ニアラス且ツ高價ナルモノナリト信シ居ルヲ奇貨トシ前田太郎等ヨリ入手セル銅造菩薩立像一體(領置第五十七號證第八號)四天王像二幅(領置第五十七號證第九號)阿彌陀如來像一幅(領置第五十七號證第十號)被告人信象所有ノ落雁圖一幅(領置第五十七號證第十一號)カ時價合計百數十圓ヲ出サルニ拘ラス舊家所藏ノ高價ナル先祖傳來ノ逸品ナル如ク申欺キ賣買代金名義ニテ和一ヨリ金員ヲ騙取セントヲ企テ被告人信象カ舊家ノ主人ヲ被告人好生カ附添人ヲ裝ヒ昭和十三年三月上旬頃神戸市大森旅館ニ於テ植田和一ニ對シ公有水面埋立事業認可申請ノ資金ニ窮シタル爲メ信象方ノ秘藏品ヲ手離ス

ヘキニヨリ右佛像等ヲ買取ラレ度キ旨申欺キ和一ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ信象トノ間ニ右佛像外四點ニ付賣買契約ヲ締結セシメ其ノ頃和一方ニ於テ同人ヨリ信象ニ其ノ賣買代金名義ノ下ニ金七千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二)省略

第六、被告人油利木信象ハ

(一) 前記植田和一カ前記ノ如ク信シ居ルヲ奇貨トシ同人ニ對シ他ヨリ買入レタル銅造菩薩立像一體(領置第五十七號證第十七號ノ一)銅造菩薩半迦像一體(領置第五十七號證第十七號ノ二)カ孰レモ明治以後ノ作ニシテ時價合計二百數十圓ヲ出テサルニ拘ラス何レモ古代ノ高價ナル逸品ニシテ舊家ノ秘藏品ナル如ク申欺キ前同様和一ヨリ金員ヲ騙取セントヲ企テ昭和十三年四月中旬頃植田和一一方ニ於テ同人ニ對シ右佛像ハ舊家ナル三重縣一志郡宇氣郷村村長永井菊次郎カ先祖傳來秘藏セルモノニシテ財政整理ノ爲手離スヘキニヨリ金七千圓位ニテ買取ラレ度キ旨申欺キ植田和一ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ右佛像ヲ金五千圓テ買受クヘキ旨ノ賣買契約ヲ締結セシメ次テ永井名義ノ手付金額領收證及信象ヲシテ秘藏品ノ處分方ヲ依頼シタルニヨリ宜敷ク頼ム旨ノ添書ヲ植田和一宛發送シ以テ益々和一ヲ誤信セシメタル上同年五月十二日頃同人方ニ於テ同人ヨリ自己ニ其ノ賣買代金内金及手数料名義ノ下ニ合計金三千百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(二)省略

第七被、告人永作好生ハ

(一) 前記植田和一ニ對シ前記群鹿堂ヨリ買入レタル銅造菩薩半迦像一體(領置第五十七號證第二十四號)カ明治以

後ノ作ニシテ時價二百圓ヲ出テサルニ拘ラス高價ナル逸品ニシテ舊家ノ秘藏品ナル如ク申欺キ前同様金員ヲ騙取
 センコトヲ企テ昭和十三年四月中旬頃前記大森旅館ニ於テ植田ニ對シ右佛像ハ三重縣飯南郡花岡町畫家垣本春甫
 カ先祖傳來秘藏セルヲ處分スルモノナレハ金二千圓ニテ買取ラレ度キ旨申欺キ且春甫ヲシテ其ノ秘藏佛像ヲ自己
 ニ賣却方一任シタル旨添書ヲ作成セシメテ之ヲ植田和一ニ示シ同人ヲシテ其ノ旨誤信セシメテ自己トノ間ニ右佛
 像ヲ金千八百圓ニテ買受クヘキ旨ノ賣買契約ヲ締結セシメ其ノ頃和一方ニ於テ同人ヨリ自己ニ其ノ手付金名義ノ
 下ニ金千圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

(一)省略

タルモノニシテ被告人長繩領一ヲ除ク爾餘ノ被告人等ノ右所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルモノナリ

尙被告人長繩領一ハ昭和八年五月八日岐阜區裁判所ニ於テ常習賭博罪ニ因リ懲役三月同年六月二十一日名古屋控訴院
 ニ於テ有價證券虛偽記入、虛偽記入有價證券行使變造有價證券行使詐欺、詐欺未遂罪ニ因リ懲役一年、(但シ昭和九年
 二月勅令第十九號ニ因リ懲役十一月二十三日ニ變更サル)ニ處セラレ當時右各刑ヲ併セテ其ノ執行ヲ受ケ終リタルモ
 ノナリ

證據ヲ按スルニ

判示第一ノ事實ハ

一、被告人長繩領一ノ當公廷ニ於ケル判示佛像カ高木仙爾ノ所有ニ係リ明治以後ノ作ニシテ時價三、四百圓ヲ出テサルモノナル
 點ヲ除キ判示同趣旨ノ供述

一、被告人長繩領一ニ對スル豫審第二回訊問調書中(記録第八冊九二九丁以下)同人ノ供述トシテ昭和十三年七月九日頃小野木ト
 二人テ岐阜ノ福田方ヘ行キタルトコロ福田ハ木村ヲ呼ビ四人一緒ニナリタルトコロニ福田カ土地ヨリモ手取り早ク金儲ケカ
 アル夫レハ骨董ノ佛像ヲ水野ニ賣込ムコトニテ扇屋ニテ飯ヲ食ヘナカラ夫レトナク水野ニ古美術ノ話ヲシテ脈ヲ引イテ見タカ
 アノ男ナラ確カニ買フ男タアノ男ハ慾カ深イカ什ウカト云ヒタル故自分ハ水野ハ金貸ヲスル位ナ男タカラ慾ノ深イ事ハ判リ居
 ルカ骨董ハヤラヌカラ駄目タラウト云ヒタリスルト福田ハ必ス買フ様ニ仕向ケルカラ君等ハ君等テ良イト思フ人ヲ佛像ノ持主
 ニ仕立テ置キ呉レ左様スレハ僕等ノ方テ水野ニ買ハセル様ニ仕向ケルカラ水野ノ方ヘハ持主カ金ニ困リ止ムヲ得ス大切ナ佛像ヲ
 抵當ニ金融ヲ頼ンタカラト云フコト云フテ置イテ貰ヘハ僕等カ此ノ次ニ土地ノ話ニ行ツタ時其ノ佛像ヲ非常ニ高價ナ物デア
 ル様ニ賞メ上ケテ置クカラ君達テ持主カラ頼マレテ居ルコトニシテ金ヲ貸シテ呉レル様ニ話込ミ呉レト云ヒ木村カラハ特ニ細
 カイ話ハナカリシモ時々合榷ヲ打チ居リタリ自分ハ小野木ト相談シ津田安五郎ヲ持主ニスルコトトシテ其ノ日福田、小野木、
 自分ノ三人ニテ福田カ佛像ヲ持チ津田方ヘ行キ自分ハ津田ニ其ノ佛像ノ持主ニナリ呉レト云ヒ福田ハ立派ナ品物テ他ヘ一萬五
 千圓ニ賣リアリタルモノタカ若シ賣レタラ儲ケハ山分ケニスルト云ヒタリ津田ハ元ハ幾ラタト聞キタル故自分ハ元ハ千五百圓
 タト云ヒタルカ津田ハ暫ク考ヘタル後持主ニナルコトヲ承諾シタリソレヨリ福田カ色々話ヲ爲シ三千圓カ四千圓ニ賣ラネハイ
 カヌトカ木村カ實際ノ持主タカ萬一ノ場合ハ木村ハ金持タカラ津田ニ迷惑ノ掛ラヌ様ニ解決スルト云ヒタル上持主ハ津田ト決
 ツタカ津田カ其ノ佛像ヲ何處カラ手ニ入レタカト云フコトヲ打合セテ置カヌト先方カラ怪マレルト云フ意味ノ事ヲ申シタル處
 津田カソレハ考カアル實ハ尾張ノ樂田ニ伯父カ製絲ヲヤツテ居タカ失敗シテ二、三年モ其處テ働イテ居タ自分ニ何モ報スルト
 コロカナイカラ大切ナ佛像ヲ家ニ置イテハ差押ヘラレルカラ呉レテヤルト云フテ貰ヒ受ケタコトニ仕樣ト云ヒタリ福田ハソレ
 ナラハ良イト云ヒ明日早速水野ヲ連レ來テ見セテ遣ツテ呉レト云ヒ其ノ佛像ヲ置キ行キタル旨ノ記載

三三三 詐 欺

一、原審第一回公判調書中原審相被告人福田泰一ノ供述トシテ判示同趣旨ノ記載
 一、原審第四回公判調書中原審相被告人高木仙爾ノ供述トシテ福田泰一、長繩領一、小野木武助等ト共謀シ判示證第二十七號ノ
 一ノ佛像ヲ種ニ判示水野壽一ヲ判示ノ如ク欺罔シ同人ヨリ金三千八百五十圓ヲ騙取シタルコトハ相違ナシ自分ハ判示水野壽一
 ヨリ判示佛像ノ鑑定ヲ求メラレ推古時代ノ作ニテ二萬圓以上七萬圓位モスルモノテアリ場合ニ依ツテハ自分カ轉賣シテモ良イ
 ト申シタルカ其ノ佛像ハ明治時代ノ作ナル旨ノ記載
 一、原審相被告人高木仙爾ニ對スル豫審第四回訊問調書中(記錄第八冊一〇七六丁)同人ノ供述トシテ水野壽一ニ賣リタル佛像ハ
 中島勘次郎ヨリ手ニ入レタルモノニテ値打ハ三、四百圓位ノモノト思フ旨ノ記載
 一、證人水野壽一ニ對スル豫審訊問調書中同人ノ供述トシテ判示ニ照應スル被害願末ノ記載
 ヲ綜合シテ之ヲ認メ

(中略)

犯意繼續ノ點ハ孰レモ判示期間内ニ同種ノ行爲ヲ反覆果行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム
 被告人長繩領一ノ前掲前科並ニ其ノ受刑終了ノ事實ハ被告人ニ對スル前科調書(記錄第五冊八〇一丁)中判示前科ノ記
 載及原審第二回公判調書中被告人長繩領一ノ供述トシテ判示前科ノ刑ハ併セテ其ノ執行ヲ受ケタルモノナル旨ノ記載
 ニ依リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ各刑法第二百四十六條第一項ニ尙共犯ノ點ハ同法第六十條ニ該當スルトコロ被告
 人長繩領一ヲ除ク爾餘ノ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ犯意繼續ニ係ルヲ以テ各同法第五十五條ニ依リ一罪ト爲シ被告

人長繩領一ニハ前掲前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ニ依リ累犯加重ヲ爲シ各其ノ所定期刑範圍内ニ
 於テ被告人長繩領一、中島勘次郎、油利木信象、永作好生ヲ各懲役壹年ニ被告人松尾秀觀ヲ懲役拾月ニ處シ同法第二
 十一條ニ依リ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人中島勘次郎ニ對シ百日、被告人油利木信象、永作好生ニ對シ各百貳
 拾日、被告人松尾秀觀ニ對シ百五拾日ヲ孰レモ右各本刑ニ算入シ尙被告人松尾秀觀、油利木信象、永作好生ニ對シテ
 ハ刑ノ執行猶豫ヲ爲スヲ相當ト認メ各同法第二十五條ニ則リ孰レモ本裁判確定ノ日ヨリ四年間右各刑ノ執行ヲ猶豫ス
 ヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ主文末項ノ如ク被告人等ヲシテ夫々負擔セ
 シムヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年七月四日

名古屋控訴院第〇刑事部

三三三 詐欺

判決

本籍並住居

山梨縣南都留郡下吉田町下吉田二百四十六番地

甲斐絹問屋業

渡

邊

是

當五十一年

本籍 愛媛縣東宇和郡下宇和村大字皆田三番耕地二百六十番地
住居 東京市豊島區雜司谷町四丁目六百二十七番地

書畫骨董ブローカー

松本喜久馬

當四十六年

本籍 山梨縣南都留郡東桂村夏狩二千二百二十番地
住居 同縣同郡下吉田町下吉田五千七百七十三番地

豆腐製造販賣業兼古物商

相川要吉

當四十三年

本籍 東京市淺草區駒形一丁目二番地ノ一
住居 同市下谷區竹町百三十七番地

書畫假卷製造販賣業

關五郎

當五十六年

本籍並住居 山梨縣南都留郡東桂村夏狩二百四十番地

僧侶

武藤惠詮

當三十四年

本籍 山梨縣南都留郡下吉田町下吉田三百二十一番地

住居 同縣同郡同町下吉田五千七百七十六番地

古物商 渡邊益三 當五十二年

主 文

右六名ニ對スル詐欺被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與ノ上審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

被告人渡邊晃同松本喜久馬同相川要吉ヲ各懲役十月ニ被告人關五郎ヲ懲役八月ニ被告人武藤惠詮同渡邊益三ヲ各懲役六月ニ處ス

但シ被告人渡邊晃同松本喜久馬同相川要吉同關五郎ニ對シ未決勾留日數中各百日ヲ被告人武藤惠詮同渡邊益三ニ對シ未決勾留日數中各百二十日ヲ右各本刑ニ算入ス

訴訟費用中證人渡邊明矩、渡邊豐雄、角田龜次、三浦武敏、秋山宗治、高山つね代、高山三雄、植松信重(第一、二回)栗山好夫、灘谷滿太郎、武藤壽利及鑑定人小神野道風ニ支給シタル部分ハ被告人渡邊晃同松本喜久馬同相川要吉同關五郎ノ連帶負擔トシ證人牛田知章、渡邊七明ニ支給シタル部分ハ被告人松本喜久馬同相川要吉同武藤惠詮同渡邊益三ノ連帶負擔トシ其ノ餘ハ全部被告人等ノ連帶負擔トス

理 由

第一、被告人渡邊晃同松本喜久馬同相川要吉同關五郎ハ大河原一二ト共謀ノ上山梨縣北巨摩郡葦崎町二千七十五番地岩下恭平ニ於テ被告人渡邊晃ニ資産アリ且ツ嘗テ同人ニ刀劍等ヲ賣却シタル關係ヨリ深く同人ヲ信用シ同人ニ對シ自己所藏ノ書畫骨董類ヲ賣却セムトノ希望アルニ乘シ茲ニ岩下ニ對シ被告人等一部ノ者ニ於テ恰好ノ書畫ヲ岩下方ニ

持込ミテ之ヲ買取ラレ度旨申入レテ預ケ置キ其ノ後他ノ被告人等ニ於テ全ク之ト連絡ナクシテ岩下ノ所藏品ヲ買受クル希望アルモノノ如ク裝ヒ其ノ閱覽ヲ求メ其ノ際右持込品ヲモ高價ニ買取ルヘキ旨申許リ因テ岩下ヲシテ同書畫ヲ買取ルニ於テハ直チニ高價ニ轉賣シ得ルモノト誤信セシメテ其ノ買受代金名義ニテ金員ヲ交付セシメテ其ノ買受代金名義ニテ金員ヲ交付セシムル所謂鹽廻シノ方法ヲ以テ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十三年六月十六日頃大河原及被告人關ノ兩名ハ山梨縣南都留郡下吉田町下吉田二百四十六番地被告人渡邊見方ヨリ同人所有ニ係ル狸々曉齋ノ落款アル人物畫大幅絹本一點(昭和十三年押第五七號ノ六)無落款ノ佛畫大幅絹本一點(同號ノ五)竹田ノ落款アル山水畫尺五絹本一點(同號ノ四)及無名ノ落款アル山水畫尺五絹本雙幅一點(同號ノ一六)ヲ搬出シ同月十八日頃右四點ト共ニ被告人關所有ニ係ル雅邦ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ一)大觀ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ三)及大河原所有ニ係ル百穂ノ落款アル山水畫尺八絹本一點(同號ノ二)ヲ岩下方ニ持參シ同人ニ對シ之等ハ孰レモ長野縣松本市ニ在住スル大河原ノ叔父某ノ所藏品ナルカ同人ニ於テ差迫リタル金錢ノ必要上之ヲ他ニ賣却處分セントスル品ナル付是非買取ラレ度旨申入レテ預ケ置キ翌十九日頃被告人松本同相川ノ兩名ハ岩下方ニ到リ同人ニ對シ自分等ハ被告人渡邊見ノ依頼ニ依リ岩下所藏ノ書畫骨董類買受ノ下見ニ參リタルモノニシテ殊ニ松本ハ東京ヨリ來レル書畫骨董ノ鑑定家ナリト詐稱シテ岩下ノ所藏品ヲ前記大河原等ノ持込品ト共ニ見分シ就中前述ノ人物畫及佛畫ハ大幅ニシテ渡邊見ニ向ク珍品ナリト賞揚シタル上該持込品中無名ノ落款アル山水畫雙幅一點以外ノ六點ヲ含ム三十四點ノ書畫骨董類ヲ代金五萬圓ニテ數日中ニ渡邊見ニ賣却方ノ周旋ヲ爲スヘシト申欺キ同月二十二日頃被告人渡邊見ハ被告人松本同相川ヲ同伴シテ岩下方ニ到リ眞實買受クル意思ナキニ拘ラス右三十四點ヲ數時間ニ亘リテ入

念ニ吟味スル態ヲ爲シタル後殊更ニ前記持込品以外ノ五點ヲ除キタル殘餘ノ二十九點ヲ代金五萬一千圓トシテ同月二十五日現金引換ニ引取りニ來ルヘキニ付賣渡シアリ度旨申許リ因テ岩下ヲシテ右六點ノ持込品ヲ買受クルニ於テハ必ス前述ノ如ク被告人渡邊見ニ高價ニ轉賣シテ利益ヲ擧ケ得ルモノト誤信セシメ之カ爲大河原及被告人關トノ間ニ右六點ニ付賣買契約ヲ締結セシメ同月二十四日岩下方ニ於テ大河原及被告人關ノ兩名ニ買受代金名義ノ下ニ金七千五百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第二、被告人松本喜久馬同相川要吉同武藤惠詮及同渡邊益三ハ共謀ノ上山梨縣南都留郡下吉田町下吉田二百四十六番地渡邊見カ豫テ同縣同郡東桂村夏狩二百四十番地所在長慶寺本堂ニ安置セラレアル同寺ノ本尊藥師如來ノ木像一體ハ國寶的價值アル古美術品ナリトシテ之ヲ入手センコトヲ熱望シ居ルヲ奇貨トシ同木像賣渡シニ名ヲ藉リテ渡邊見ヨリ金品ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和十三年五月十四日頃被告人松本同武藤ノ兩名ハ同縣同郡瑞穂村新倉二百九十四番地料理店兼旅館業赤坂別館事渡邊きみゑ方ニ於テ渡邊見ニ對シ其ノ眞意ナキニ拘ラス右本尊ノ木像ヲ賣却スル意向アル旨申聞ケ同年六月九日頃被告人渡邊益三ニ於テ東京市淺草區南元町四十四番地齊藤常隆方ヨリ臺座ノ上ニ結跏趺坐シ身長約九寸ニシテ光背ヲ有スル金箔塗リノ木像一體(昭和十三年押第五七號ノ一五)ヲ買求來リ之ヲ情ヲ知ラサル大河原一二ニ託シテ東京市殘草區菊屋町内ノ某佛具店ニ注文シ該佛像ノ眉間及頭部ニ各一個ノ白毫ヲ描入セシメ同年七月二日頃之ヲ前記長慶寺ニ持參シテ被告人武藤ニ渡シ同被告人ハ同月三日頃同寺本堂ノ須彌壇上ノ厨子内ニ安置セラレアル本尊ノ木像ヲ取出シテ其ノ跡ニ被告人渡邊益三ノ持込ミタル右佛像ヲ差入レ置キ同月六日頃午後八時頃被告人松本ハ渡邊見ヲ同所ニ案内シ被告人武藤ト共ニ渡邊見ニ對シ厨子内ニ現存スル前記差替置キタル佛

像ヲ以テ右長慶寺ノ本尊ナリト申許リ下見セシメタル上渡邊晃ヲシテ同佛像ハ該本尊ニシテ同寺ノ住職タル被告人武藤ニ於テ之ヲ賣渡ス意思アルモノト誤信セシメ因テ其ノ後同月十八日頃迄ノ間被告人松本同相川及同武藤ト交々交渉ノ末現金一千圓ヲ支拂フ外被告人武藤ノ渡邊晃ニ對スル借用金債務ヲ免除スル等ノ對價ヲ以テ右佛像ヲ買受クル旨ノ申入ヲ爲サシメ同日午後九時頃被告人松本同相川ハ渡邊晃ト共ニ自動車ニテ長慶寺ヨリ數丁ヲ距ツル國道八號線ノ道路端ナル前記夏狩部落内通稱山梨塚ニ到リ同所ヨリ徒歩ニテ被告人松本同相川ノミ長慶寺ニ赴キ被告人武藤ト共ニ前記厨子内ノ佛像ヲ搬出シテ右山梨塚ニ立戻リ同所ニ待受ケ居ル渡邊ニ之ヲ提示シ前ニ下見セシメタル佛像ト相違ナキヲ確メシメタル後之ト引換ヘニ代金名義ノ下ニ金一千圓ヲ被告人相川ニ交付セシメテ之ヲ騙取シタルモノ

ニシテ右被告人松本同相川ノ第一、第二ノ詐欺ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス
證據ヲ按スルニ判示第一ノ事實ハ

- 一、被告人松本同相川同關ノ當公廷ニ於ケル各自關係部分ニ付判示同旨ノ供述
- 一、被告人渡邊晃ノ當公廷ニ於ケル大河原及被告人關ノ兩名カ昭和十三年六月十六日自分方ヨリ判示猩々曉齊ノ落款アル人物畫大幅絹本一點無落款ノ佛畫大幅絹本一點竹田ノ落款アル山水畫尺五絹本一點及無名ノ落款アル山水畫尺五絹本雙幅絹本一點合計四點ヲ持出シタルコトハ相違ナキ旨同年六月二十二日午前十時頃被告人松本カ自分方ヘ來リ判示岩下方ニ於テハ珍品カアルカラ見ニ行カヌカト申シ誘ヒタルヨリ自分ハ同日被告人松本同相川ノ二人ト共ニ判示岩下方ヘ書畫ヲ見ニ行キ右無名ノ落款アル山水畫尺五絹本雙幅一點ヲ除ク其ノ餘ノ三點ヲ含メタル書畫骨董二十九點ヲ代金五萬一千圓ニテ買受ケ同月二十五日代金ヲ持參品物ヲ引取りニ來ルヘキ旨約シタルモ其ノ後右代金ヲ支拂ハサル旨ノ供述

一、證人岩下恭平ニ對スル第一回乃至第三回豫審訊問調書ヲ通シテ同人ノ判示事實ニ照應スル詐欺被害額末ノ供述記載ヲ綜合シテ之ヲ認メ

判示第二ノ事實ハ

- 一、被告人松本同相川同武藤同渡邊益三ノ當公廷ニ於ケル各自關係部分ニ付判示同旨ノ供述
 - 一、被告人渡邊晃ノ當公廷ニ於ケル判示ニ照應スル詐欺被害額末ノ供述
- ヲ綜合シテ之ヲ認メ

犯意繼續ノ點ハ被告人松本同相川カ判示短期間内ニ同種行爲ヲ反覆累行シタル事跡ニ徴シ之ヲ認ム
仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ夫々刑法第二百四十六條第一項第六十條ニ該當スルトコト被告人松本同相川ノ判示第一第二ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ連續一罪ト爲シ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人渡邊晃同松本同相川ヲ各懲役十月ニ被告人關ヲ懲役八月ニ被告人武藤同渡邊益三ヲ各懲役六月ニ處スヘク同法第二十一條ニ依リ被告人渡邊晃同松本同相川同關ニ對シ未決勾留日數中各百日ヲ被告人武藤同渡邊益三ニ對シ未決勾留日數中各百二十日ヲ右各本刑ニ算入スヘク訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文末項記載ノ如ク被告人等ヲシテ負擔セシムヘキモノトス
仍テ主文ノ如ク判決ス

昭和十五年三月五日

三二四 詐欺、同未遂、恐喝未遂、傷害、横領

判決

(本籍住居省略)

甲府地方裁判所刑事部

木材監督

重見直衛

明治三十三年十一月一日生

竹細工職

黒田稔

明治三十一年二月二日生

農

加藤國太郎

明治二十七年五月二十八日生

農

菅卯太郎

明治十一年三月二十四日生

農

菅福光

明治三十五年一月二十二日生

農

勝本豊

駄賃持

明治三十二年六月二十一日生

大森新一郎

明治三十年四月十日生

盛雄事

加藤盛男

明治三十六年十一月二十五日生

農

大野猿待

明治十五年六月十七日生

浪警事

洗張業

青木文次郎

明治三十六年六月十五日生

朝鮮人藝行商

朴七鳳

明治二十六年八月七日生

吳海軍工廠雇

松末剛

明治三十二年一月二十六日生

屑物買

石川庄松

明治十九年十月十七日生

三二四 詐欺、同未遂、恐喝未遂、傷害、横領

ソース醸造販賣業

高岡貞雄

農

明治三十三年十一月一日生
津野田藤市

農

明治三十三年一月十一日生
徳田友之進

木炭商兼藥繩製造販賣業

明治二十三年三月二日生
山崎熊吉

無職

明治二十九年二月十日生
三森唯一郎

料理屋業

明治二十六年三月十日生
木村正勝

貨物自動車營業カフエー營業

明治二十九年五月二十二日生
菊山秀雄

海產物商

明治三十六年九月五日生
松野敬太郎

農

明治三十一年四月二十七日生
坂本廣重

右被告人重見直衛ニ對スル詐欺、詐欺未遂、恐喝未遂、強盜未遂、強盜傷人、官職詐稱、被告人黒田稔ニ對スル詐欺、詐欺未遂、恐喝未遂、強盜未遂、強盜傷人、被告人加藤盛男ニ對スル詐欺、横領、爾餘ノ各被告人ニ對スル詐欺各被告事件ニ付當裁判所ハ檢事某關與審理判決スルコト左ノ如シ

主 文

被告人國太郎ヲ判示第四乃至第八及第十一掲記事實ニ付懲役四月ニ爾餘ノ判示事實ニ付懲役三年ニ
被告人貞雄ヲ懲役三年ニ

三一四 詐欺、同未遂、恐喝未遂、傷害、横領

明治三十四年十二月二十七日生

大西福松

明治十年十二月一日生

南伴藏

明治三十一年三月十一日生

松岡七五郎

明治三十一年八月八日生

三好佐一郎

明治三十年三月二十五日生

被告人稔ヲ判示第五、六及第八掲記事實ニ付懲役四月ニ爾餘ノ判示事實ニ付懲役二年六月ニ

被告人盛男ヲ懲役二年六月ニ

被告人直衛、庄松ヲ各懲役二年ニ

被告人佐一郎ヲ判示第一掲記事實ニ付懲役三月ニ爾餘ノ判示事實ニ付懲役一年六月ニ

被告人福光、新一郎ヲ各懲役一年六月ニ

被告人豊ヲ判示第四乃至第六及第十一掲記事實ニ付懲役四月ニ爾餘ノ判示事實ニ付懲役一年ニ

被告人藤市、正勝ヲ各懲役一年二月ニ

被告人七五郎ヲ判示第二、第三掲記事實ニ付懲役八月ニ判示第十六掲記事實ニ付懲役六月ニ

被告人卯太郎、猿待、友之進、熊吉、廣重ヲ各懲役一年ニ

被告人朴七鳳、秀雄、敬太郎、福松ヲ各懲役十月ニ

被告人文次郎、剛、唯一郎、伴藏ヲ各懲役八月ニ

各處ス

但文次郎、剛、唯一郎、秀雄、敬太郎以外ノ各被告人ニ對スル未決勾留日數中被告人貞雄ニ對シテハ三百五十日ヲ被告人盛男、福光ニ對シテハ各四百五十日ヲ被告人直衛ニ對シテハ五百日ヲ被告人庄松ニ對シテハ四百二十日ヲ被告人新一郎ニ對シテハ四百八十日ヲ被告人藤市ニ對シテハ三百六十日ヲ被告人正勝ニ對シテハ三百三十日ヲ被告人友之進、熊吉ニ對シテハ三百日ヲ被告人七五郎ニ對シテハ二百日ヲ懲役八月ノ本刑ニ被告人猿待ニ對シテ

ハ百日ヲ被告人廣重ニ對シテハ百五十日ヲ被告人朴七鳳ニ對シテハ百七十日ヲ被告人福松、伴藏ニ對シテハ二百日ヲ右各本刑ニ被告人國太郎ニ對シテハ五百五十日ヲ右懲役三年ノ本刑ニ被告人稔ニ對シテハ六百五十日ヲ右懲役二年六月ノ本刑ニ被告人佐一郎ニ對シテハ四百二十日ヲ右懲役一年六月ノ本刑ニ被告人豊ニ對シテハ三百五十日ヲ右懲役一年ノ本刑ニ七十日ヲ右懲役四月ノ本刑ニ被告人卯太郎ニ對シテハ右刑期ノ全部ニ相當スル日數ヲ右本刑ニ各算入ス

被告人文治郎、剛、唯一郎、秀雄、敬太郎ニ對シテハ本裁判確定ノ日ヨリ各四年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス

訴訟費用中證人玉乃井信木ニ支給シタル分ハ被告人豊、猿待、文四郎、證人高岡鶴市ニ支給シタル分ハ被告人國太郎、福光、朴七鳳、證人大野順次郎(但昭和九年七月十一日ノ分)平岡政直ニ支給シタル分ハ被告人直衛、同稔、國太郎、證人遠藤國吉、近藤ハルコニ支給シタル分ハ被告人國太郎、稔、豊、證人木山玉吉ニ支給シタル分ハ被告人國太郎、豊、證人大野順次郎(昭和九年七月十八日ノ分)支給シタル分ハ被告人國太郎、卯太郎、稔、證人木山義則ニ支給シタル分ハ被告人豊、福光、證人大野芳一、高岡熊太郎ニ支給シタル分ハ被告人豊、福光、國太郎、證人大森柳吉ニ支給シタル分ハ被告人盛男、廣重、七五郎、證人池田勘重郎、千葉京一、小林虎吉、沖田健吉、玉井直義、青木鶴五郎、増田サ、エ、小野源太郎ニ支給シタル分ハ被告人盛男、廣重、證人西原喜三郎ニ支給シタル分ハ被告人盛男、庄松、證人小泉武市ニ支給シタル分ハ被告人廣重、福松、證人黒田友次ニ支給シタル分ハ被告人卯太郎、福光、證人大野順次郎(但昭和九年十一月十四日ノ分)矢鶴吉太ニ支給シタル分ハ被告人福光、卯太郎、國太郎、證人山根俊助、田中重次郎ニ支給シタル分ハ被告人稔、國太郎、福光、盛男、證人菅又

三二四 詐欺、同未遂、恐喝未遂、傷害、横領

五郎ニ支給シタル分ハ被告人國太郎、卯太郎、猿待、證人重藤好松ニ支給シタル分ハ被告人國太郎、卯太郎、盛男、證人後藤梅二ニ支給シタル分ハ被告人猿松、庄松ノ各連帶負擔トシ證人後藤タマエニ支給シタル分ハ被告人猿待、證人松村庄松ニ支給シタル分ハ被告人佐一郎ノ各負擔トス

理・由

第一、被告人三好佐一郎ハ昭和四年八月頃伊豫郡砥部町谷田甚藏方ニ於テ同人、西村富徳、小部谷徳雄、外一名ト共ニ「オイチヨカブ」(又ハ「カブ」或ハ「ヨシ」)ト稱スル賭博ニ藉口シ大内勝ト輸贏ヲ争ヒ其ノ際被告人佐一郎ニ於テ隨時欺罔手段ヲ施用シ大内勝ヲ欺罔シ以テ同人ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ共謀ノ上即時同所ニ於テ大内勝ト共ニ金錢ヲ賭シ四枚撒「オイチヨカブ」賭博ヲ開始シタルカ元來該賭博ハカブ札四十枚若クハ之ニ代ハルヘキ花札ヲ使用シ該札全部ヲ伏セ重ネ(之ヲ山札ト稱ス)タル上賭博ノ定法ニ遵ヒ右山札中ノ上部ヨリ場ニ三枚若ハ四枚ヲ曝シテ撒札トシ(撒札三枚ノ場合ヲ三枚撒カブ四枚ノ場合ヲ四枚撒カブト稱ス)張方ハ右撒札中任意ノ個所ニ金錢ヲ賭シ次テ胴親及張方トモ所定ノ札ノ配付ヲ得タル上親ハ配付ヲ受ケタル札ノ合計點數又張方ハ此ノ配付ヲ得タル札ト張方ノ賭シタル撒札トノ點ヲ合算シ九點ヲ得タルモノ(合計點數カ十點以上トナリタルトキ八十位ハ切捨ツ)ヲ最高點トシ各人ノ得タル點數ヲ比照シ其ノ多キモノヲ勝者トスルヲ原則トシ別ニ三枚撒カブニ於テハ一及九ノ點ニ相當スル札ヲ合セ得タル場合ヲクツツント稱シ九ノ得點者ニ優勝スル方法ニ依リ勝敗ヲ決スルモノナル所被告人佐一郎ハ右賭博中四枚撒カブ賭博ヲ爲スニ當リ大内勝ニ對シテハ定法ニ遵フ賭博ヲ爲スモノノ如ク裝ヒナカラ其實之ニ反シ被告人カ胴親タルトキ機ヲ見テ自己ノ熟練セル手腕ニ因リ場ニ散亂セル札ヲ集メテ山札ト爲ス際窃カニ右山札中自己ニ

配布サルヘキ順位ト爲ルヘキ個所ニ自ラ勝者ト爲リ得ヘキ札ヲ豫メ挿入シテニ於テ右山札ヲ切りタル後其順序ヲ變セス巧ナル操作ニ依リ該挿入セシ札ヲ自己ニ配付ヲ受ケ因テ札ノ作込ミナル詐術ヲ弄シ勝者ト爲リ又ハ大内勝ノ目ヲ盜ミ窃カニ札一枚ヲ自己ノ手掌中ニ忍ハセテ持チタル上機ニ應シ該札ト自己ニ配付ヲ受ケタル札トヲ窃カニ擦リ替ヘ以テ右手掌ニ忍ハセタル札ヲ正當ニ配付ヲ受ケタル札ノ如ク利用シ所謂札ノ打替ナル方法ニ依ル詐術ヲ弄シテ勝者ト爲ル方法ヲ講シナカラ其都度大内勝ニ對シテハ紋上ノ如キ不正ナル方法ヲ講セス賭博ノ定法ニ依ル勝負ヲ爲シ偶然被告人佐一郎ニ於テ勝者ト爲リタルモノノ如ク欺罔シ其場ニ於テ大内勝ヨリ賭博勝金名義ノ下ニ合計金八、九十圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第二、被告人七五郎ハ森田庄太郎、樋口春吉ノ兩名カ相諮リ成瀬峰一ニ對シ俗ニ「チヨボ」ト稱シテ親ニ於テ壺中ノ骨子ヲ振り張方ハ其ノ骨子ノ目ニ對シ別ニ一乃至六ノ數ヲ象徴セル六枚ノ目札ノ内任意ノ一枚ヲ場ニ伏セテ之ニ金錢ヲ賭シ此ノ札ノ目ト骨子ノ目ト一致スル時ハ張方ノ勝トシ然ラサルトキハ親ヲ勝トスルヲ定法トセル賭博ヲ裝ヒ俗ニ見テ臭レト稱スル欺罔手段ニ依リ成瀬峰一ヲ欺罔シ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和四年十月十六日頃春吉ニ於テ上浮穴郡弘形村所在峰一方ニ到リ被害者ヲ見テ臭レニ依リ誘引スヘキ常套手段ニ從ヒ同人ニ對シ森田庄太郎ニ於テ大金ヲ所持セルヲ以テ相共ニチヨボ一賭博ニ事寄セ相通シタル一人ハ親ト爲リ他ノ一人ハ子ノ張方ノ目ヲ偷見シ之ヲ適宜ノ方法ニ依リ親ニ内報シ親ハ其内報ニ從ヒ壺中ノ骨子ヲ振出す如ク裝ヒナカラ之ヲ巧ニ壺外ニ出シ指頭ニテ骨子ヲ轉シ又ハ窃カニ壺中ニ手指ヲ差入レテ骨子ヲ轉シ因テ其ノ目ヲ子ノ賭シタル目ヨリ異ナル目ト爲シナカラ子ヲシテ右骨子ハ壺中ヨリ振出サレタル目ナリト誤信セシムル方法ヲ採ルトキハ胴親必勝スヘキニ依リ峰一ニ於テ

賭博胴金ヲ出資シ且右内報役ヲ擔任シ共ニ庄太郎ヨリ金員ヲ利得センコトヲ申向ケ之ヲ承諾セシメタルコトヲ聞知シ直ニ春吉及庄太郎ノ右詐欺行爲ニ加擔シ茲ニ被告人七五郎、春吉、庄太郎ハ共謀ノ上同日夕刻右弘形村山本隆太郎方竄室空屋ニ到リ同所ニ於テ峰一ニハ前示内報役ヲ爲サシメ庄太郎ハ子ノ役ヲ擔當シ被告人七五郎ハ春吉ト共ニ交々親ト爲リ峰一ヨリ胴前金名義ノ下ニ數回ニ亙リ合計金二百六十圓ノ交付ヲ受ケ之ヲ賭金トシテ前示親必勝ノ方法ニ依ル「見テ呉レ」ヲ開始シ親ニ於テ勝續ケ來レル内機ヲ見テ張方ナル庄太郎ニ於テ大金ヲ賭シ且其際賭札ノ三若ハ五ノ目ノ札ノ中央ノ一點ヲ指頭ニテ掩ヒ峰一ヲシテ之ヲ二若ハ四ノ目ノ札ナリト偷見誤認セシメテ其旨ヲ親ニ内報ヲ爲サシメタル上其ノ都度親タリシ被告人七五郎又ハ春吉ハ豫テノ謀議ニ基キ骨子ノ目ヲ内報ヨリ異リタル目ヲ出スニ當リ故ラ三若ハ五ト爲シタル上壺ヲ開ケ因テ子ナル庄太郎ヲ勝者タラシメタルニ拘ラス峰一ヲシテ恰モ同アカ札ヲ見過リテ内報シタル爲偶然庄太郎ニ於テ勝者トナリタルモノノ如ク誤信セシムル方法ヲ反覆シ因テ賭金名義ノ下ニ被告人及春吉ヲ介シ數回ニ右峰一ノ出資セル胴金二百六十圓ヲ庄太郎ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第三、被告人七五郎及森田庄太郎ハ成瀬峰一カ判示第二事實ノ如ク被告人等ニ金員ヲ詐取セラレタルコトニ氣付カス更ニ勝負ヲ爲シ損失金ヲ回復セント焦慮シ居レルニ乘シ再ヒ前同共謀ノ上前同日夜峰一ヲ前記弘形村大字葛ノ下宿屋伊藤叶方ニ誘致シタル上同所ニ於テ被告人ハ親ト爲リ庄太郎ハ子ト爲ラシメ且峰一ヲシテ内報役ヲ擔當セシメタル上前同様ノ方法ニ依リ峰一ヲ欺罔シ因テ同所ニ於テ賭博勝金名義ノ下ニ數回ニ同人所有ノ合計金百三十圓ヲ被告人ヲ介シ庄太郎ニ受取ラシメテ之ヲ騙取シ

第四、被告人國太郎、同豊ハ共謀ノ上判示第二事實記載ト同様ノ方法ニ依リ木山玉男ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコト

ヲ企テ昭和五年七月十日(中略)金拾圓ノ騙取ヲ遂ケ

第五、被告人國太郎、同稔、同豊ハ共謀ノ上前同様ノ方法ニ依リ遠藤國吉ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和五年八月中(中略)金參拾五圓ヲ被告人豊ニ於テ取得シテ騙取ヲ遂ケ

第六、被告人國太郎、同稔、同豊ハ共謀ノ上近藤ハルコヨリ賭博ニ名ヲ藉リテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和五年初秋月日不詳、周桑那櫻樹村大字滑川ナル近藤ハルコ方ニ於テ被告人國太郎、豊ハ、ハルコニ對シ詐欺賭博ニ依リ多額ノ現金ヲ所持セル黒田稔ト勝負ヲ爲シ其所持金ヲ利得セム旨虚構ノ事實ヲ告ケテ胴金二拾圓ヲ出資セシメタル後被告人等ハ俗ニ札ノ六出シ賭博ト稱シ一ヨリ六迄ノ數ヲ各象徴スル骨牌六枚ヲ突キ混セ之ヲ重ネ伏セテ山札ト爲シ張方カ賭金シタル後胴親ニ於テ賽一個ヲ壺ニ伏セテ振り動カシ其ノ出テタル賽ノ目數丈ヲ順次山札ノ上部ヨリ取除キタル次ノ骨牌ノ象徴スル數ト賽ノ目トカ合致スルトキハ子方ノ勝トシ然ラサルトキ及賽ノ目カ六トナリタルトキハ胴親ノ勝トスル賭博ニ名ヲ藉リ前示金貳拾圓ノ騙取ヲ遂ケンコトヲ謀議シ被告人國太郎ニ於テ近藤ハルコニ對シ該賭博方法ヲ解シ右賭博方法ハ賽ノ目カ六ト爲リタルトキ胴親ノ勝ト爲ルヘキ點ニ於テ胴親ニ有利ナルヲ以テ成ルヘク胴親ヲ爲シ且張方トナリタル場合ハ少額ノ賭金ヲ爲ス様留意シツ、勝負ヲ繰返スニ於テハ遂ニ胴親ノ必勝疑ナキモノナル旨申向ケ近藤ハルコヲシテ其ノ旨妄信セシメ且ハルコカ被告人國太郎ニ於テ胴親トナリ前示金貳拾圓ヲ胴金トシテ該賭博ヲ爲スコトヲ承諾シタルヲ以テ同日同所ニ於テ被告人國太郎ハ胴親トナリ被告人稔ニ於テ張方トナリ該賭博ヲ行ヒタルカ元來右賭博ハ骨牌ヲ一ヨリ六迄ノ數字ノ順ニ重ヌルトキハ胴親ノ必勝トナリ六、一、二、三、四、五ノ順ニ重ヌルトキハ子方ノ必勝トナルヘキモノナルニ拘ラスハルコカ此ノ事ニ氣付カサルヲ奇貨トシ被

告人稔ハ謀議ニ基キ機ヲ見テ前示ノ如ク六、一、二、三、四、五ノ順序ニ札ノ作込ヲ爲シ勝者ト爲リタルニ拘ラス之ヲ秘シ恰モ偶然賽ノ目數ト骨牌ノ象徴スル數カ合致シ勝者トナリタルモノノ如ク裝ヒ近藤ハルコヲシテ其ノ旨誤信セシメ因テ其ノ場ニ於テ被告國太郎ヨリ賭博勝金名義ノ下ニハルコカ支出シタル金貳拾圓ヲ被告稔ニ於テ受取り以テ之カ騙取ヲ遂ケ

第七、被告國太郎ハ詐欺賭博ニ依リ大野順次郎ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和五年十一月日不詳被告國太郎ノ肩書自宅ニ於テ順次郎ニ對シ菅卯太郎カ賭事ヲ愛好シ且大金ヲ所持シ居レルヲ以テチヨボ一賭博ニ事寄セ卯太郎ト勝負ヲ爲シ其所持金ヲ利得センコトヲ勸メ且見テ吳レノ定法ヲ説明シタル上其賭博ニ於テ卯太郎ヲ張方トナラシメ札ヲ場ニ曝シ胴親ニ於テ賽ヲ壺ニ伏セテ振り動かストキ巧ニ之ヲ壺外ニ出シ密ニ指頭ニテ賽ノ目ヲ變シ卯太郎ノ賭シタル札ノ數ニ符合セサル賽ノ目ヲ出ストキハ胴親必勝スヘキヲ以テ胴金ヲ支出シテ協力セラレ度シト申向ケ因テ順次郎ヲシテ其ノ旨妄信セシメ胴金支出方ヲ承諾スルヤ國太郎ハ其ノ頃被告國太郎方ニ至リ同人ニ對シ右事情ヲ告ケ且勝負ノ際密ニ俗ニ二五ト稱シ之ヲ動搖セシムルトキハ必ス二ノ目ノ出ル様加工シタル賽ヲ使用シ順次郎ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ謀議シ被告國太郎兩名同道ノ上同月下旬上浮穴郡川瀨村大字直瀨字上直瀨ナル大野順次郎方ニ到リ被告國太郎ハ順次郎ヨリ胴金トシテ金五拾圓ノ交付ヲ受ケ同日共ニ同所字笹ヶ成ノ山林内炭燒小屋ニ到リ被告國太郎ニ於テ胴親トナリ被告國太郎ニ於テ張方トナリ順次郎ノ支出シタル右金五拾圓ヲ胴金トシテ前示チヨボ一ニ事寄セタル賭博ヲ爲シ被告國太郎ハ順次郎ニ解示シタル方法ニ依リ數次勝者トナリ來レル内機ヲ見テ豫テノ謀議ニ基キ被告國太郎ヲシテ二ノ目ニ金圓ヲ賭セシメタル上其ノ使用シ居タル賽ヲ順次郎不知ノ間ニ前示二玉ノ

賽ト摺り代ヘ之ヲ二ノ目以外ノ目ヲ上部ニシテ壺外ニ凭レ掛ケシメ置キタル後壺ヲ開ケタル爲賽ハ二ノ目ニ轉倒シ被告國太郎ノ勝トナリタルニ拘ラス順次郎ヲシテ壺ノ開ケ方ノ拙劣ナリシ爲偶然賽カ二ノ目トナリテ卯太郎ノ勝ト爲リタルモノ、如ク誤信セシメ因テ順次郎出資ノ胴金五拾圓ヲ其ノ場ニ於テ被告國太郎ヨリ被告國太郎ニ於テ受取り以テ之ヲ騙取シ

第八、被告國太郎、同稔、同卯太郎ハ共謀ノ上賭博ニ名ヲ藉リ大野順次郎ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ前示第七事實記載ノ翌々日頃前示順次郎方ニ到リ被告國太郎ニ於テ順次郎ニ對シ再ヒ卯太郎ヲ同道シ來リタルノミナラス今回ハ黒田稔ヲモ連レ來リタルヲ以テ同人トモ協力シ前回同様ノ手段ニ依リ卯太郎ト勝負ヲ爲シ金員ヲ利得セム旨申向ケテ胴金支出方ヲ求メ因テ順次郎ヲシテ其旨誤信セシメテ同人カ胴金支出方ヲ承諾スルヤ被告國太郎等ハ判示第七事實記載ノ二玉ヲ使用スル欺罔方法以外ニ「三四ノベタ」賽ト稱シ之ヲ動搖セシムルトキハ三若ハ四ノ目カ他ノ目ニ比シ現ハレ易キ様加工シタル賽ヲモ混用シ之ニ依リ順次郎ヨリ金員騙取ノ目的ヲ遂ケン旨謀議シタル上同夜被告國太郎、同卯太郎及順次郎ニ於テ同所笹ヶ成ノ避病舎ニ到リ右三名交々互ニ胴親トナリ被告國太郎稔及順次郎ハ共同ノ計算ニ於テ被告國太郎ト勝負ヲ争フコトニ裝ヒ前示チヨボ一ニ事寄セタル賭博ヲ續行シ被告國太郎、稔ハ謀議ニ基キ二玉ヲ用ヒ判示第七事實ト同様ノ欺罔手段及張方カ三若ハ四ノ目ニ金錢ヲ賭シタルトキ親ト爲リタル右被告國太郎三四ノベタ賽ヲ用ヒ賽ノ目ヲ三若ハ四ノ目以外ノ目ヲ上部ニ爲シ置キナカラ壺ヲ開ケタル瞬間該賽ハ顛倒シ三若ハ四ノ目ヲ表ハシ子方ノ勝ト爲ルヘキ方法ニ依リ前同様ノ欺罔手段ヲ交々混用シ因テ之ニ因リ結局被告國太郎卯太郎ノ勝利ニ歸セシメタルニ拘ラス順次郎ヲシテ前同様ニ欺罔シ因テ被告國太郎ニ於テ稔ヲ介シ賭金名義ノ下ニ順次郎ノ

胴金二十圓ヲ受取りテ之ヲ騙取ヲ遂ケ

三七八

第九、被告人貞雄、同友之進ハ共謀ノ上判示第二事實記載ト同様ノ方法ニ依リ三森唯一郎ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ被告人貞雄ハ昭和六年三月十六日三森唯一郎ヲ伊豫郡郡中町河合シモ方ニ誘致シ同所ニ於テ唯一郎ニ對シ判示第二事實記載ノ胴親ノ必勝スヘキ見テ吳レノ方法ヲ解示シ且大金ヲ所持セル者アルヲ以テ右ノ方法ニ依リテ該金持ト勝負ヲ爲シ其所持金ヲ利得セム旨申向ケ唯一郎ヲシテ其ノ旨妄信セシメタル上其ノ翌十七日唯一郎ヲ松山市港町福田旅館ニ誘致シ被告人友之進ハ前示金持ヲ裝ヒテ同旅館ニ到リ同所ニ於テ被告人貞雄ハ胴親トナリ被告人友之進ハ張方トナリ唯一郎ハ内報役ヲ爲シツツ張方ト共ニ金錢ヲ賭スル方法ニ依リテ前示チヨボ一ニ事寄セタル胴親必勝方法ヲ以テ勝負ヲ争ヒ胴親タル被告人貞雄ニ於テ數次勝者トナリ唯一郎カ胴金トシテ用意シ來リタル三百圓全部ヲ張方ノ賭シタル賭金ト共ニ被告人貞雄ニ於テ勝取りタルモ唯一郎ハ一味ノ者タル貞雄ニ於テ勝ヲ利セルモノナルヲ以テ意ヲ體シ引續キ内報役ヲ爲シタル所被告人友之進ハ判示第二記載ノ如ク三ノ札ヲ賭シナカラ唯一郎ヲシテ之ヲ二ノ札ノ如ク偷見セシメテ其ノ旨ヲ誤報セシムル方法ニ依リ被告人友之進ニ於テ勝ヲ得タルニ拘ラス唯一郎ヲシテ過失ニ因リ誤認誤報シタル結果胴親ナル被告人貞雄ノ敗トナリタルモノノ如ク欺罔シ因テ即時被告人友之進ニ於テ賭博勝金名義ノ下ニ被告人貞雄ヨリ前記胴前金全部ノ交付ヲ受ケテ以テ唯一郎所有ニ係ル右金三百圓ノ騙取ヲ遂ケ

第十、被告人貞雄、同友之進ハ右騙取ヲ遂ケタル後三森唯一郎カ猶被告人兩名ニ欺罔セラレタルコトニ氣付カサルニ乘シ前同ト同様ノ方法ニ依リ金員ヲ騙取セムコトヲ謀議シ昭和六年三月二十日(中略)唯一郎所有ニ係ル胴金四百二

十圓ヲ受取りテ之ヲ騙取シ

第十一、被告人豊、同福光、同國太郎ハ共謀ノ上判示第二事實記載ト同様ノ手段ニ依リ木山義則ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和六年八月末頃(中略)金拾圓ノ騙取ヲ遂ケ

第十二、被告人豊、同福光、同國太郎ハ共謀ノ上前同様ノ手段ニ依リ大野芳一ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ被告人國太郎、同豊ノ兩名ハ昭和六年十一月末頃(中略)右金二十圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取ヲ遂ケ

第十三、被告人國太郎、同豊、同福光ハ共謀ノ上前同様ノ方法ニ依リ高岡熊太郎ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ昭和六年十二月末頃(中略)金二十五圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取ヲ遂ケ

第十四、被告人豊、同福光、同國太郎ハ判示第七事實記載ト同様ノ方法ニ依リ大野芳一ヲ欺罔シテ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ被告人豊ハ判示第十二事實記載ノ數日後(中略)金拾五圓ノ騙取ヲ遂ケ

第十五、被告人佐一郎ハ昭和六年十一月二十九日頃温泉郡三津濱町大字榮町井上靜七方ニ於テ矢野荒雄、松村庄松、中矢岩五郎及高津鐵一ト判示第一事實記載ノ三枚撒オイチヨカブ賭博ヲ爲スコトニ藉口シ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ同人等ト順次ニ胴親トナリ勝負ヲ争フニ際シ被告人佐一郎ハ判示第一事實ニ記載シタル所謂札ノ打替ニ依ル詐術ヲ弄シ勝ヲ制シタルニ拘ラス該賭博ノ相手タル子方ヲシテ偶然胴親ニ於テ良キ目ヲ生シタル爲メ勝者ト爲リタルモノノ如ク誤信セシメ即時賭博勝金名義ノ下ニ矢野荒雄、松村庄松、中矢岩五郎及高津鐵一ヨリ合計金約七拾圓ノ交付ヲ受ケテ之ヲ騙取シ

第十六、被告人盛男、廣重、七五郎ハ宮崎春美、大除重太郎ト共謀ノ上判示第二掲記事實ト同様ノ方法ニ依リ大森柳

三二四 詐欺、同未遂、恐喝未遂、傷害、横領

三七九